

平成18年度県内小・中・高・特殊諸学校 校内研究主題

地区	校種	学校名	主題	副主題	内容	公開日
甲府市教育委員会	小学校	甲府市立新紺屋小学校	たくましく創造性豊かな子どもの育成	国語科における「伝え合う力」の育成をめざして	<ul style="list-style-type: none"> ・「伝え合う力」についての共通理解を図り、研究対象領域を決定する。 ・「話すこと・聞くこと」に関する児童の実態調査を行う。 ・指導内容系統表、評価基準を作成する。 ・「伝え合う力」を高めるための具体的な指導方法などを検討する。 ・実践授業を行い仮説の有効性を検証する。 	
甲府市教育委員会	小学校	中道南小学校	これからを生き抜く知恵を身につけていく子どもの育成	「人・もの・お金を大切にし、勤労を尊ぶ」心を育てる学習・実践を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・「人・もの・お金を大切にし、勤労を尊ぶ」心・金銭教育について学習する。 ・「人・もの・お金を大切にし、勤労を尊ぶ」心に関わる内容について、実態把握、年間指導計画を作成する。 ・「人・もの・お金を大切にし、勤労を尊ぶ」心を育てる授業実践を行ったり、家庭と連携し保護者への啓発をする。 ・児童会と連携し、「人・もの・お金を大切にし、勤労を尊ぶ」心を育てるための取り組みを行う。 	金銭教育指定校
甲府市教育委員会	小学校	千塚小学校	学ぶ楽しさを実感し、自ら進んで学ぶ子どもの育成	学びの意欲を引き出す指導と評価の工夫を通して	<ul style="list-style-type: none"> ①理科部会と音楽部会に分かれて17年度の理論の修正・確認を行う。 ・学びの成果を実感する評価方法について ・学びの意欲を向上させる学習指導について ・自己評価により、学びの成果を実感することが意欲の向上につながるのか。 ②各部会から研究主題を受けて研究授業を提案し、指導主事の助言をいただく。 ③公開研究会に向けての授業作り、評価基準の見直し、評価シートの作成を行う。 ④各学級で学びの意欲を向上させる指導と評価の工夫について実践を行い、学習指導のフィードバックを行う。 	(県)学びの意欲向上推進事業(小学校理科・音楽科) 18年11月1日(水)
甲府市教育委員会	小学校	大里小学校	「共に学び、共に育つ、豊かな心を持った大里の子」を育てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を調べる方法を研究し、その実態を明らかにする。 ・児童の実態を踏まえた、道徳の授業を研究する。 ・自己肯定感を高める道徳の授業を研究する。 ・「心に響く」計画的な特別活動を研究する。 	(国)児童の心に響く道徳教育推進校
甲府市教育委員会	小学校	里垣小学校	自ら健康的な生活を実践しようとする子どもの育成	個々の課題を見つめて	<p>昨年度の研究で、自分自身の生活習慣を見つめながら、健康増進の取り組みを行ったことで、子どもたちに健康的な生活についての意識が高まっているので、本年度は、その意識を高め、自分の健康上の課題を見つけ、取り組んでいけるような実践的態度を育てていきたい。</p> <p>そのために、全校的には、生活チェック表を作り、子どもたちに自分の生活の様子をチェックさせると共に、月に1回健康増進週間を設け、健康についての関心・意欲を高めていきたいと考えている。また、機能別部会として、環境整備部会では、健康的な生活を送ろうという意欲がもてるような環境作りを、保健指導部会では、年間保健指導計画の見直しと学習教材・教具の整備を行う。学年部会では、低中高学年部会ごとに、発達段階に応じた力を付けさせるために、取り組みを行う。</p>	甲府市学校保健会
甲府市教育委員会	小学校	羽黒小学校	ともに学び 考え 表現する子どもの育成	子どもの学び合いをさらに高め 考えを深める指導法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ①確かな学力をつけるための教材研究をし、授業構成を工夫する。 ②個の変容をみとるため(評価)方法を工夫する。 ③特別支援教育の継続的な学習・理解。 	
甲府市教育委員会	小学校	中道北小学校	豊かな心を持ち、自ら実践する子どもの育成	～話す力・聞く力を育てる指導を通して～	<p>学習活動に「話す・聞く活動」を位置づけ、指導の工夫を通して「話す力・聞く力」を育てていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」についての理論学習、共通理解、意識調査 ・「話すこと・聞くこと」に視点をあてた授業実践 ・「話すこと・聞くこと」についての重点目標を低中高で設定し取り組み、学年の系統性をはかる。 ・言語に関する学習環境の整備(日常的活動、読書活動) 	
甲府市教育委員会	小学校	琢美小学校	豊かに表現できる子ども	指導と一体化した評価の工夫を通して	<p>自分の思いや考えを、自分の言葉で表現できる子どもをめざし、児童の日常的な言語活動をもとった上で国語科の授業を仕組み、さらに国語科で獲得した力を国語科以外の学校生活全体の中で生かしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)国語科の「話す・聞く」の指導において、「指導と一体化した評価」ができるよう、系統的に評価の観点や方法を工夫すること (2)評価の結果や児童の思いを生かした「話す・聞く」活動の実践 (3)言語環境を整えるための日常的な活動の推進 	

甲府市教育委員会	小学校	伊勢小学校	豊かな心と体を育み、自ら実践できる子どもの育成」	～学校・家庭・地域が連携して行う、食に関する指導を通して～	【各教科等における食に関する指導の充実のための取組】 ①各学校における食に関する指導に係わる全体計画の作成のための情報発信や実践資料集の作成、教職員に対する研修の実施(各種研修会や食育フォーラム) ②学級活動や各教科における栄養士と連携した食育指導の充実 ③小学校の食育推進計画等の作成(市内小中学校へのリーフレットの配布) 【学校と家庭との連携による食に関する指導の充実のための取組】 ①食育通信や学習補助資料等を利用した家庭への啓発活動(学校と家	(国)「栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域の連携による食育推進事業」公開無し
甲府市教育委員会	小学校	湯田小学校	自ら学ぶ児童の育成	学び合う学級づくりを通して	①食育通信や学習補助資料等を利用した家庭への啓発活動(学校と家 (1)学び合う学級づくり ◎研究内容 ○学級経営(日常的な取組) ○学級を育てる場(重点をおいた取組)○授業の戦略(発問・指示・板書・ノートなど)○学級経営…心地よい学びの場を作る日常的な取組 (2)指導に生きる評価 ◎研究内容 ○身につけさせたい力を明確にした問題による実態調査、指導、事後評価 ○一枚ポートフォリオ等を利用し、実態把握(診断的評価)ー学習履歴(形成的評価)ー目標に対する到達(総括的評価) ○「おおむね満足」と評価できるための授業方略 ①身につけさせたい力を明確にした授業内容。 ②身につけさせたい力がつく授業方法 問題解決的な学習、体験的な学習で身につけさせたい力が身に付くのか。教科書を効果的に使った方がよいのではないか。 ◎研究方法 ①理論研究 巖中の一枚ポートフォリオの実践、苅谷剛彦さんのグループの調査など ②日常実践 一枚ポートフォリオを計画的に利用し、児童の実態の把握	学力向上拠点形成事業
甲府市教育委員会	小学校	舞鶴小学校	自ら学び考える子どもの育成	コミュニケーション能力を育てる授業づくりを通して	(1)コミュニケーション能力を育てる基礎の定着 ①朗唱活動充実のための取り組み ②読書習慣を身につけさせるための取り組み (2)コミュニケーション能力を育てる授業の創造 ①各教科、道徳、総合的な学習、特別活動の授業において、コミュニケーション能力を育てる工夫を、どの場面でのどのように仕組むのか考え、実践する。 ②教育用グループウェアの活用推進研究についても、授業づくりの中で積極的に進めていく。	
甲府市教育委員会	小学校	貢川小学校	共創の学び	授業力を問い直す	算数科における「授業力」を改めて問い直す。これは、子どもたちが学校で学んでいる意義を問い直すことにもなる。授業を構成する子ども・教材・教師のあり方について追究し、授業のもつ力・集団で学ぶ意義について授業を通して検証していく。	
甲府市教育委員会	小学校	北新小学校	生きる力を育てる教育活動の創造	命の大切さを学ぶ体験活動を生かして	教職員一人ひとりが個性を發揮し、研究に取り組む。 ①昨年度見直しをした教育過程への位置づけに基づく体験活動の実施。 ②命の大切さを学ばせる体験活動のプログラム及び指導方法の改善・充実。 ③命の大切さを学ばせる体験活動の評価の観点や評価方法についての改善・充実。 ④命に対する意識調査を昨年度と同様に行い、児童の意識の変容を検証する。 ⑤それぞれの教育過程に位置づけられた体験活動の評価の観点や、評価方法についての改善・充実	
甲府市教育委員会	小学校	朝日小学校	楽しく生き生きと学びあう子どもの育成	「関わりあい」「学びあい」を重視した実践から	「楽しく生き生きと学びあう子ども」とは、言い換えると「主体的、意欲的に生活し学習しようとする子ども」のことであり、この「主体性」や「意欲」と言ったものが「学びの原動力」ととらえてきた。朝日小では、子どもの姿の中に「主体性」や「意欲」を見て取っていきけるような授業改善を行うべく研究を進めていきたいと考えている。そのための一つの糸口として本年度は特に「関わりあい」「学びあい」を重視した授業展開を工夫する。「関わりあい」「学びあい」を支えるものはコミュニケーションの力であるととらえ、中でも「きく力」「伝える力」に視点を置く。すなわち授業の中に意図的にこのような場面を取り入れながら、児童の変容を見取っていき	(市)甲府の子どもの教育総合推進校

甲府市教育委員会	小学校	石田小学校	確かな学力を育てる学習活動の研究	国語力を向上させ、伝え合う力を身につけさせることを通して	I 子どもたちの実態や学級集団の状況を正しく把握し、子どもたちの社会性(わからないことはわからないと言えたり、自己の考えを伝えたりするなどの対人関係能力、学習に取り組む構えと習慣など)を高める指導や技術を向上させ、伝え合い学び合う授業を創造すること。 II 学校教育全体を通して、読む・書く・聞く・話すなどの国語力の向上を図る指導を着実にを行い、伝え合う力を高める授業を創造すること。国語科・算数科に焦点を当てて。	(国)(県)学力向上拠点形成事業
甲府市教育委員会	小学校	東小学校	自らの世界を広げ、未来を拓く子どもの育成	英語活動の実践と視聴覚機器の効果的な利用を通して	①英語活動を1年を通して計画していく。英語活動実施時数は、1～2年生 8時間、3～6年生12時間とする。業前学習では、月2回程度「えいごリアン」を中心に実施する。これまでの展開案をもとに、児童の反応や学習環境に留意しながら、どんな内容が適切であり、どんな教材が有効であったのかという視点で活動計画を見直す。ICTを利用しながら、担任がする(担任だけでもできる)英語活動の研究に取り組む。 ②本校の特色の1つであるプラネタリウムを使った授業に取り組む。4年生理科の活動計画を見直し、創造的な授業実践について研究を	
甲府市教育委員会	小学校	相川小学校	自ら気づき考え、生き生きと学び合う子どもの育成	算数科における学び合い活動と自己評価活動の実践を通して	○発達段階にあった学び合い活動と自己評価活動について、系統性を考慮して研究する。 ○授業研究を通して、算数科における学び合い活動と自己評価活動の有効性について研究する。 ・児童の実態を把握する。 ・学習過程にあった学び合い活動を仕組む。 ・学習指導要領の目標に照らした、単元における評価規準を作成し、つまずきのある児童への支援を盛り込む。 ・自己評価活動を取り入れ、毎時間また単元後の児童の変容をみつ	
甲府市教育委員会	小学校	玉諸小学校	豊かな心を持ち、いきいきと表現できる子どもの育成	国語科の書くことと読書活動を通して(3年次)	・低・中・高学年のブロックで説明的文系を中心に、文の内容を捉え、自分の考えや感想、意見を表現する力を育てる授業実践を行う。 ・説明文に関するスキル表(昨年度作成)を活用し、1年～6年までの系統性を見直す。 ・読書について児童の実態を考え、学年ごとに目標を設定し、読書活動を推進する。	
甲府市教育委員会	小学校	大田小学校	「伝え合い、学び合う」児童の育成	学びのための学級づくりを重視して	各教科、領域の指導の中で、伝え合い、学び合いの基礎となる学級における児童の関わり合いを仕組む中で、表現、受け止め、話し合いの手立てを開発・研究し、それを意図的・計画的に実践することで、仮説の有	
甲府市教育委員会	小学校	国母小学校	広い視野を持って自ら学びをひらく子どもの育成	コミュニケーション(伝え合う活動)を取り入れた授業の工夫	これまで本校が校内の機能別組織で取り組んできた学力向上・国際理解・科学教育・環境教育・心の教育における教材開発の成果を生かしながら、さらに一歩踏み込んで、児童一人一人の考える力の発達をみざす授業づくりにつなげてたい。経験や体験を通して得たものを、教師と児童、児童と児童、相互に伝え合い、考えをすりあわせる中で広め、深めていくことを目指す。 *「言葉や表現」に目を向け、国語力を身につけさせるための授業実践	
甲府市教育委員会	小学校	池田小学校	心をたがやす国語力向上に関する研究	論理的な文章で自己表現できる子どもの育成を目指して	本校は、2年間の「心をたがやす国語力向上推進事業」拠点校の任は終えたが、今年度を「研究のまとめと発展の年」と位置づけ、国語力向上をめざす研究を継続している。今年度は、「子どもたちの自己表現」に重点をおき、「相手にわかりやすく説明するためにはどんな書きぶりが効果的か」という意識のもとで説明的な文章の読解を行い、説明の構造を理解した上で論理的な文章で自己表現していく姿をめざして研究を進めて	
甲府市教育委員会	小学校	千代田小学校	たくましく生きる千代田の子の育成(2年次)	自発的読書への支援と伝え合う活動を取り入れた読書活動	・国語力の向上を目指し、児童が自らすすんで本に手を伸ばすような自発的読書への支援の研究、及び、相手意識・目的意識を持った伝え合う活動を取り入れた読書活動を研究しおこなうことにより、児童の伝え合う力を高めることを目指す。	
甲府市教育委員会	小学校	富士川小学校	「伝え合う力」(コミュニケーション能力)を育む学び創りの研究」		①基礎研究 文献や先行研究等を参考にしながら、本校なりの「伝え合う力」(コミュニケーション能力)を見出す。 ②児童の実態の把握 日常の学習や生活の様子から、担当している子どもたちの「伝え合う力」の実態を把握する。 ③授業提案 実態に基づいて「伝え合う力」を育む(高める)ための「手だて」や「授業プラン」を考え、授業を行う(一人一実践)。 ④研究のまとめ 提案授業の実施により得られた成果と課題をまとめ	

甲府市教育委員会	小学校	新田小学校	豊かな心を持ち、生き生きと学び合う子どもの育成	「思い遣る心」の醸成をめざして	平成17・18年度甲府市教育委員会指定 甲府の子どもの教育総合推進校。 人との豊かな関わりが生まれるような活動の工夫、自己評価や相互評価の工夫を教科や道徳など諸活動に取り入れながら、研究主題に迫っていく。今年度は、教科や道徳授業での授業実践や異学年交流や地域交流においても、自己評価カード等を活用しながら思い遣る心の醸成の	
甲府市教育委員会	小学校	山城小学校	自ら学び主体的に問題解決に取り組む児童の育成	「学びを支える力」の向上を促す	本年度は、甲府市教育委員会指定の「教育用グループウェアの活用推進事業」の2年目、最終年度に当たる。グループウェアの活用について、より具体的な活動を創造していくことを中心に据えていきたい。昨年度取り組んできた「言葉の力」の伸長や「健康な体」をつくること、「人との関わりを紡ぎ出す心」を育てることについてもグループウェアの活用と関連を持たせることにより成果を見いだししていきたいと考える。	
甲府市教育委員会	小学校	甲運小学校	かかわる、みがく、未来を拓く	心に元気を育む道徳教育の研究	道徳的実践力を育てるために、地域の素材や人材を効果的に生かしたり、体験活動や他教科・特別活動・総合との連携を図ったりしながら、国語科で研究してきた伝え合う活動を組み込むことで、道徳の時間での道徳的心情の育成を目指す。またより実生活に近い場面を想定し、獲得した道徳的価値を生かしながら、問題解決を図らせることで、道徳的実践力の育成を目指そうとする実践的な研究である。授業研究を中心に研究し、地域にも授業を公開し、地域の中でも豊かな道徳的心情を持った	
甲府市教育委員会	中学校	上条中学校	将来に夢を持ち、生き生きと学び合う生徒		佐藤学氏の知見や理論をベースにして、学び続ける生徒は崩れないという信念の元に、学校を「安心して学べる場」に転換していこうと考えている。そのために、子どもたちが「生き生きと学び合う」授業を目指し、「しっとりとして、活動的で、協同的で、表現的な学び」を実現できるよう、授業改善に取り組む研究の1年次である。 具体的には、月2回の学年ごとの授業研究を中心にすえて、教師がお互いの授業をまず開きあい、子どもたちの学びの現状をとらえ分析すると共に、小グループ活動をどのように取り入れ、一人ひとりの学びに生かしたらいかにという視点で研究をスタートさせている。	
甲府市教育委員会	中学校	富竹中学校	基礎的な知識・技能を持った生徒の育成	生徒どうしのかかわりある授業づくりを通して	・小集団での活動か、生徒どうしの意見交流のある授業を日々、実践する。 ・基礎学力向上のための理論と実践についての学習会を行う。 ・学習に関する生徒の実態把握(学力、授業の様子、家庭学習の習慣・	
甲府市教育委員会	中学校	甲府市立北東中学校	自ら学び、自己実現を目指す生徒の育成	個に応じた指導の実践と検証を通して	①必修教科 ・個に応じた指導の工夫と改善し、一枚式一トフォリオを取り入れた授業実践 ・授業実践や公開授業を通して、学習内容、指導方法、評価方法の一層の充実と基礎基本の確実な定着 ②総合的な学習の時間 ・各学年ごと、「生きる力」を育む学習内容や授業展開の工夫と授業実践 (公開授業を通して) ・個に応じた指導を取り入れた学習内容・指導方法・評価方法の充実 ・年間指導計画の目直し	
甲府市教育委員会	中学校	南西中学校	自ら学び、たくましく実践する心豊かな生徒の育成	「学びの共同体」の創造を目指して	「学びの共同体」とは、生徒同士のかかわりやつながりを重視しながら、小グループでの活動を積極的に取り入れ、教師も生徒も共に学び合うような場である。この考えに基づき、学年研究を中心に、個々の生徒の学びを成立させるための授業の工夫や授業実践、授業研究を積み重ね、「学びの共同体」の創造を目指す。	(国)キャリア教育実践プロジェクト 10月20日
甲府市教育委員会	中学校	北中学校	意欲的に自己表現できる生徒の育成	話し合い活動のできる民主的な学級づくりを通して	コミュニケーション能力が不足し、他者との関わりが未成熟であるという生徒のとらえから、主題にあるような生徒の育成を目指したいと考えた。自分の考えをきちんと述べるには、安心して表現できる場が保障されなければならない。「どうせ言っても聞いてもらえない」「言っても無駄だ」と思うような集団だとしたら、いくら自己表現することの大切さを解いたところで、生徒が真の思いを口にすることはないだろうし、その力が培われることもないだろう。そこで今年度は生徒それぞれに居場所があり、愛着が持てる学級集団を築くことで、安心して意見を言い合え得る環境を創り上げ、活発な話し合い活動のための土台づくりをしていきたいと考えた。集団への帰属意識、参加して良かったと思える話し合い活動、話	
甲府市教育委員会	中学校	笛南中学校	課題に気づき、主体的に学ぶ心豊かな生徒の育成	ルーブリック評価を取り入れた授業を深め、基礎・基本の定着をはかる授業を目指して	昨年は、各教科で基礎・基本の内容を確認し、より客観的な評価のありかたを取り入れた授業づくりとして、ルーブリック評価についての理論研究を進めた。今年度はその成果を生かし、ルーブリック評価を生かした授業を工夫し、主体的に学ぶことのできる生徒の育成をめざしたい。	

甲府市教育委員会	中学校	北西中学校	自ら意欲的に学ぶ生徒の育成	やる気を引き上げる効果的な指導法の研究	教科研究中心の研究。各教科で教師側の取り組みを強化し、効果的な指導法を検討し、実践を積み重ね、生徒のやる気を引き上げ、学習意欲の向上を目指す研究をすすめる。また各教科ごとに昨年度検討して活用した「学習記録カード」に関わる研究をすすめる。また、各教科の単元の指導計画と評価計画の整備の研究もすすめる。	(県)学びの意欲向上推進事業 11月15日
甲府市教育委員会	中学校	城南中学校	生き生きと活動する生徒の育成	生徒が豊かに表現する実践を通して	過去3年間、「意欲に関して」研究を積み上げてきた。意欲に関する研究は、学習者である生徒に学習の振り返りが出来るような透明性のある評価の確立などある程度の成果を収めることができた。しかし、人間関係づくりの稚拙さ、コミュニケーション能力の欠如、生徒の表現力欠如等生徒を巡る学習環境、学びを支える部分の支援が必要であるという課題がでた。毎日の生活の中で生徒たちはさまざまな形で自己表出をしている。その生徒の表現に着目し、その表現を捉え様々な形でフィードバックを繰り返すことにより、生徒の中では思考、判断、表	
甲府市教育委員会	中学校	西中学校	自ら学ぶ生徒の育成	集団づくりを通して1人1人が生かされる学級の育成	研究主題に迫るため、「話し合い活動部会」「日常活動部会」「学習意欲部会」の3部会による部会研究を柱に、学習、生活の基盤である「よりよい学級づくり」を目指してゆく。	(県)心に元気をはぐくむ道德教育推進事業
甲府市教育委員会	中学校	南中学校	学習や生活の課題に気づき、進んで解決しようとする生徒の育成	「生徒の思い」と「教師の願い」の一致を目指す授業実践	「教科研究」の課題を細分化し、さらに深く研究を進めていけるよう研究システムに「課題別グループ」を設定して研究を推進していく。グループごとに共通課題を明確にするための「実態調査」を行い「確かな学力」の向上に少しでも近づくことができるように協力していく。 本年度は、特別支援教育における情緒障害通級指導教室のモデル事業実施校として県内のセンター校としての活動を行う。LDやADHD等の生徒への特別支援学級の弾力的な運営をコーディネーターの指導助言のもとに進めていく。そこで、校内研究においても普通学級の生徒のアクセス等基本的なことを学ぶ機会を設けて研究を行っていく。	情緒障害通級指導教室のモデル事業実施校
甲府市教育委員会	中学校	東中学校	自ら考え、学び、行動する生徒の育成	話し合い活動を活発化し、共に学び合い高め合う学級集団づくりを通して	共に学び合い高め合う開かれた学級集団の育成を目指し、学級では話し合い活動を活発化し、開かれ安心して生活できる自治的な学級集団づくりの研究を行い、授業では、自分の考えや意見をもつことができる確かな表現力の育成に取り組んでいく。よい授業の背後にはよい学級集団があるといわれる。その逆もしかりである。それ故、両者が相互に作用するような研究と実践を行う。また、学級ではプログラム委員会の活性化に重点を置き、毎週話し合いを行い、学級の諸問題を解決していく自治的な学級集団を目指して研究をすすめる。教科では、自分の考	
中北教育事務所	小学校	白根百田小学校	「友だちと関わりながら学び、高め合う子ども」		学校教育目標「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」の実現を目指して校内研究を進めていくことから確認していきたい。 私たちが求める「学力」とは、単なる知識・理解・技能だけでなく、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動することで、よりよく問題を解決できる資質や能力のことであると考え、この学力を育てることを考える場合、教師が「教える授業」よりも、子どもの意欲を引き出し、子どもが「自ら学ぶ授業」がより有効だと考える。この学力は、こうした学び・授業の中でこそ育まれるものであるとも考えている。 私たち教師の教育観・授業観を本年度も問い直しながら、子どもたちの思考や表現を大切にしたい授業をつくり出していきたい。その中で、「授業の中で現れる学ぶ子どもの姿」としてどうあるべきかを明確にし、『子どもを生かす授業』について研究を深めたい。 そこで、本年度は、昨年度課題となった座席表の効果や抽出児についての生かし方やポートフォリオ(評価)についての研修も行いながら研究を進めていきたい。	
中北教育事務所	小学校	大明小学校	自ら学び 自ら考える力を育てる学習指導をめざして	算数科における基礎・基本の定着を図る	①昨年度よりの継続研究において学力テストを実施し、昨年度の成果と課題を分析する。 ②算数科の研究領域を決定していく。 ③授業実践において検証する。 ④観点別評価につながる評価規準の研究。 ⑤小・中学校との研究交流。 以上の5項目を設定して研究を進める。	
中北教育事務所	小学校	甘利小学校	意欲を持ち、主体的に学習に取り組む子どもの育成	～一人一人が学ぶ楽しさを実感できる学習指導の工夫と改善(国語科を通して)～	国語科の学習を通して、一人一人が学ぶ楽しさを実感できる学習指導の工夫と改善を目指している。そのために国語科の授業においては、国語力の向上を目指して、その基礎となる読解力を高めるために教材・教具・指導法の工夫について研究する。また、国語科の授業以外では、読書活動を高めるため、朝読書・国語科での図書室の時間の読書・家庭での読書を活性化させる。さらに、学年にみあった良文を暗唱する活動	

中北教育事務所	小学校	敷島北小学校	基礎・基本の定着をめざした授業の創造	～国語科の学習を通して～	・国語科(読むこと)における基礎・基本を再確認し、本校児童につけたい一覧を作成する。 ・「読むこと」領域の年間指導計画の見直しをする。昨年度のものを参考に、使いやすいものにしていく。2学年のまとまりで作成したい。 ・言語活動の実践例を研究し、授業に生かす。 ・授業研究により、基礎・基本の定着のさせ方、言語活動のあり方を明らかにする。 ・「読書タイム」の充実を図り、家庭へも働きかけをする。	
中北教育事務所	小学校	秋田小学校	自ら学ぶ秋田の子ども	学び合い、自己の変容を実感できる算数科の授業を通して	○理論研究 ・1枚ポートフォリオ評価について ・学び合う授業展開の工夫について ○授業実践 ・研究授業および全体研究会 ・各学年授業実践およびブロック研究会 ○公開授業研究会参加および還流報告	
中北教育事務所	小学校	日野春小学校	豊かな心を持ち、主体的に考え、実践する子どもの育成	生きる力を育む授業をめざして	・日常の算数の授業の中に、算数的活動などを取り入れ、豊かな考えを持つ、自分の考えを伝え合う、学習感想を生かした授業等、実践的な取り組みについて研究する。 ・算数科について、児童の意識調査をして、実態を把握し、日常の取り組みに生かす。 ・初任者研修の実習校として、初任者によりよい授業を提供できるように各自研鑽に努める。	
中北教育事務所	小学校	泉小学校	自分の思いや考えを伝え合う力を育てるために	国語力の向上を目指した国語科「話すこと・聞くこと」の指導を中心として	国語科の「話すこと・聞くこと」において、評価の方法を工夫し、それを指導に生かす。 ＜国語科における指導の工夫＞ ＜国語力向上を支える基礎・基本および言語環境＞ ＜評価の方法＞ ○自己評価(カルテやワークシートなどを使い評価する。) ○相互評価(感想やアドバイス・メッセージカードなど) ○教師の評価(カルテ・座席表の活用)	0
中北教育事務所	小学校	高根東小学校	自ら学び、自ら考え表現する児童の育成	国語力を高める指導・援助の工夫を通して	児童が確かで豊かな言葉の使い手となるよう、国語科を中心としながら学習の全領域における適切な指導援助を研究する。 ①学習状況調査・観察・実態把握を行い、到達目標を設定する。 ②目標に迫るための日常及び国語の授業における取り組みを工夫する。 ③児童が、確かな読み取りはもちろん、語彙や表現の方法を獲得するのは、まず「読むこと」においてであるという考えから、この領域を中心とした検証授業を行う。 ④地域のボランティアサークルと連携し、た読み聞かせや語りの会、児童	
中北教育事務所	小学校	豊小学校	「人間性豊かな児童の育成をめざして」	食に関する学習や活動を通して、健全な心と身体を育てる。	豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けるために「食」は基になり、たいへん重要である。昨年、「食育基本法」も制定され、食育は今改めて、生きる力の基本となるべきものと位置付けられている。本校では、食に関する学習や活動を通して、豊かな心を育むことを研究主題として以下のことに取り組んでいく。 ○食に関する実態の把握(生活活動実態、アンケート) ○食に関する指導の観点を織り込んだ年間指導計画の作成 ○教科・道徳・特別活動を通して食に関する学習展開や教材の工夫	
中北教育事務所	小学校	武川小学校	自ら学ぶ意欲を高めるための指導のあり方	～社会科・家庭科の学習を通して～	児童に学ぶことの意義を教え、「わかる楽しさ・できる喜び」を味わわせ、学ぶ意欲を高めさらに自ら学ぶ力を身につけるような指導を工夫し、その力を継続していけるような授業作りをしていきたいと考える。そこで、まず児童の基本的な生活習慣をもう一度見直し、研究の方法として次のような取り組みをしていくことにした。①指導方法の工夫改善(児童一人一人の学習状況を把握し、学習の支えとなる力と問題解決的な学習過程を取り入れ「わかった・もっとやりたい」を実感できる授業作り・②意欲化を図れる教材・教具の工夫③児童が現在の学習状況を把握	(県)学びの意欲向上推進事業指定校
中北教育事務所	小学校	双葉東小学校	生き生きと自ら学ぶ子どもの育成	基礎・基本を重点とした指導法の研究	(1)児童対象の実態調査(含む学力検査)実施と分析 (2)基礎基本を身に付けさせるための指導法・授業力向上の研究 (3)「わかる・できる・楽しい」授業実践と研究授業の実施	文部科学省指定「学校評価システム構築による義務教育の質の保証」事業の指定校

中北教育事務所	小学校	高根清里小学校	道徳的な価値の自覚と実践力を育てる道徳教育の研究	地域人材を活用した道徳授業の実践を通して	(1学期)児童向けに道徳性診断テストを行い、児童の実態を把握する。保護者向け、教職員向けにアンケートを行い、道徳教育における課題を洗い出す。諸活動及び他教科において、指導できる道徳的価値項目の洗い出しを行う。10月31日の公開授業に向けて、道徳授業を見合い、授業における課題と方向性を検討し、公開授業の内容と、GTの選定及び指導案の作成を行う。(2学期)公開授業に向けて指導案検討とGTとの打ち合わせを行う。公開授業と、授業後の懇談会を行う。児童の変容を授業中の意見、日常の行動、授業の感想などからとらえる。(心に元気を育む道徳教育推進事業 10月31日
中北教育事務所	小学校	南湖小学校	子どもたちが意欲的に学ぶカリキュラムの創造	地域教材の掘りおこしを通じた教育課程の編成	①南湖小学校の校区を知り、地域教材を掘りおこす。 ・校区の地理、歴史、産業などを知り、授業に生かす。 ・地域の人材を積極的に活用し、学習する。 ②ITを活用した授業の研究 ・昨年度までの研究の追試 ③IT機器研修、ホームページの作成など ・IT機器の使い方を習得する。 ・パワーポイントを使った教材づくりの研修をする。 ・南湖小学校のホームページを分担して作成する。 ④実技研修(理科実験、絵画指導法等)	
中北教育事務所	小学校	白根東小学校	五本の木をさらに充実させ心豊かな児童の育成をめざす	地域人材と心のノートを活用した道徳の授業作りを通して	本校では、文部科学省より「平成16・17年度児童生徒の心に響く道徳教育推進事業」の指定を受け、サブテーマに「五本の木のさらなる充実をめざして」を掲げ研究を積み重ねてきた。本年度も、かなめとしての道徳の時間を中心に、本校のめざす児童像である五本の木【やる気・元気・根気・勇気・思いやり】が子ども達の心に大きく育つように研究を継続する。 その手だてとして、①地域人材(心の先生)を取り入れた授業作り ②「心のノート」を活用した授業作り に取り組む。	
中北教育事務所	小学校	櫛形西小学校	心豊かな人間性を育む授業作り	～伝え合う力「話すこと・聞くこと」の指導を通して～	伝え合う力の基盤になる国語科「話すこと・聞くこと」の研究を行う。基礎・基本の明確化、必要感のある場の効果的な設定、教師の授業力を高める研究を追求することによって、児童の伝え合う力を高め心豊かな	
中北教育事務所	小学校	櫛形北小学校	子どもたちの伝え合う力を伸ばすために	国語力向上を目指し、語彙力を育てる取りくみの工夫	国語科、読書活動、様々な言語環境において、子どもたちがより高い国語力を身につけ伝え合う力を伸ばすために、積極的に語彙力を育てていく授業等の取りくみ、望ましい読書活動のあり方、言語環境の工夫を研究開発する。国語科教育ブロックでは、授業の中で『語彙力を育てる』という視点で指導方法や児童の活動を工夫し、授業実践を行う。この場合授業の内容も教材も自由とし、その授業だけでなく学級における国語力向上の取り組みを『日常指導』として、指導案にものせることを前提とし、日常指導の工夫についても研究をしていくこととする。	
中北教育事務所	小学校	西条小学校	進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成	英語活動や日常の活動などの指導を通して	①コミュニケーション能力を育成する活動への取り組み 本校の考える「進んでコミュニケーションを図る子ども」像を明確にし、各学年にあった日常活動・教科指導におけるコミュニケーション能力を伸ばす活動実践し紹介しあう。 ②年間指導計画をもとにした英語活動の取り組みと見直し 昨年度作成した指導計画をもとに授業に取り組みながら担任主導の授業の進め方を探る。また、低学年での英語活動の位置づけと方法を探る ③学習環境の整備 ④先進校の視察を行い、知識見聞を広める	
中北教育事務所	小学校	田富北小学校	生き生きと学ぶ子どもを育てる教育活動の展開	かかわり合って学ぶ活動(算数科)を通して	算数科における思考力を育てることを研究の柱とし、一人ひとりの思考力を育てるため、以下のように、学習環境づくりと学習活動の工夫を主な研究内容として進めていきたい。 (1)学習環境づくり 子ども一人ひとりが生き生きと学ぶことができる環境とは何かについて探り、次のような視点で環境づくりをおこなう。 ①子どもの実態把握 ②学級集団づくり ③学習環境づくり ④家庭との連携	
中北教育事務所	小学校	竜王東小学校	自ら学び、共に伸びる児童の育成をめざして	伝え合い、学びを高め合う指導の研究	今年度は、新たな研究として、今日的課題である「国語力の向上の取り組み及び伝え合う活動」に取り組む。児童一人ひとりが自分の考えを大切に、伝え合う活動を通して考えを練り上げ、学びを高め合い、児童が共に伸びていくことを目指す。伝え合う活動の段階表を基に、各教科、領域の中で、学習方法、指導のあり方について研究・検証をしてい	

中北教育事務所	小学校	白根源小学校	ひとりひとりが生き生きと追及し、学び高め合う授業の研究	子どもの学習意欲を高める指導の工夫	子ども理解に基づき、子どもの学習意欲を高める授業(単元)作りに重点をおき、授業実践を中心とした研究を行っていく。具体的な研究内容は、次の通りである。①個々の教師の子どもの捉え方を検討し、子ども理解を深める。②ひとりひとりの子どもを生かす工夫をし、個に応じたきめ細やかな指導・支援を行う。③子ども理解に基づき、意欲が高まるような単元指導計画を作成する。④学び合う場面を重視し、子どもどうして考えを練り上げ、次の学びへつなげる授業作りを行う。⑤授業において国語力育成を図るための工夫を行う。以上のような研究を通して	
中北教育事務所	小学校	竜王北小学校	相手を意識して、豊かに言語活動を展開する児童の育成	～国語科の学習「話すこと・聞くこと」を中心にして～	(1)国語科の言語活動の理論研究(2)国語科の授業実践(教材開発・発問・投げかけ・支援のしかた・普段の授業で可能な評価方法)(3)教育課程の見直し(評価基準の見直し)(4)全校体制の取り組み(今月の詩の紹介、あいさつ運動、読書活動、音楽広場、集団生活のマナーな	
中北教育事務所	小学校	高根西小学校	自ら学び、生き生きと活動する児童の育成	英語活動の実践を通して	国際化の進展にともない、学校教育においては、国際人として主体的に生きていく上で必要な資質や能力を養うことが求められている。文部科学省は平成14年に「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」、更に平成15年には「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画の策定について」を発表し、国際的な言語の一つのツールとしての英語の重要性を述べている。本校は、このような社会的要請を受け、英語活動の実践を通じ、自ら学び生き生きと活動する児童の育成をめざす。主な研究内容は、①昨年度作成した英語活動授業案の実践・検証・改	小学生英語活動研究発表大会 7月28日
中北教育事務所	小学校	穂坂小学校	自ら学ぶ意欲を育てる指導と評価に関する研究	国語科におけるルーブリックの作成と活用方法の工夫をとおして	・ルーブリックの理論研究。 ・国語科における「話す・聞く」「書く」「読む」の各領域のルーブリックの作成。 ・ルーブリックの効果的な活用方法を授業提案し検証を行う。	
中北教育事務所	小学校	小淵沢小学校	自分の思いや考えを伝え合う力を育てる指導のあり方	「国語科」における「話すこと・聞くこと」を中心として	○めざす児童像の設定→本校児童の「話すこと・聞くこと」の力ほどの程度のものなのか実態を調査し、具体像を設定する。 ○身につけさせたい「話すこと・聞くこと」の基礎・基本の力は何かを明確にする。 ○「話すこと・聞くこと」の基礎基本を定着させるために、どんな指導方法の工夫があるのか、理論研究をする。(・活動形態・指導技術・場の設定)→授業実践に生かす。 ○授業研究 ・低中高ブロックごと1つずつ提案する。(学期に一つ) ・二人一実践	
中北教育事務所	小学校	三村小学校	「よく考え、進んで学ぶ子ども」の育成	『一人ひとりがよく考える場面』を想定した授業作りの研究	本校では子ども達を中心に据えた学校作りを目指している。その視点から、日々、「子どもたち一人ひとりに、基礎・基本を定着させ、こどもたちの持っている可能性や自ら学ぼうとする力を伸ばしていくこと」に重点を置いた指導がなされている。本年度の研究では学校教育目標「目指す子ども像」に掲げられている「よく考え、進んで学ぶ子」を取り上げ、授業の中で、考える場面をどう作り、それをどう生かしていくかを考え、提案し	心に元気を育む道徳推進事業(県教委)
中北教育事務所	小学校	八田小学校	人間性豊かに生き生きと活動する児童の育成	キャリア教育の展開を通して	小学校段階における「キャリア教育」について、以下のような内容を実践し、その在り方を探る。 1、「なぜ、今キャリア教育が必要とされているのか、そのニーズの背景について 様々な資料をもとに学習する。 2、学校の「キャリア教育全体計画」を作成し、さらに、各学年ごとの「キャリア教育年間計画」を作成する。 3、キャリア教育で目指す「身につけさせたい力」を明確にし、各教科との関連性を を図る。 4、上記のような項目を基に授業実践を行い、検証する。	南アルプス市指定「キャリア教育推進事業」
中北教育事務所	小学校	田富南小学校	主体的に生き生きと学ぶ子どもの育成	算数科における学力の定着を目指した習熟度別学習指導と学びタイムの活用を通して	I 算数科での少人数学習＝主に習熟度別学習による授業実践の発展(個に応じた補充・発展教材の開発) ①児童の学力の実態を分析し、課題の把握。 ・CRT標準学力検査の分析 ・保護者・児童アンケートの実施 ②昨年度の実践の反省や課題を検討し、児童の実態に応じた効果的な習熟度別学習について研究を進める。 ・効果的な発展教材・補充教材の開発実践 *3単元くらいの教材開発及び授業実践(各学年1つ)	県教育委員会:心に元気を育む道徳教育

中北教育 事務所	小学校	増富小学校	国語科における確 かな学力を身につけ るための学習指導	「話す」「聞く」に視 点をあてて	まず、「話す」「聞く」に関するアンケート調査を行い、実態を把握を行 う。次に実態調査をもとに、「話す力」「聞く力」を育てる指導法を研究を 行う。講師をお招きし、学習を進め、常時活動・環境作りに取り組む。 子どもたちの発表会を学期に一回設け、成果を把握するとともに、指 導法の検討・修正を行っていく。2学期には、全学年で研究授業を行い、 授業の中 で話す力・聞く力をどのようにつけていくかを学び合う。なお、 授業の中では、昨年度の研究 を引きつぎ、ルーブリック評価に取り組	
中北教育 事務所	小学校	押原小学校	確かな学力を身につ けた児童の育成(第 3年次)	—「算数のよ さ」を活かして考 えをまとめる授業 のあり方 —	算数に関する3年次研究の最終年である。昨年度は、「数学的な考え 方」に関する研究を進め、各授業研究では、課題解決に向け、子どもた ちの多様な考えを引き出す段階までは成功した。本年度は、出された多 様な考え方について子どもたち自身が検討を重ね、ひとつの結論的事 項にまとめていく段階の指導について扱っていく。この段階を扱う時、出 されたそれぞれの考え方について「より簡潔なのはどれか」「いつでも適 用可能なのはどれか」「一番短い時間で解決できるのはどれか」などの 視点から比較検討されることになるだろう。いかなればひとつひとつ	(研究主題とは別 の内容に関する指 定ですが)「心に 元気をはぐむ道 徳教育推進事業」 10月20日
中北教育 事務所	小学校	常永小学校	「確かな学力」を身 に付けた子どもの育 成	生活科及び総合 的な学習の時間 の授業の創造を 通して	本年度の研究は、3年計画で取り組む本研究の2年目に当たる。 まず、生活科及び総合的な学習の時間の本質についての理論研究を行 い、その上で、生活科及び総合的な学習の時間についての授業づくりに 取り組みたい。 ここでいう授業づくりとは、1単位時間の授業を行うという意味だけでは なく、教育課程の整備をも含んだ授業づくりである。 また、実践した授業に基づき、評価研究にも取り組みたい。	(国)平成18・19年 度学力の把握に関 する研究指定校事 業(生活科)10月27 日
中北教育 事務所	小学校	竜王西小学校	「子どもの学びが響 き合う学校の創造」	～学びの大切さ が実感でき、学び 合い練り合いの 生まれる授業を 目指して～	平成16年度から同じテーマのもと研究を進めている。今年度は、学び の楽しさや大切さを実感しながら、学び合い練りあいのある授業作り に取り組む。過去2年間は算数科に絞り研究を進めてきたが、今までの研 究成果を基盤に、教科・道徳・特別活動の時間の中で実践を行ってい めざす子ども像として ①学びの楽しさに気づき、意欲を持ち自ら課題を解決しようとする子ど も ②学びことの意味・学ぶことの大切さを実感できる子ども ③学び合い・高め合うことができる子ども と、授業方法の工夫・改善、学習評価の工夫を中心に、子ども一人一	
中北教育 事務所	小学校	双葉西小学校	主体的・創造的に考 える子どもの育成	算数科の授業を 通して学ぶ楽しさ を知る	算数科における ・児童の実態把握をふまえての図形領域からのアプローチ ・子どもの思考過程にそくした授業の具体案の構築(教材開発の工 夫・指導法の工夫・評 価の工夫等の焦点化) ・一人一実践(そのうち低中高の3ブロックより1本ずつの計3本で検 証授業及び事後研 究会を行う) ・今年度の研究実践を来年度教育課程の各学年備考欄に記す。	
中北教育 事務所	小学校	玉幡小学校	心豊かに、自ら学 び、自ら考える児童 の育成	コミュニケーション 能力を高めるた めの国語力(読解 力)の向上をめざ して	昨年度までの研究の成果と課題をふまえて、相手の思いや気持ちを「理 解する」ことに重点をおいて研究を推進していく。 ①理論研究(文献・学習会) ②国語科において、話し合い活動を取り入れた読解力を育てるための 授業を行う。 ③他教科・総合・道徳との連携を図りながら、国語力・コミュニケーション 能力の向上をめざす。(話し合い活動・学習感想を書く) ④読書活動の推進や言語環境の整備を図る。 ⑤家庭・地域との連携を図る。(学校開放日に保護者への授業公開)	
中北教育 事務所	小学校	小笠原小学校	一人ひとりを大切に する授業の研究	子どもの思いや 願いを生かした授 業のあり方	①テーマに沿った授業の実践をする。②教科・道徳・特別活動・総合的 な学習の時間の中から各学年一つ、授業研究を行う。(1年は音楽、2 年は国語、3年は算数、4年は総合、5年も総合、6年は道徳に決定)③ 本校の特色ある活動となっている「集会活動」をさらに充実させるために 内容等を検討する。④「総合的な学習の時間」の全体計画に基づいた 実践を振り返り、必要に応じて全体計画の見直しを図る。⑤生活科・「総 合的な学習の時間」の年間活動計画を作成し、情報交換を行い、全体 で確認する。⑥本校児童の実態に即した教育相談に関する学習会を行 う。⑦公開研究会に参加し、研修を深める。⑧教育課程研修の還流報 告会を開き、小笠原小学校の教育課程の検討に生かす。⑨「生徒指導	(国研)生徒指導総 合連携推進事業

中北教育 事務所	小学校	白根飯野小学 校	学び合い 高め合う 子どもたち	子ども一人一人 が思考力や表現 力を高めるため の授業のあり方	今年度は、「つかみ・生かす子」を中心にした授業づくりのさらなる明確 化に取り組んでいきたいと考える。子どもたちが課題に対してじっくり考 え、深めるための支援とは何か。「つかみ・生かす子」の学びや一人一 人の学びの具体的検証の方法を提案し合い、子どもたちの記録の取り 方、活用の仕方、授業での生かし方について教師も学び合いたいと考 える。 また、もう一つの柱として、子どもを主体にした授業での教師の役割の 明確化に取り組みたいと考える。授業の中で出てくる子どもたちの多様 な考えの中で、何を中心の話題として絞り込んでいくか。教師が見逃し てしまう子どもの考えにどう対応していくか。どのタイミングで教師が介 入していくか。獲得してほしい知識などに向けて、学び合うべき課題をど 「各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間などにおける授業・ 諸活動を「国語力」向上と結びつけて指導することにより、子ども達の基 礎・基本を図る」をねらいとして、トータル的な国語の力を養う取り組み、 研究を行っていく。具体的には、全校的な読書活動(①朝読書②親子巡 回読書③読み聞かせの充実④推薦図書の選定など)を通して、また授 業研究における検証を通して、国語力向上を考えていきたい。市教育委 員会からの指定研究とあわせての研究ではあるが、本校児童の国語力 向上が基礎・基本の定着の土台になるような研究になればよいと考えて 学習時間の削減と学力問題から、学校の授業がドリルや反復練習に 陥りがちである。こうした授業からは、「学んだことを使いこなす。」「ゆた かな具体物からイメージをつくり出す。」といった視点は生まれてこない。 学習内容は、教科書やノートに中にだけあるものではなく、私たちの身 の回りの生活や暮らしの中から生み出され、抽象化された内容であるこ とを意識した授業作りを研究の中心にすえていきたい。 特に算数の数と計算の領域を中心に研究を進めたい。 具体的な研究内容は、「学習指導要領に示される基礎・基本の力の確 実な定着をめざす。」及び「教員の実践的指導力の向上をめざす。」であ る。 そのためには、国語科においては「書くこと」の技術を高め、表現力を つけさせる研究を行う。算数科においては、「数学的な考え方」を高める ための指導方法を研究し、子どもたちに基礎・基本の力をつけていく。 また、教員の実践的指導力の向上については、今年度も全教員が研 究授業を行い、相互評価・自己評価を通して、「わかる・できる授業」の あり方を研究し、一人一人が研修を行い、児童の学力向上につながる 昨年度までの研究を継続していく方向で考えていきたい。その理由とし て、研究の成果がおぼろげながら見えてきたのでそれをもう少しはっきり させたい。話す機会が多いため、さらに力をつけていきたい。子どもたち の欠けている部分でもあるし、クラスの人数が少数なため、力をつけさ せていきたい。というような意見が出されたため、継続して研究すること にした。教科に関しては、統一した方が系統性を持たせることもできるし 焦点がはっきりするため、国語にすることにした。また、一人一実践とし て教務を含め全教職員が研究に関わることも確認された。	山梨県教育委員会 指定 心に元気を はぐくむ道徳教育 推進事業 10月1 1日
中北教育 事務所	小学校	若草小学校	主体的に学習活動 に取り組み、基礎・ 基本を身につける児 童の育成	国語力向上を通 して	「各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間などにおける授業・ 諸活動を「国語力」向上と結びつけて指導することにより、子ども達の基 礎・基本を図る」をねらいとして、トータル的な国語の力を養う取り組み、 研究を行っていく。具体的には、全校的な読書活動(①朝読書②親子巡 回読書③読み聞かせの充実④推薦図書の選定など)を通して、また授 業研究における検証を通して、国語力向上を考えていきたい。市教育委 員会からの指定研究とあわせての研究ではあるが、本校児童の国語力 向上が基礎・基本の定着の土台になるような研究になればよいと考えて 学習時間の削減と学力問題から、学校の授業がドリルや反復練習に 陥りがちである。こうした授業からは、「学んだことを使いこなす。」「ゆた かな具体物からイメージをつくり出す。」といった視点は生まれてこない。 学習内容は、教科書やノートに中にだけあるものではなく、私たちの身 の回りの生活や暮らしの中から生み出され、抽象化された内容であるこ とを意識した授業作りを研究の中心にすえていきたい。 特に算数の数と計算の領域を中心に研究を進めたい。 具体的な研究内容は、「学習指導要領に示される基礎・基本の力の確 実な定着をめざす。」及び「教員の実践的指導力の向上をめざす。」であ る。 そのためには、国語科においては「書くこと」の技術を高め、表現力を つけさせる研究を行う。算数科においては、「数学的な考え方」を高める ための指導方法を研究し、子どもたちに基礎・基本の力をつけていく。 また、教員の実践的指導力の向上については、今年度も全教員が研 究授業を行い、相互評価・自己評価を通して、「わかる・できる授業」の あり方を研究し、一人一人が研修を行い、児童の学力向上につながる 昨年度までの研究を継続していく方向で考えていきたい。その理由とし て、研究の成果がおぼろげながら見えてきたのでそれをもう少しはっきり させたい。話す機会が多いため、さらに力をつけていきたい。子どもたち の欠けている部分でもあるし、クラスの人数が少数なため、力をつけさ せていきたい。というような意見が出されたため、継続して研究すること にした。教科に関しては、統一した方が系統性を持たせることもできるし 焦点がはっきりするため、国語にすることにした。また、一人一実践とし て教務を含め全教職員が研究に関わることも確認された。	南アルプス市教育 委員会指定
中北教育 事務所	小学校	落合小学校	「自ら学び 課題を 解決しようとする子 どもの育成」	課題解決的な授 業実践を通して	学習時間の削減と学力問題から、学校の授業がドリルや反復練習に 陥りがちである。こうした授業からは、「学んだことを使いこなす。」「ゆた かな具体物からイメージをつくり出す。」といった視点は生まれてこない。 学習内容は、教科書やノートに中にだけあるものではなく、私たちの身 の回りの生活や暮らしの中から生み出され、抽象化された内容であるこ とを意識した授業作りを研究の中心にすえていきたい。 特に算数の数と計算の領域を中心に研究を進めたい。 具体的な研究内容は、「学習指導要領に示される基礎・基本の力の確 実な定着をめざす。」及び「教員の実践的指導力の向上をめざす。」であ る。 そのためには、国語科においては「書くこと」の技術を高め、表現力を つけさせる研究を行う。算数科においては、「数学的な考え方」を高める ための指導方法を研究し、子どもたちに基礎・基本の力をつけていく。 また、教員の実践的指導力の向上については、今年度も全教員が研 究授業を行い、相互評価・自己評価を通して、「わかる・できる授業」の あり方を研究し、一人一人が研修を行い、児童の学力向上につながる 昨年度までの研究を継続していく方向で考えていきたい。その理由とし て、研究の成果がおぼろげながら見えてきたのでそれをもう少しはっきり させたい。話す機会が多いため、さらに力をつけていきたい。子どもたち の欠けている部分でもあるし、クラスの人数が少数なため、力をつけさ せていきたい。というような意見が出されたため、継続して研究すること にした。教科に関しては、統一した方が系統性を持たせることもできるし 焦点がはっきりするため、国語にすることにした。また、一人一実践とし て教務を含め全教職員が研究に関わることも確認された。	
中北教育 事務所	小学校	葦崎小学校	生き生きと自ら学ぶ 子どもの育成	子どもたちの「確 かな学力」の定着	具体的な研究内容は、「学習指導要領に示される基礎・基本の力の確 実な定着をめざす。」及び「教員の実践的指導力の向上をめざす。」であ る。 そのためには、国語科においては「書くこと」の技術を高め、表現力を つけさせる研究を行う。算数科においては、「数学的な考え方」を高める ための指導方法を研究し、子どもたちに基礎・基本の力をつけていく。 また、教員の実践的指導力の向上については、今年度も全教員が研 究授業を行い、相互評価・自己評価を通して、「わかる・できる授業」の あり方を研究し、一人一人が研修を行い、児童の学力向上につながる 昨年度までの研究を継続していく方向で考えていきたい。その理由とし て、研究の成果がおぼろげながら見えてきたのでそれをもう少しはっきり させたい。話す機会が多いため、さらに力をつけていきたい。子どもたち の欠けている部分でもあるし、クラスの人数が少数なため、力をつけさ せていきたい。というような意見が出されたため、継続して研究すること にした。教科に関しては、統一した方が系統性を持たせることもできるし 焦点がはっきりするため、国語にすることにした。また、一人一実践とし て教務を含め全教職員が研究に関わることも確認された。	(国)学力向上拠点 形成事業 (葦 崎市)葦崎市教育 会研究指定校
中北教育 事務所	小学校	高根北小学校	自ら学び、生き生き と活動する児童の育 成	「伝え合う力」の 向上をめざして	具体的な研究内容は、「学習指導要領に示される基礎・基本の力の確 実な定着をめざす。」及び「教員の実践的指導力の向上をめざす。」であ る。 そのためには、国語科においては「書くこと」の技術を高め、表現力を つけさせる研究を行う。算数科においては、「数学的な考え方」を高める ための指導方法を研究し、子どもたちに基礎・基本の力をつけていく。 また、教員の実践的指導力の向上については、今年度も全教員が研 究授業を行い、相互評価・自己評価を通して、「わかる・できる授業」の あり方を研究し、一人一人が研修を行い、児童の学力向上につながる 昨年度までの研究を継続していく方向で考えていきたい。その理由とし て、研究の成果がおぼろげながら見えてきたのでそれをもう少しはっきり させたい。話す機会が多いため、さらに力をつけていきたい。子どもたち の欠けている部分でもあるし、クラスの人数が少数なため、力をつけさ せていきたい。というような意見が出されたため、継続して研究すること にした。教科に関しては、統一した方が系統性を持たせることもできるし 焦点がはっきりするため、国語にすることにした。また、一人一実践とし て教務を含め全教職員が研究に関わることも確認された。	
中北教育 事務所	小学校	明野小学校	美しい日本語を話す 子どもを育てる教育 活動に関する研究	ルーブリックにも とづく国語科の指 導の改善と道徳と の関連的指導を 通して	・「話す・聞く」指導に関するルーブリックの活用と、相手の気持ちを考え た話し方・聞き方に 関する授業実践。 ・道徳と関連させた国語科の授業実践。 ・道徳との関連を加えた年間指導計画の作成。	心に元気をはぐく む道徳教育推進指 定校
中北教育 事務所	小学校	小泉小学校	確かな学力を身につ けた児童の育成	算数科における、 基礎・基本の定着 を図る指導方法 の工夫を通して	算数科において、児童に学んだことを実生活に生かせるような力を身に つけさせるために、基礎・基本が定着するような指導方法を工夫する。 具体的には、 ①数量や図形について意味をよく理解したり、その感覚を豊かにしたり できるような活動の工夫 ②子どもたちが興味・関心をもてるような教材・教具の工夫 ③学ぶ楽しさや充実感を感じられるような個に応じた指導の工夫	
中北教育 事務所	小学校	長坂小学校	共に学び合う授業の 創造	思いや考えを伝 え合うために	①子供たちがお互いに考えや思いを伝え合う活動を通して、共に学びあ える授業を創造 する。 ②子供たちが自分の思いや考えを表現できるようになるための、指導方 法の研究を進め る。 ③「国語力」と「伝え合う力」に関する理論研究と本校としての取り組み。 ④言語環境の整備。(校内掲示・教室環境の工夫 など)	

中北教育 事務所	小学校	須玉小学校	一人ひとりのニーズ に応じた適切な支援 のあり方	事例研究による 支援の積み重ね を通して	特別な支援を必要としている児童に対して、その子が自信を持って学校生活を送ることができるようになるための適切な支援の方法や学校体制のあり方について、事例研究を通して探っていく。「適切な支援の方法」とは、教師が行う支援、学級全体として取り組んでいく支援、外部機関との連携により行う支援等、支援の形態や具体的な方法を指す。Plan.Do.Seeのマネジメントプランにより、支援を積み重ねていく。また、「学校体制のあり方」においては、校内委員会や特別支援コーディネーターの役割の検証、全職員への関わり方、及び校内の指導体制などについて検証していく。
中北教育 事務所	小学校	玉穂南小学校	共に感じる豊かな心 を育む	コミュニケーション 活動を通して人間 関係力を培う	①本校の児童の実態を把握する中で、「共に感じる豊かな心」をそなえた具体的な子ども像を明確化する。 ②その子ども像を明確化するためには、どのような指導が効果的であるかを教育課程の中で研究する。 ③一人一実践授業を行い、検証する。一実践については、必ずしも指導案の形式をとる必要はなく、実践報告の形でもよいものとする。 *「共に感じる豊かな心」を育むのは、国語科や音楽科、図画工作、道徳、特別活動といった教科等に特化されるものではなく、全ての教科等で取り組むべき課題である。学校の教育活全体を通して全人教育を行う必要がある。したがって一人ひとりのスタッフが主体者となり、研究
中北教育 事務所	小学校	豊富小学校	生き生きと学び合う 子どもの育成をめざ して	コミュニケーション 能力を高める手 だて	(1)理論研究 ・コミュニケーション能力を高める手だて(講師招聘) ・教育課程講習会等の資料による共通理解 (2)児童の実態把握と課題の焦点化 ・ブロックのめざす子ども像 ・コミュニケーションスキルの学年系統表づくり (3)授業実践 ・手だてと検証 (4)日常的な取り組みの情報交流
中北教育 事務所	小学校	白州小学校	確かな表現力を持つ た児童の育成	国語科の「話すこ と・聞くこと」の指 導を中心として	国語科の「話すこと・聞くこと」の学習において、学習指導の工夫をすること共に、学校生活の中で表現する場を生かすことにより、「生きてはたらく力」としての「表現力」を持つ児童を育てたい。 ◎組織作りと研究計画の立案及び実践 ○低・中・高学年ブロックを設け、指導、研究の系統性を整える。 ○授業研究部を設け、研究因子「学習指導の工夫」について研究計画を立て実践する。 ○活動研究部(仮称)を設け、研究因子「学校生活の場で表現する場を生かす」について研究計画を立て実践する。 ◎実践と検証 ○授業研究部 ・話し方・聞
中北教育 事務所	小学校	芦安小学校	自分の考えを表現 する力を育てる国語 科指導の工夫	～言語意識を重 視した「話すこと・ 聞くこと」の指導を 通して～	①「言語意識」及び「話すこと・聞くこと」領域の理論研究 ②「言語意識」及び「話すこと・聞くこと」に関する児童の意識調査 ③教師観察による児童の「話すこと・聞くこと」の実態把握と分析、変容の見取りと分析 ④言語意識を明確にもつことができるような場面と時間の学習過程への位置付けについて ⑤児童の思いや願いを大切に教材について ④と⑤については、授業実践を通して研究仮説を検証していく。
中北教育 事務所	小学校	葦崎北東小学 校	ともに学び、考え、 表現できる子どもの 育成	伝え合う力を育て る国語科授業の 工夫を通して	○児童の実態調査をし本校児童の「伝え合う力」や「話すこと・聞くこと」の意識調査 ○「聞くこと・話すこと」に関する身につけたい力の明確化。 ○国語科の「話すこと・聞くこと」を中心に子どもたちの表現力や理解力を豊かにする授業を工夫して「伝え合う力」を高める。 ○「伝え合う力」に関する5つの言語意識を明確に位置づけた国語科学習活動の研究授業実践。 ○「伝え合う力」や「話すこと・聞くこと」に関しての理論研究。

中北教育事務所	小学校	若草南小学校	互いに学び合い高め合うことができる児童の育成	安心と承認のある授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> 安心と承認のある授業づくりのための個人研究テーマを決める。 教科別(国語・算数)特別活動グループに分かれ、個人研究をより一層深め合う。 グループ内で公開授業日を設定し、学級担任は全員授業を公開する。(ただし、見学は自由)担任以外は、TT等で可能な限り授業を公開する。 各グループは、共通の授業作りのテーマを決め、グループの代表者が年に一度全員に授業を公開する。 公開授業後は、授業後研究会をする。 安心と承認のある授業作りのための学級集団作りについてQ-Uも参考に使用する。 	
中北教育事務所	小学校	敷島小学校	主体的・創造的に考える子どもの育成	算数科の確かな学力づくりのための学習指導の工夫を通して	<ul style="list-style-type: none"> 算数科において、指導法を見直し、子どもたちが意欲的に考えるような指導方法を工夫・改善し、子どもたちに確かな学力を身につけさせ、主体的・創造的に考える子どもを育成する。 低・中・高の3ブロックに分け、それぞれの発達段階に合わせ、考える力をつけることに重点を置き、指導法を工夫する。 ブロックごとに研究仮説を立て、仮説に基づいた授業実践を行い、検証・反省を行う。低・中・高学年ブロックで1本ずつの授業研究を行い、研究会で討議をする。研究授業を行わない学年は、紙上提案を行える。 	
中北教育事務所	小学校	葦崎北西小学校	豊かな心の育ちを通して、自ら学び、共に生きようとする児童の育成		<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に即した多様な道徳教育教材開発とその指導法の研究を通して、豊かな心を育て、自ら学び、共に生きようとする児童の育成を図る。 教科、道徳、特別活動を充実させ、道徳的価値の自覚を深め、実践力をそだてる。 道徳性及び実践力を養う教材、資料の選択・開発とその効果的な活用の追求。 	文科省 平成18、19年度児童生徒の心に響く道徳教育推進事業
中北教育事務所	小学校	敷島南小学校	豊かな心と健康な体を育み、自分や周りの人を大切にすることの育成	～道徳教育や体育・健康に関わる指導を通して～	<ul style="list-style-type: none"> ◎道徳性を育てるような授業の創造(児童の実態・発達段階にあった教材開発、地域に根ざした教材人材発掘、発問のあり方、評価方法の開発などを行う) ◎道徳性を育てるような教育活動全般における道徳的実践の創造 ◎心身共に健康な子どもを育てるような保健学習の授業の創造や、健康に関する指導の創造(児童の実態・発達段階にあった教材開発、ゲストティーチャーの活用、発問のあり方、評価方法などの開発を行う) ◎心身共に健康な子どもを育てるような教育活動全般における体育・健康 	(県)心に元気を育む道徳教育推進校(保)山梨県学校保健研究指定校
中北教育事務所	小学校	竜王南小学校	国語科基礎学力の向上	課題を明確にし、効果的な読み方指導をさぐる	<ul style="list-style-type: none"> 現行学習指導要領では、ゆとりの中で生きる力を支えるために、一人一人の個性を生かすと共に「確かな基礎・基本の学習」の必要性が求められている。本校では平成15年度よりこの基本方針に則り、国語科を中心に、全ての児童に基礎学力の向上を保証するための研究を続けてきている。今年度の研究は、学力検査による児童の実態に加え、学習指導要領や現行教科書、各種実施調査の結果分析などから、今求められている国語力や指導法の改善などを考え合わせ、①昨年度作成の論理的作文指導の系統プランの実施と見直し、②課題を明確にした読み方指導の工夫、の二つを掲げ、中でも②において昨年度の研究を生かす形をとりたいと思う。具体的には、説明文教材を中心に言語活動との関連を図る中で、自分の考えを持ちながら読んだり、構成や構造の理解を深めたり、内容や形式を評価をしたいとする活動を通して、論理的思考の 	「生徒指導推進協力員」活用調査研究(県)
中北教育事務所	小学校	田富小学校	自ら学びをひらき、知を創造する児童の育成	自主的・自律的な活動を大切にした授業の実践を通して	<ul style="list-style-type: none"> (1)主題に迫る単元作り ○単元の目標の明確化 ●内容レベルの目標から単元レベルの目標、さらに本時レベルの目標へと、具体化する。 ○内容を学びながら、学び方、ものの考え方、問題解決能力を育てる工夫 ●体験的な学習、問題解決的な学習の充実 ●合科・関連的な指導の充実 ○児童の自主的・自律的な活動場面の設定 ●自分の考えを持つ時間、お互いの考えを吟味し合う時間、自己評価の時間の保障 ○指導に生かす評価 ●個に応じた指導、補充・発展的指導の充実 ●意図的・計画的な評価の実施(いつ・どこで・だれが・何を・どうやって) (2)得意理解に関する研修 	

中北教育 事務所	小学校	竜王小学校	基礎基本を充実させる学習指導法の研究	国語科の授業を通して	○指導法の工夫と共有化 ・言語能力を高める学習活動や指導のあり方 ・ねらいを明確にした授業づくりと授業実践 ○指導に生かす評価の工夫と実践 ・一人一人をみとる工夫と実践 ・指導計画の作成、及び評価場面と具体的な評価の設定	
中北教育 事務所	中学校	八田中学校	自ら学ぶ意欲を高め、確かな学力の向上に努力する生徒の育成	教育活動全般におけるキャリア教育の考察を通して	(1)キャリア教育全体計画の見直し、検討 (2)各学年の取り組み ※基本的にどの学年もすべての教育活動においてやっていくのだが、次のように各学年のポイントを絞って研究していく。 1学年……道徳(集団生活への適応、集団生活の向上、将来の夢・希望) 学指、学活(自分の良さや個性について、学ぶことの意義) 職業調べ 2学年……総合的な学習の時間(職業体験学習、職業講話) 3学年……教科(説明や発表、対話や討論) 学活(話し合い活動) (3)総合的な学習の時間の実践 各学年においてキャリア教育を意識して、より盛り込んでいく (4)授業研究の実施(道徳、学活、教科の中から行っていく) (5)教科の取り組み(各教科におけるキャリア教育の実践) (6)特別活動の取り組み ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う体験が得られるような活動を折り入れていく 例:全校地域清掃の取り組み(生徒会、ボランティア委員会) (7)その他の取り組みについての研究 創意の時間の取り組み(全校読書、前年度の読書の取り組み、朝読書)	(文科省)「キャリア・スタート・ウィーク」推進地域指定によるキャリア教育実践プロジェクト
中北教育 事務所	中学校	双葉中学校	「生きる力」をはぐくむ学習活動の研究	基礎・基本の定着を図る研究	基礎・基本の定着を図るための、効果的な学習形態や指導法、教材・教具、評価方法や教師の支援等について研究する。 ○各教科における単元での「基礎・基本」とは何かを明確化し、その定着を図るために効果的な学習場面や学習形態、指導法などについて研究する。また、それを看取るための評価方法や教師の支援について研究する。 ○学校生活のあらゆる場面で生徒の自尊感情を高めることも、内発的な学習意欲を高め教科における基礎・基本の定着を図る上で有効であると考え。今年度は教科中心の研究ではあるが、道徳、学活、総合的な学習の時間においても、自ら学ぶ姿勢や考える態度を育てる手立てや方法について研究する	
中北教育 事務所	中学校	武川中学校	生きる力をはぐくむ学習指導の充実	コミュニケーション能力の育成を通して	① これまでの教科の研究を引継ぎ、1人1実践を行う研究にする。 ・昨年度に研究された各教科の「目的」や「育てたい生徒像」をコミュニケーションという観点から見直し、教科の枠を超えて、共通理解を図る。またそれらをもとに授業研究を行う学年や題材を決定し、全職員が研究授業を行う。 ②意見や疑問を持つために、授業の中で教材や発問、学習形態をどう工夫し実践していくか研究する。 ・話し合いや発表会・実験などを行う際のグループについて、全職員で編成方法や活用方法を学習し、日々の授業中に取り入れていく。 ③学習中の話し合い活動や学習後のプレゼンテーション活動など、生徒が他の生徒と関わりを持つ場面を取り入れる工夫をする。 ・教科の授業はもちろん、総合的な学習や道徳などにおいてもグループ活動の場を設定し、効果的な場の設定を工夫する。 ④研究授業には職員全員で参観し、授業の中での生徒の観察を行い、意見を交換する。 ・研究授業は原則として、授業のない職員全員で参観する。その際、参観の視点を設けてもらい、職員は受け持ったグループについて視点をもとに観察を行う。授業後の研究会はその日のうちに行い意見交換を行う。 ⑤評価活動を工夫する。 「職員が関わる」「職員が言えること」の生徒自身による自己評価	

中北教育事務所	中学校	葦崎東中学校	「生きる力」をはぐくむ学習活動の研究	心を揺さぶる道徳授業の実践を通して	・理論研究 文献や実践発表指導助言者を招く等、題材設定や生徒へのアプローチの学習、研究を進める。 ・一人一実践 全教職員が何らかの形で道徳の授業に参加する。 ・資料の蓄積と共有化 授業における工夫や資料、手法の記録を残し、共有化していく。 ・家庭や地域との連携 家庭や地域社会の参加協力を呼びかけ、有効な活用方法を探るとともに開かれた学校づくりの推進に参与する。	心に元気をはぐくむ道徳教育推進事業 11月22日
中北教育事務所	中学校	玉幡中学校	一人一人の学習意欲を高め、学力向上を目指す指導法の研究	意欲的に学習に取り組む、確かな学力を身につける生徒の育成	基礎学力の定義を行う。NRT(全国標準学力検査)を行い、実態把握を行う。ワークシート・授業前のミニテスト・視聴覚教材等の教材・教具の工夫を行う。授業後の自己評価と授業評価の実施。授業研究の実施(3回)。普段の授業公開と授業交流。(一人一実践の実施)	
中北教育事務所	中学校	櫛形中学校	主体的に学ぶ生徒の育成に関する研究	意欲を喚起し、お互いに学び合える集団をいかにつくるか	教科研究部として、学び合える集団づくりを意識して、一人ひとりが主体的に取り組める授業を目指す。(授業研究を計画) 集団づくり研究部として生徒理解のための会を週一回もち、事例をもとに生徒理解と支援を進める。Q-Uテストを利用し、学級集団の理解を図る。また合唱や学年行事でも研究を進める。(秋に授業研究を計画) 生徒指導総合連携推進事業研究部として生徒の自治活動をすすめるとともに小中や地域の連携を図っていく。(挨拶を中心に文化交流を計画中)また、地域ぐるみで櫛形中の道徳を考える会を中心に地域ふれあい道徳推進事業として地域との連携を推進していく。	生徒指導総合連携推進事業
中北教育事務所	中学校	甲陵中学校	中高一貫教育の中での特色ある教育課程編成の研究	指導方法及び評価方法を中心に	・教科研究を中心にした研究を行う。 「生徒の発達段階に応じた計画的な教育課程を考え、基礎・基本の確実な定着を図り、課題解決的な学習活動、体験的な学習活動、そして多様な表現活動の機会を適切に設定することにより、「生きて働く学力」をもつ生徒の育成が図られるであろう。」の仮説を立て、以下の内容についての研究を行う。 (1)中高一貫教育の中での生徒の実態に応じた特色ある教育課程の編成	
中北教育事務所	中学校	押原中学校	自他を尊重し、目標を持って前向きに取り組める生徒の育成	～実践活動と道徳の授業の連携を通して～	① 学校・家庭・地域が連携した道徳教育の推進と道徳実践活動の推進 ② 学校行事などと道徳の授業の連携による、よりよい生き方を求める生徒の育成 ③ 人との関わり方を学び、自分を大切にすることを育てる性教育の充実(教職員の研修も含む)	(県)心に元気をはぐくむ道徳教育推進事業 10月25日
中北教育事務所	中学校	須玉中学校	「確かな学力」の定着を目指した学習活動の展開	「学ぶ力」「学ぼうとする力」の基礎・基本を身につける取り組みを通して	1 基礎学力の補充と定着 2 学習に向き合う姿勢の育成 3 教師の指導力の向上 ・「朝の読書」「礎の学習」「琢磨の時間」の実践の工夫と継続 ・学習規律の確立 ・家庭学習の習慣化(教科指導、学級指導) ・実態に応じたきめ細かな指導(評価と指導の一体化) ・1人1実践(授業研究)	
中北教育事務所	中学校	白根巨摩中学校	心を耕し、よりよく生きようとする人間性豊かな生徒の育成		◎ 総合単元的な道徳学習を通して、生徒の内面に根ざした道徳性を養う。 ・「生命尊重」「思いやりの心」を基盤としつつ、各学年ごとに重点項目を設定し、単元 構想の構築・総合単元的な道徳学習の実践を行う。 ・全教育活動との関連及び総合単元を踏まえた年間指導計画の再構築を行う。 ・地域人材等の活用を継続的に行い、実践的な研究を進めるとともに、教材化に結びつく資料の収集や人材等の発掘を行う。 ・研究授業を行い、学年部の研究を全体のものとする。 ・学校開放日を利用し、保護者及び地域への道徳の時間の公開を行う。	

中北教育 事務所	中学校	葦崎西中学校	人間性豊かな生徒 の育成	豊かな心を持ち、 主体的に自己表 現できる生徒の 育成	①教科部会 ・めざす姿を明確にした生徒主体の授業の創造 ・中心課題＝「自己表現の場」を意識した授業の創造 ②領域別部会 ○道徳 ・心を育てる道徳 ・中心課題＝参加・体験型学習の研究・実践(授業提案) ○特別活動 ・集団の質を高める特別活動 ・中心課題＝自治力を育てる指導・支援の研究・実践 ・中心の場＝学年生徒会(学年運営委員会)等の絞った場で ○西鐘の音(総合的な学習) ・地域と連携し、身近な問題の解決を図る総合的な学習の時間 ・中心課題＝	(市)生涯学習推進 校
中北教育 事務所	中学校	甲西中学校	「基礎・基本の定着 を図り、確かな学力 を身につける指導の 工夫」	～生徒の実態に 応じた指導・支援 体制の充実を通 して～	研究の柱を以下の三点として研究をすすめていく。 ①授業改善, および質の向上 ・授業改善アドバイザーに協力をお願いし, 教師一人一人の力量の向 上を図る。授業研究をその研究の中心にすえ, 生徒にとって「わかった」 ことが実感できる授業づくりを追求していく。 ②個への指導・支援体制の充実 ・放課後, 長期休業中に学習相談日を設け, 全校体制で支援にあたる。 生徒の変容がみとれる記録(学習相談カルテ)を作成する。個の状況をつ かみ適切な支援の方法を研究していく。 ③家庭学習の習慣確立の支援・指導 ・アンケート調査を実施し、実態	(国)学力向上拠点 形成事業推進校 (確かな学力育成 の実践研究事業)
中北教育 事務所	中学校	高根中学校	学びの意欲を高め る、学習指導と評価 活動の展開		研究の重点を「ねらいの明確な授業づくり」「生徒一人一人が学びの意 欲を実感できる評価のあり方」の二つにおき、まさに「指導と評価の一体 化」といわれる部分に焦点を当てて研究を進めている。 特に、生徒のよい点や進歩の状況を積極的に評価する「ポジティブな 評価観」へと教師の意識を変えていくという認識のもとに研究を進めて いる。 授業内における即時的な評価が生徒の学びの意欲を高めることを意 識しながら、研究仮説を「授業の中で、ポジティブな評価を工夫して取り	(県)学びの意欲向 上推進事業 10月 20日
中北教育 事務所	中学校	芦安中学校	望ましい人間関係を 築くことが出来る生 徒の育成	全校道徳の授業 の工夫を通して	本校は全校生徒22名の小規模校であり、全校で様々な役割を分担して 色々な成果をあげている。しかし、グループを作って他の生徒との関わり を避けたり、思いやりに欠けた言動も見られる。そんな現状を改善する ため、2年前からこの主題で道徳の授業を中心に研究を重ねてきた。そ の成果を生かしつつ、さらに向上させる手段として、全校職員による全 校道徳の授業を中心に研究を進める予定である。具体的には、月1回 のペースで全校道徳を全職員が1回ずつ行う。その際、研究主題や諸 活動に絡めた内容で行い、生徒の変容についても検証する。又、各教 社会の激しい変化の中、これから生きていく生徒に必要な資質として	(県)キャリア教育 実践プロジェクト
中北教育 事務所	中学校	敷島中学校	自ら考え、学び、行 動する生徒の育成 「教育課程の実践と 検証を通して」		「生きる力」の養成が急務である。そこで本校では、具体的に本年度の 研究主題である「自ら考え、学び、行動する事ができる生徒」を育成する ため、各教科においては教師主導から生徒主体の指導方法の工夫や 授業研究に努める。道徳においては週一時間の「道徳の時間」を大切に し、各学年ごと共通の題材、教材のファイル化に努め生徒の心の落ち着く 居場所としての学級や学校づくりの一手段として道徳をとらえ、生徒の 道徳的実践力や実践を強化していく。また、「総合的な学習の時間」の3 年間のタテの流れを意識し、生徒の発達段階に応じた年間指導計画の 実践と改善に努める。以上の3つを柱に研究授業を数多く設定し実践を	
中北教育 事務所	中学校	白州中学校	生徒が生き生きと学 ぶ授業の創造	感動と実感のある 授業づくりを通 して	各教科ごと生徒につけさせたい力を明らかにし、その評価方法を確認し ていく。また、生徒にとって感動と実感のある授業を工夫して実践し、年 数回の研究授業を設け研究を深めていく。	
中北教育 事務所	中学校	泉中学校	豊かな人間性を持 ち、主体的に取り組 む生徒の育成	福祉教育を通し て、思いやりの気 持ちや主体的に 他と関わる力を育 てる	昨年度は「福祉教育」に取り組み、福祉講話集会、疑似体験、車椅子 体験などを行った。また、学年ごとに福祉施設訪問交流活動を行い、実 際に高齢者と接することもできた。さらに、昨年度は県教委指定の「心に 元気を育む道徳教育推進事業」の指定校として、道徳教育との連携を 図り、福祉施設で働いている職員や、実際に障害を持った方をゲスト ティーチャートして公開授業も行った。これらの学習を通じて、高齢化社 会や障害者についての知識・理解を深めるだけでなく、生徒一人ひとり がたくさんの驚きや発見をすることができた。	

中北教育事務所	中学校	田富中学校	「生きる力」につながる「よりよく生きる」生徒の育成	「環境(人・社会・自然)」とのかかわりを生かした体験活動を通して	研究目標を『実践・検証を通して、「豊かな人間性(命の大切さ)を育むための体験活動の工夫(活動内容、教育課程の位置づけ、指導方法)を行い、さらに、活動に対する評価の観点や方法を明らかにする。』とし、本年度の研究内容は「教育課程全般(教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間)において、豊かな人間性を培わせる(命の大切さを学ばせる)体験活動の実践を通し、①導入の在り方及び教育課程への適切な位置づけ ②プログラム及び指導方法 ③評価の観点や評価方法の検証と再検討を行う」こととした。具体的な手だては、体験活動の構築として、「生きる力」の「豊かな人間性」に視点を置いた体験活動の実践を通して、内容・指導法を生徒の変容の様子から検証し、深化させていくことや、体験活動の評価の観点や評価方法の工夫として、昨年度作成し	(国)豊かな体験活動推進事業(命の大切さを学ばせる体験活動)
中北教育事務所	中学校	長坂中学校	『確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ生徒の育成』	学習活動を主体的に展開する効果的指導法の研究を通して	学力向上拠点形成事業の指定2年目となる今年、研究仮説を『互いに学び合える学習集団の中で、学ぶ意義を理解し、自己を表現する喜びを味わわせれば、主体的かつ意欲的に学ぶ生徒が育つであろう』とし、次の4つの柱を設けて研究を進める。【ア】[授業ガイダンスの一層の充実]を目指した指導の研究として、学習習慣の定着・目標の明確化・評価についての提示・家庭学習の方法などを検討する。【イ】[表現力の向上]・「書く(描く)こと」「発表すること」など表現内容、方法、場面などを研究。【ウ】[優れた学習集団づくりの研究]・学級を主体とした学習集団の現状分析と、集団作りのための方策を探る。【エ】[少人数学習と個に応じた指導の充実](全教科)・ペア学習などの多様な授業形態、少人数	(国)学力向上拠点形成事業
中北教育事務所	中学校	小淵沢中学校	「生きる力」をはぐくむ学びの場の創造	一人ひとりの力を引き出すための授業の工夫	*本校生徒の実態を受け、「生きる力」を育むための「学びの場」を今年度は授業に絞って、授業を通して生徒と生徒、生徒と教師の関係が円滑になり、学級の中で自分の考えを間違えることを恐れずに安心して発表できること。そういう場となっていることが大切であると考え、生徒一人ひとりが、自分自身の抱える課題や問題に気づき、他との関わりの中で自分を表現し、自らの力で立ち向かい、解決の方法を考え実践する力を身につけるために、有効な授業のあり方を探る。	
中北教育事務所	中学校	明野中学校	生徒の学ぶ意欲を高める手だての研究		授業における意欲を高めるための導入と発問、評価の工夫を研究する。各教科でそれぞれの授業に必要な基礎、基本を明らかにする。国語力向上を目指し、読書、発表活動をする。道徳の授業を通して、他との関係や自分の活動を振り返り、良好な人間関係の中で自分を発揮し伸ばせるような心と態度を育てる。中学校で必要な生徒の資質向上を図る	(県)心に元気をはぐくむ道徳推進事業
中北教育事務所	中学校	白根御勅使中学校	生きる力を育てる学習指導の研究 ～教科・道徳における授業の組み立てや発問の工夫を通して～		教科・道徳の授業を通じて、学習過程の構成や効果的な発問の工夫を研究、実践をする。昨年度の研究の成果を踏まえ、①全教師による一人1実践(教科での研究や実践を高めるために、校内授業公開を積極的に行い、お互いに学びあう。)②研究授業を、教科、道徳でそれぞれ行う。③夏休みの校内研究会では、講師を招き学習会を開く。④道徳の授業を各学年で検	(市)地域ふれあい道徳推進事業 (国)キャリア教育実践プロジェクト事業
中北教育事務所	中学校	竜王中学校	自ら学び、心豊かで、たくましく生きる竜中生の育成	基礎学力を高める指導の工夫から	*研究の柱 ①「基礎学力」を高める指導の工夫 ②「豊かな人間性」を育む研究 *具体的な研究内容 1)基礎学力向上 ①学校経営方針にもある「基礎学力」向上を考慮して、基礎学力の向上・教科の基本的学習事項の定着に関する研究を行う。 ②「基礎学力」についての共通理解を図る *「基礎学力」の捉え方 「読み・書き・計算」に代表されるすべての学習を成立させる上で必須の基礎的な力・技能。 ・教科独自の基礎的な知識・技能を含む 2)「道徳」授業実践を通して道徳教育の充実を図る	(県)平成18年度心に元気をはぐくむ道徳教育推進事業研究指定校 (県)平成18・19年度山梨県小中学校体育連盟研究指定校
中北教育事務所	中学校	竜王北中学校	自ら学び 意欲的に活動する 生徒の育成	一人ひとりの確かな学力向上を目指して	学習意欲を育てていくことに重点をおき、基礎基本の充実をはかっている。教科研究を中心に、授業研究、授業公開をおこなっていく。学校生活において、生徒と教師、生徒相互の豊かで安定した人間関係の構築、互いの信頼を基礎とした指導をおこない、学習指導、集団作り	
中北教育事務所	中学校	若草中学校	主体的・創造的に活動できる心豊かな生徒の育成	各教科における国語力の向上をめざして	(1)各教科における国語力を向上させるための指導法の研究・実践・検証 ☆授業提案(研究授業)の実施(7月、12月、2月) ☆授業案作成と授業実践(一人一実践) (2)「道徳」の授業時実践の積み重ね	

峡南教育事務所	小学校	富河小学校	自ら学び、たくましく生きぬく子どもの育成	自分の思いや考えを生き生きと表現できる子ども	「自己表現力」の育成、特に「話すこと・聞くこと」を中心に研究活動を推進する。 ・各教科、指導過程における意図的な場の設定 ・支援のあり方、学習形態、評価方法の工夫	
峡南教育事務所	小学校	下部小学校	自ら考え、主体的に学ぶ児童の育成	確かな学力を保障するための授業の工夫	①これまでの教育改革の経過と、その中で議論された諸問題を理解する。 ②何を大切に授業展開するのか、議論を通して共通理解できる部分を探る。	
峡南教育事務所	小学校	原小学校	学ぶ楽しさを感じ、確かな学力を身に付ける子どもの育成	共に学び高め合う算数科の授業を通して	以下のことを中心に、学び合う関係づくりを仕組んだ算数科の授業の工夫を試みる。 ・算数学力テストの結果の考察と活用 ・学ぶ意欲に関わるアンケート調査と活用 ・教材研究と教材開発 ・学習指導方法の工夫 また、授業実践を通して、算数科で育てる学力と基礎・基本の明確化を	
峡南教育事務所	小学校	睦合小学校	心豊かな人間性を持つ睦っ子の育成	基礎学力の確かな定着を通して	「読み・書き・計算の力」の習熟・定着の取り組みを通して、基礎学力を子どもたちに確実につけていく。それによって、達成感と自信を持たせることで、自己肯定感や学ぶ意欲を高めていく。個々の力を高めていくことと併せて、学習形態を工夫したり学習の中に聴き合い場を取り入れたりして学び合う授業づくりをすることで、学習集団としての力も高めていく。お互いを認め合い、学び合う集団づくりを通して、豊かな人間性を育ん	
峡南教育事務所	小学校	久那土小学校	「学びの共同体」としての学校をめざして		(1) 学びを中心とする授業の研究と実践 ①教室に響き合う関わりを育てる ②教材にじっくり出会わせる ③協同的な学びを組織する ④知識や技能を表現し共有する活動を取り入れる (2) 専門家として育ち合う同僚性の形成 ①個人研究テーマに基づく研究の推進 ②一人が最低1回以上を授業を公開する ③他者から学ぶ機会をつくる ④授業研究会の充実 (3) 保護者の学習参加 (4) 久那土小国債理解教育の実践 (5) 久那土小学校の校内研究の発信 「LIVE「学びの共同体」創り」の発行	
峡南教育事務所	小学校	増穂小学校	実感のある学びをはぐくむ授業の創造	「総合」「生活科」の学びを生かして	○「総合」「生活科」の学びを基盤とした教科学習の在り方に関する理論と実践の研究。 ・「総合」の学習活動について、テーマタイムと国際タイムを柱とした実践を通しての研究。 ・「生活科」の学習活動について、指導計画・単元構想に基づいた実践を通しての研究。 ・「総合」「生活科」の学びを生かした教科学習の活性化を目指した研究。	
峡南教育事務所	小学校	増穂西小学校	確かな学力を育てる授業の創造	子どもたちの考える力を高める指導法の研究	今年度は、本校の求める確かな学力のなかの、「考える力」に焦点を当て、その指導法についての研究を行う。 1. 子どもの考える力を高める指導。 * 授業作りの視点に立った実践。 (発問・板書・教材教具・教室環境など) * 子どもたちの学びを評価・検証。 2. 複式・小規模校の特色を生かした授業の創造。 3. 特別支援教育について講師を招き、理解を深める。	
峡南教育事務所	小学校	上野小学校	生き生きと学び合う子どもの育成をめざして	実践を通して伝え合う力をどう育てるか	「伝え合う力」には「話す」「聞く」「書く」という言葉による伝達と、言葉以上に伝え合っている言葉以外の伝達とがあることに着目し、子どもたちの言葉にならない表現が何を伝えているのかを受け止め、向き合い方を考えながらそれに働きかけることによって子どもたちはより伝え合えるようになり、より学び合うことができるようになるのではないかと、ということの研究仮説として重点にして研究をすすめる。具体的には、言葉以外の伝達が行われていること、それが何を伝えているのかの考察、また、伝	

峡南教育事務所	小学校	六郷小学校	主体的に学ぶ児童を育てる	かかわり合って学ぶ授業をめざして	1. 研究内容 ①教科・道徳・特活・総合的な学習の時間など、すべての学習活動の場を通して「かかわり合って学ぶ授業」を追求する。 ②コンピュータの基本操作やいろいろなソフトについて学習する。 ③特別支援教育について学習をし、理解を深める。 2. 研究方法 ■個人研究を出発点とし、全体研究の場で個人の研究課題を深め、再度個人研究に戻していくことにより授業力を高める。 ■そのために全体研究テーマに関わって、個人研究テーマを各自設定する	
峡南教育事務所	小学校	早川北小学校	「論理的思考力」の育成からの「国語力の向上」		(1)各児童の実態を国語力の観点からも把握し、本校のめざす「国語力」を明らかにする。 (2)学校での全活動を通し、「国語力」の向上を図れるように各取り組みを充実させ、また、それぞれが、相互作用的に機能するよう組織化し、共通認識を深める。 (3)指導案の形式について、再確認をし、「ねらい」を起点に、教材を活用し、授業を構成する認識で授業改善を図る。 (4)完成半ばの「国語科内容のまとめりごとの具体的な評価規準」のA基準を作成し、活用することで、授業において国語科のねらいにより深くせまる。また、領域の縦の系統性をより明確にする	
峡南教育事務所	小学校	身延北小学校	主体的に生きる力を育む教育活動の創造	一人ひとりがかかわり合い、学び合う授業づくり	子どもたちがより主体的に学びを深めながら人やものや社会とかかわり、よりよく生きようとする力の育成を目指して研究を推進していく。主体的な学びが展開されるのは、子どもたち一人ひとりが、その教材と深く関わり、学ぶ必然性を認めたとときであると考え、子どもたちの日々の実態把握につとめながら、教材の設定を工夫する。また、子どもたちの学ぶ力が高まるのは、自分と同じ考えや違う考えに気づき、さらに自分の考えを深めるときであると考え、子ども同士の考えをどう組み立てすりあわせていくのか、学習過程の工夫につとめる。 具体的には、低・中・高のブロックごとに「めざす子ども像」と「研究テーマ」を設定し、日々の授業づくりにつとめていく。全学年研究授業を行う。そのほかに、テーマに合った理論研究、臨地研修、先進校視察なども行	
峡南教育事務所	小学校	身延西小学校	『学びを楽しむ子どもの育成』	「読む力を高める指導の研究」	(1)国語科の授業において、「読む意欲」や「読む技術」を習得させるための指導の工夫を研究し、具体化させることにより、児童に、自ら課題を設定し、主体的に問いかけつつ読み進めていく能力を身につけさせる。 (2)学校や家庭において、読書環境を整え、読書が生活の一部となるような手だてを意図的に仕組むことにより、児童が、読書の喜び・面白さを体感できるようにし、「読む力」を高める。 (3)学校教育活動全体、家庭生活、地域生活の中において、学習内容や学習方法を工夫し、家庭・地域と学校の連携を推進することにより	
峡南教育事務所	小学校	身延東小学校	「異文化を学び、共に生きようとする子どもの育成」	～国際理解教育(英語活動)を通して～	①研究発表大会に向けて発表内容のとりまとめと準備 ②国際理解教育(英語活動)のカリキュラムの検討と再構築 ③ALTと学級担任の英語学習授業における役割分担や関わり方の研究 ④学級担任にもできる英会話例の収集と実践 ⑤国際理解教育の学習素材の収集と系統化 ⑥国際交流会の企画・運営・成果のまとめ ⑦基礎・基本の学力定着化に向けての実践 ⑧「生命の教育」の推進	小学生英語活動研究発表大会 7月28日
峡南教育事務所	小学校	西嶋小学校	「学ぶ意欲を支える授業の創造」	算数科・生活科の授業づくりの研究を通して	・実態調査を行い、児童の興味・関心・「学ぶ意欲」の測定などデータを渡し、児童理解・教科単元の構想の手だてとする。 ・理論研究を行い、「知的好奇心」をもって「学ぶ楽しさ」をつかめる授業づくりをすすめる。 ・授業研究を通して、実態を見据えた指導法・単元構想の実際を検証す	(県)「学びの意欲向上推進事業」 11月17日
峡南教育事務所	小学校	栄小学校	『互いに学び、高め合い、生き生きと活動できる子どもの育成』	一語力を育てる学習指導	(1)国語力についての共通理解を図る (2)国語科における各領域及び言語事項の身につけさせる力の重点化を図る (3)子どもたちの実態をしっかりと把握し、指導と評価の一体化を図る (4)国語力向上に向けた授業実践の工夫をする	
峡南教育事務所	小学校	市川南小学校	実践行動へ！意識の連続性を大切にしたい道徳学習の創造	～道徳の授業を核にして～	昨年度は、文科省の「児童生徒の心に響く道徳推進事業」の指定を受け研究を進めてきた。今年度は、昨年度の成果と課題をふまえて「体験活動や地域の人とのふれあいを取り入れた道徳学習において、多様な指導法や道徳的価値意識を継続させる取り組みを効果的に行い、一人一人が人間としてよりよく生きる道徳的実践行動をする児童の育成を図る。」を研究目標に設定し、道徳教育の研究を進める。具体的には、①道徳教育カリキュラムの改善②児童の実態把握③道徳の学習づくり④環境	

峡南教育事務所	小学校	早川南小学校	「自ら取り組み、生き生きと活動する児童の育成」	伝え合う力の向上と小規模の特性を生かした学習活動の工夫をとおして	(1)伝え合う力を育てつつ、同時に読む力も育てていくことを目的とした指導の在り方の研究。 ・国語科における対話を生かした「読み」の学習研究 ・伝える力を伸ばす基礎基本の学習指導の工夫 ・個に応じた学習方法の工夫 ・小規模の特性を生かした授業法研究 (2)小規模の特性を生かした教育諸活動の工夫 ・全校児童による吹奏楽活動の充実 ・読書活動、運動タイム、学びっ子タイム等の業前活動の工夫研究 ・異学年間による交流的な授業、総合的な学習の時間の在り方を	
峡南教育事務所	小学校	鵜沢中部小学校	ともに学び、すすんで考える子どもの育成	少人数学級で、ひとりひとりを生かして多様な考えを持つ指導を通して	全校児童21名の小規模校であり、各学年数名の学級編成である。そのため、子どもたちが、いろいろな考えを持つことが少ない現状がある。そこで、多様な考えを引き出す指導を講ずれば、教師と児童・児童と児童の学び合いが深まり、進んで考える子どもが育つであろうという、研究を	
峡南教育事務所	小学校	五開小学校	夢を育む「生活科」と「総合的な学習の時間」の充実	一 国語科との関連の研究を通して	・「生活科」「総合的な学習の時間」のねらいを達成するための単元設定 ・「生活科」「総合的な学習の時間」と国語科との関連表の見直し ・「生活科」「総合的な学習の時間」と各教科の発展的内容との関連 ・学びを支える国語力の充実(実態把握・理論研究・授業実践・言語環境の整備)	
峡南教育事務所	小学校	市川小学校	自ら「見つめ、調べ、まとめ、表現する」子どもたちの育成を目指して	評価と指導の一体化を図った授業の創造	①指導と評価と支援の計画を立て、目標・評価規準・評価方法・支援の方法を明確にして 子どもの抱えている課題を見出し、その課題に応じた指導の工夫改善を図る。 ②観点に沿った評価活動の見直しと指導の振り返りを行い、具体的な改善策を新たな計画 に生かす。 ③評価に関する研修の充実を図り教師の力量を高める。 ④指導方法や学習形態の工夫・改善を図ったり、基礎・基本的知識や技能の習得を目指し た学習意欲を向上させるような教材開発を図ったりする。 ⑤算数を研究対象として授業研究を行う	(国)学力向上拠点校 形成事業 拠点校
峡南教育事務所	小学校	大塚小学校	表現力の育成をめざして	構成的グループエンカウンターの研究・実践を通して	(1)「構成的グループエンカウンター」の理論研究と実践 (2)「楽しい学校生活を送るためのアンケート(Q-U)」の研究 (3)SGEのモデルプラン作成のための研究 (4)エンカウンターを使った道徳授業案の作成と実践 (5)町教協の授業公開に向けての取り組み (6)センター研修への参加 (7)初任者研修のバックアップ (8)コンピュータを効率的に操作するための研究	心に元気をはぐくむ道徳教育推進事業校 10月25日授業参観として公開
峡南教育事務所	小学校	増穂南小学校	主体的に学習し、共に学び合う子	自分の考えを伝え合える子どもを育てる	子どもの個の「みどり」(ひとりひとりに視点をあて、個の考えや変容をみとる指導)を深め、それをもとにして授業で次のような研究を行う。 ・子どもの興味関心を高め、学習に対して意欲を持つ。 ・子どもひとりひとりが自分の考えをしっかりと持つ。 ・意見交換の場を授業の中で設定し、ひとと積極的に関わり、自己表現する。 ・自己評価や相互評価を行い、自分や他の良さに気づく。	
峡南教育事務所	小学校	身延南小学校	「豊かな人間性の育成をめざす教育」	子ども一人ひとりに生きる力を育む授業の創造	低・中・高学年の3ブロックごとに研究テーマに迫るための研究方針をたて、研究授業を中心に研究を進めていく。生きる力を育むための授業作りとして ・個を生かす授業の創造 ・命の大切さについて学ぶ授業の創造 ・絶対評価の研修 をかかげ実践をしていく。その中でも「命の教育」に中心をおき、各学年	命の大切さを学ぶ教育体験活動
峡南教育事務所	小学校	静川小学校	「一人ひとりに適切な教育支援の在り方」	～ 支援の積み重ねを大切にしながら授業づくりを通して ～	○児童のさまざまな実態に応じた支援・指導法について研修する。 ・全学年(6学年)が授業研究を行う。それぞれのクラスの実態に合わせ、児童が学習や生活の中でつまづき、抱えている「困り感」の背景を解明し、適切な具体的支援の手だてを探る。全教職員で研修を重ね、共通理解を図る。 ・特別支援教育に深く携わっていらっしゃる講師の先生方を招き、研修をする。 ・実態把握のための観点として、学習・行動・コミュニケーション・対人	

峡南教育事務所	小学校	市川東小学校	思いや考えを豊かに表現できる子どもの育成	「書く力」をつける指導を通して	「書くこと」を中心にして、自らの考えを豊かに表現するための教育活動の工夫・改善をしていく。そのために、日常活動や他教科他領域での「書くこと」の意識付けを図り、表現力を育成するための指導法について研究し実践する。合わせて言語環境についても整備していけるようにする。 「書くこと」を中心にした適切な表現力を身に付けさせる授業についても工夫・改善を続ける。また、児童の変容を把握するための実態調査を実施し昨年度と比較し評価していく。「書くこと」を日常化させる指導・評価や「書く力」を高めるための学習指導過程についても研究する。 これらの実践が表現力を高める効果へとつながったかを検証するため	
峡南教育事務所	小学校	万沢小学校	個を大切にしたい指導・支援の在り方を追求する	算数の基礎・基本を定着させる。特別支援教育についての学習を深める。	(1)算数科の授業実践 ・「算数の基礎的な学習内容を理解させるための指導」を工夫した授業づくりを行う。 ・算数カルテをもとに、授業を通し、実際に評価活動を行い、児童の実態把握に努める。また、算数カルテの中で教材配列や系統性について見直す点についてはその都度 変更を加えていき各学年の必要な指導内容について整理する。 ・子どもたち一人ひとりの算数カルテを作成する。 (2)特別支援教育について ・「特別支援教育」について学習し、教師一人ひとりの認識を高め研究を深める	
峡南教育事務所	小学校	鵜沢小学校	心豊かに、たくましく生きる力を育てる教育の創造	コミュニケーション能力を高める指導を通して言葉を育てる言語指導を通して	・コミュニケーション能力を向上させる授業・指導の在り方を、授業研究を通して検証していく。 ・コミュニケーション能力の各学年の到達目標を、実践をしながら修正していく。 ・児童の実態把握や指導の効果を見るため、アンケート調査を行う。 ・特別支援を要する児童に対する教師の対応の仕方・見取り方や周囲	
峡南教育事務所	中学校	下山中学校	「自ら考え主体的に判断し、行動できる生徒の育成」	セルフ・エスティームを育む教育活動を通して	学年担当を生徒指導の中心としながらも、全職員が生徒の個性を多面的に捉え、お互いを補完し合いながら、生徒の実態に即した生徒指導に当たる。エスティームカードや「POEM」「Q-U」などの心理検査等を手がかりに、で生徒理解・生徒指導に関する実践的な研究の場を設定する。教科担当と学年担当の連携を大切にしながら、全校体制で生徒一人一人に確かな学力を育む取り組みをすすめる。生徒に学習の目標を明確にした取り組みを示しながら、「わかる」「できる」ことを通して学ぶことの楽しさを実感できるよう取り組む。生徒会活動や学級活動・学校行事などにおいて、生徒が自分たちの生活や活動をみつめ、自らよりよい生活を創り出そうとする取り組みをすすめる。「心に元気をはぐくむ道徳推進事業」指定校であることをふまえ、学習会・授業案検討会・授業公開・講演会を持つ	(県)心に元気をはぐくむ道徳推進事業
峡南教育事務所	中学校	市川中学校	生き生きと意欲的に学び合う生徒の育成		本校は昨年度より3年間の「学力向上拠点形成事業」拠点校の指定を受けている。「学力低下」「学びからの逃走」など、教育への様々な指摘があるなかで、その視点から本校の生徒を見たとき、本校の実態はそれほど危機的であるとは感じないが、「目的意識を持って意欲的に学習に取り組んでいるか」というと心許ない。また学習集団の「二極化」も問題である。ここで本校生徒に学ぶことの意義や喜びを再認識させ、学ぶことに対して意欲的な姿勢を身につけさせたい。その取り組みが本校生徒の「学力向上」につながっていくのではないだろうか。そこで、「意欲」と「学び合う」ことをキーワードに「生き生きと意欲的に学び合う生徒の育成」という主題を設定し、生徒たちの学習意欲を引き出す方法の研究、生徒の学び合いを大切にした授業の研究、生徒たちが生き生きと意欲的に学ぶ環境や、それを支えるシステムの研究を推進し	(国)学力向上拠点形成事業拠点校
峡南教育事務所	中学校	富河中学校	21世紀を主体的に生きる生徒の育成	「学び」を中心とする授業の創造	生徒同士のかかわりやつながりを大切にしていくために、授業の中に小グループ活動を取り入れ仲間同士で学び合うことにより、学ぶ楽しさや意欲、学びの質を高めていきたい。 ■一時間の授業の中に、「活動」「協同」「表現の共有」という活動を取り入れる。 ①「活動的であること＝問題解決を図るための思考を伴う活動。今まで学んだことを使う活動。 ②「協同的であること＝小グループによる学習活動。 ③「表現的であること＝他者の表現を耳と目で集中させて聴き取り、それに対して自分の考えをぶつけたりする学び合いの活動。 ■自己評価力を高めるために、評価相手を生徒と共有していく方法や	

峡南教育事務所	中学校	下部中学校	「確かな学力をもつ生徒の育成をめざして」	～「聴き合い、学び合う授業」の創造～	(1)教科での、確かな学力の定着と「学び」の研究（授業を通して実践） (2)学びの原因作りの研究（アンケートなどを通して検証） (3)小グループ活動を行うことによる「聴き合い、学び合う授業」の研究 昨年度の1学期に富士市の「岳陽中学校」へ視察に行き、岳陽中学校の実践に関する書物も読み、学習し、「学び」についての研究をスタートした年でもあったので、教師1人1人の授業に「学び」を取り入れた実践が行われ始めたと言える。昨年度の反省で、全員が授業を見せ合い、生徒の学ぶ姿勢を共有できたことは成果であるが、「学ぶ」「学び」について共通理解するまでは至らなかった。	
峡南教育事務所	中学校	身延中学校	『自ら学び意欲的に活動する生徒の育成』	～確かな学力の向上をめざす、個に応じた学習指導の工夫～	①個に応じた学習指導(教材開発・指導方法・指導体制)に関しては、授業研究の柱として継続研究を行う。また、これらを含めた単元構想づくりを進める。 ②評価については、ガイダンス(授業計画・評価の観点の提示)、自己評価・相互評価の改善を行い、学期末の評価につなげていく。 ③実践検証としての「道徳」(「心に元気をはぐくむ道徳教育推進事業」の推進校として 学校・家庭・地域の連携による「豊かな心をはぐくむ実践活動」の研究推進を図る。)と「学活・総合的学習をとおしての生き方学習」(啓発的体験学習を取り入れた進路指導や総合的な学習を年間計画に基づき実践し、課題等を明確にし精選や見直しを考えていく。) *上記、3つの柱について、実践研究を行う。 *教科に関しては、授業研究を効率的に進めるために、3つの研究づ	(県)心に元気をはぐくむ道徳教育推進事業 11月8日(水)
峡南教育事務所	中学校	久那土中学校	「学び」を中心にした授業の創造 ・背伸びとジャンプのある授業をいかに創造するか ・「聴くこと」「つなぐこと」「戻すこと」の研究と実践	0	従来、学校における「仲間作り」は、行事や学年・学級活動等で主に育まれていた。本校では、それら従来の活動に加えて、日々の一時間一時間の授業の中で「仲間作り」を積極的に行っていくことに挑戦していく。言うまでもなく、さまざまな学校の活動の中で最も多くの時間をしめているのが「授業」であるからである。学校改革の中心に日々の授業を据えて、静かに、ゆるやかに、しかし確実に学校を改革していく。具体的な取り組みとしては、毎日の授業の中に、「作業(活動)」「グループ(協同)学習」「表現の共有」の3つの要素を取り入れるようにし	身延町研究センター校 11月27日
峡南教育事務所	中学校	三珠中学校	心豊かでたくましく主体的に活動する生徒の育成	～生徒の心に響く道徳教育の実践を通して～	(1)授業研究の推進 道徳の時間の充実をはかるため、指導法の工夫や生徒の心に訴えるような教材に関する研究。またゲストティーチャーを迎えての授業の実践についての研究。(2)地域や家庭と連携した道徳教育の推進 (3)学習会 理論学習会や講師招聘による学習会 (4)ボランティア集会など特別活動の実施	(県)「心に元気をはぐくむ道徳教育推進事業」 10月14日
峡南教育事務所	中学校	万沢中学校	確かな学力を定着させるための研究	学び合いのある授業を通して～各教科の授業の中から～	「すべての授業において、学び合いの成立した授業を実践することによって、生徒たちに確かな学力が身につくであろう」という研究仮説のもと次の事を研究の重点として取り組んでいく。 ①学び合いのある授業づくり ②全員が必ず授業を公開 ③授業後の研究協議会を充実 ④各自が個々のテーマに沿って研究	心に元気を育む道徳教育推進事業
峡南教育事務所	中学校	増穂中学校	「主体的に学び、活動する*1生徒の育成」	～生徒の学習意欲を高める授業づくりを中心にして～	今年度も、生徒一人ひとりの学習意欲を高める授業をつくることに力点を置き研究および研修を進める。そのアプローチとして「協同的な学び」を導入することで主題に迫りたいと考えている。「協同的な学び」とは、小グループでの学習を導入することで、一人ひとりが声を発し安心して意見が言えるような授業の実現である。このような一人ひとりの生徒にとって疎外感のない授業こそ、個々の生徒の学習意欲を高めることにつながると考えている。そしてさらに、小グループの学習の中で、理解の早い生徒と理解の遅い生徒が協同的に学ぶことによって、理解の遅い生徒が理解の早い生徒に支援を受けながら学ぶことができ、学力の	(県)学びの意欲向上推進事業 11月28日(火)
峡南教育事務所	中学校	早川中学校	生きる力を育てる早川中教育の創造	表現力を高める指導の工夫 「表現活動の充実」「基礎学力の充実」	①表現力を高める工夫・研究を進める。(合唱時の表情・授業の発言する時や総合の発表時) ②授業研究を必ず一人一回は行う。 ③基礎学力の定着を図る指導方法の工夫する。 ④生徒一人一人の情報交換を行う。 以上4項目について研究を進めていく。	

峡南教育事務所	中学校	市川南中学校	自ら考え、判断し、主体的に活動できる生徒の育成	「確かな学力」を身につけるための学習形態の工夫と指導法の改善	(1)「確かな学力」の定着につながる各教科の学習形態の工夫 ・本校における「確かな学力」を明らかにする ・個々の生徒の実態を把握する ・各教科におけるTTの理論研究、授業への具体的な導入方法を探る ・個々の生徒にあった学習支援の在り方を探る (2)道徳教育におけるストレス・マネジメント教育の在り方 ・個々の生徒の実態を把握する ・各学年におけるストレス・マネジメントの道徳年間指導計画への位	
峡南教育事務所	中学校	六郷中学校	心豊かで意欲的に活動する生徒の育成	確かな学力を身につける指導方法や学習形態の工夫と改善	・生徒の実態調査や学習状況の把握 ・各教科での指導方法、学習形態、評価・支援の日常的な工夫の具体化 ・各教科における「基礎的、基本的内容」「身につけさせたい力」についての検討 ・特別支援教育を推進に向けて中学校のあり方についての理論研究ならびに学習会	
峡南教育事務所	中学校	南部中学校	自ら学び、進んで活動できる生徒の育成	基礎・基本の定着を図る指導の工夫	授業研究と領域(国語力向上)研究の二本立てで行い、授業研究を[道徳・特別活動ブロック]・[教科ブロック]に、領域研究を[日常活動推進ブロック]・[読書活動・地域連携推進ブロック]に分け、ブロック研究を主体として研究を進めていく。特に、教科研究では、基礎・基本の定着を図る授業の実践に向けて取り組む。また、領域研究では、前年からの継続研究として、国語力の向上を目指していく。 ○各自の担当教科へ集中できるような体制をつくり、基礎・基本の定着と学習意欲の向上に向けての指導方法のあり方を探る。 ○具体的に数字で表れるような目標をたて、実現に向けて手だてを工夫する。 ○学習規律の徹底(タイム席、忘れ物、あいさつ等)を図る。 ○各ブロックとも検証授業を行う。 ○「国語力の向上」のための指導や学習方法を探る。 ○生徒の「伝え合う力」の実態を明らかにし、実態を考慮した指導方法の工夫改善を図る。 ○互いの立場や考えを尊重しながら「伝え合う力」の育成を図るための学習方法を探る。 ○日常生活の中で「話す力、伝え合う力」を身につけるための方策を探る。 ○話す場・伝え合う機会を増やし、討議のあり方を探る。 ○伝え合うことに関心・意欲を高め、自分の伸びを実感できる評価のあり方を探る。 ○言語環境の整備に努め実践を重ねる。 ○「全校俳句づくり」を通して親子で俳句を作る活動、各種作文コンク	
峡南教育事務所	中学校	中富中学校	わかる授業・生き生きとした生活の創造	確かな学力を身につけ、主体的に課題解決に取り組もうとする生徒	授業を通して基礎学力の向上を図る。はじめに中富中のめざす「基礎学力」像・「課題解決力」像を描きたい。そのために学習会と先進校視察を行う。全職員が本校の描く「基礎学力」像、「課題解決力」像にむけて授業改善をしする。その成果を第35回自主公開で発表する。	自主公開 11月2日
峡南教育事務所	中学校	鵜沢中学校	活力にあふれ、人間性豊かな生徒の育成	生徒一人一人の学力向上のための指導の研究	*各教科における基礎的・基本的学習内容を定着させ、生徒一人一人のたしかな学力を身につけさせるための学習活動を創造する。 *学習活動における意欲向上のための具体的手だてを導入し、生徒が意欲的に学ぶ授業を創造する。 という内容のもと、以下の点を中心に研究します。 ・学習形態の工夫 ・授業内における意欲向上のための具体的手だての工夫 ・個に応じた指導方法の工夫	

峡東教育事務所	小学校	八代小学校	「生き生きと活動する子どもの育成」	伝え合い響き合うための活動をとおして	◎研究の仮説 1. 授業づくり研究仮説 国語科(A)において、発問の構造化(B)をはかることにより、伝え合い響き合い、生き生きと活動する子ども(C)が育つであろう。 2. 集団づくり研究目標 お互いを思いや考えを尊重し合う学級づくりに取り組み、生き生きと活動する子どもの育成を図る。 3. 教育環境づくり研究目標 子ども理解や地域・家庭との連携を深め、生き生きと活動する子どもの育成を図る。 ◎研究内容 1. 授業づくり研究 (1)「伝え合い響き合うための活動」の「響き合う」に焦点をあてて、発問の構造化の計画段階と授業での実施段階を分析してその有効性を確かめる。 (2)授業の話し合いなど協同的な活動の中で、子どもたちの考えを広げたり、深めたりして、お互いの考えを表現する活動の事例を授業実践を通して研究していく。 (3)指導段階表を活用し、④⑤を中心に付加修正する。 2. 集団づくり研究 (1)学級経営案の作成と実践交流 3. 教育環境づくり研究 (1)地域・家庭との日常的な連携活動の推進をする。(子どもたちの表現力を高めるための連携活動等)	
峡東教育事務所	小学校	富士見小学校	確かな学力を育む学習活動の創造	算数科における、基礎・基本の定着を図る指導方法と、学び合いの場の工夫を通して	算数科の授業づくり ①基礎・基本の確実な定着を図る指導方法の工夫。 ・児童の実態把握と単元の指導目標設定より、基礎・基本の内容を明らかにする。 ・朝の学習の充実、TT方式・少人数指導等学習形態の工夫を行う。 ・学ぶことの楽しさや充実感を味わう学習活動の工夫改善と教材の開発を行う。 ②学び合いの場の工夫。 ・子どもの思考を深め、課題を解決する学び中で、お互いの思いや考えを交流し、高め合う学習の場の工夫を行う。 ③評価活動の工夫。 ・授業の流れの中で、子どもの学びを受け止め、学び合う関わりを支える評価活動を進める。 ・書く活動を取り入れ、数学的な思考力、変容をとらえる手だてとする。 ・各種学力診断テストの活用により、学力の客観的な把握と学習計画の見直しを行い、学習の成果や伸びが得意に実感できる指導方法の工夫	学力向上拠点形成事業(確かな学力育成の実践研究事業)
峡東教育事務所	小学校	日川小学校	「学び合い、生き生きと活動する児童の育成」	「伝え合う力」を育てるための指導の工夫	①「書くこと」についての理論研究・学習会 ②「書くこと」についての指導の系統性の確認 ③「書くこと」の教材研究についての学習会 ④共同指導案づくり ⑤ 授業実践(一人一実践)・研究授業 ⑥言語環境を整えるという観点から朝の読書の機能的な運営を考える ⑦「生活習慣病の予防策を目指した歯・口の健康づくり事業」のまとめ	
峡東教育事務所	小学校	石和北小学校	「自ら学び、自ら考える子どもの育成」	子ども同士が、思考を伝えあう活動を取り入れて	○子ども同士が、思考を伝えあう活動を取り入れた教科の授業づくり ・一単位時間のなかでの「伝えあう活動」を取り入れる目的を明確化する。 ・評価規準と照らし、学習内容の基礎基本と「伝えあう活動」の関連を明らかにする。 ・「伝えあう活動」の具体的な姿について、北小モデルをもとに検証する。 ・「伝えあう活動」を行わせる手立てとして、学習集団・学習形態の工夫及び学習履歴の活用についての	
峡東教育事務所	小学校	井尻小学校	意欲的に取り組み、自ら追究する児童の育成	「国語力」を育てる国語科の授業づくりを通して	国語科の3領域の1つ「読むこと」に焦点を当てた研究 (1)「国語力」についての学習 (2)学習指導要領に示された「読むこと」の内容についての研究 (3)CRT検査からの国語力の把握と分析 (4)指導方法を研究し、授業研究によって検証 (5)研究の成果と課題の明確化 (6)国語の力を伸ばす他教科の授業の工夫 読書推進活動と言語の力を育てる環境づくりの研究	

峡東教育事務所	小学校	芦川小学校	「自ら学び、自ら考え、主体的に活動する子どもの育成」	体験的学習で問題解決の力や関わり合う力を育てることを通して	「生活科」及び「総合的な学習の時間」において ①体験的プロセスを取り入れた授業づくりを行ったり、地域や保護者の方に協力をお願いしたりする。 ②児童一人ひとりの実態を適切に把握し、問題解決の力・関わり合う力を育てる。 ③形成的評価を取り入れた指導と評価の一体化に取り組む。	
峡東教育事務所	小学校	祝小学校	学びの共同体づくり	～職員による一人1実践の取り組みを通して～	①本当の知恵、生きる力を身につけさせるための食教育・国語科・理科・生活科の授業研究。 ②「心温まる学級づくりを目指して」「特別支援教育」「児童会活動による児童の育成」「特色ある学校づくり」等の提案による研究協議。 ③体育科の授業研究を通して、楽しみながら運動に親しみ、自然と体力や気力が充実していく指導の研究。	
峡東教育事務所	小学校	御坂東小学校	命を大切にすることを大切にする心をはぐくむ道徳教育	道徳の時間を核とした総合単元的な道徳学習を通して	昨年度の実践を生かし、総合単元的な道徳学習において、見取りを生かした道徳の指導を工夫することを通して、子どもに命を大切にすることを大切にする心をはぐくむ。そのために、以下のことを中心に研究を進める。 ①総合単元的な道徳学習による指導計画 ・昨年度作成したものを見直し、本年度の指導計画を作成する。 ・新しくもう一つの重点目標の総合単元的な道徳学習の指導過程を作成する。 ②道徳の時間の充実 ・道徳の時間についての指導過程「わかこま指導スタイル」を見直す。 ・道徳の時間の指導法の工夫	平成17・18年度児童生徒の心に響く道徳教育推進事業 12月1日
峡東教育事務所	小学校	神金小学校	豊かな心と確かな学力の育成	読書活動、言語活動、国語の授業づくりを通して、伝え合う力(コミュニケーション能力・言語力)を育てる	伝え合う力を育てる国語科の授業づくりの研究を行う。さらに国語科で培った力を他の領域や教育活動全体の中で活かす取り組みを実践する。読書活動部会では、子どもたちが日常生活の中で進んで読書し、内容的にも質の向上を図れるように授業の工夫や手だてなどを考えていきたい。また、言語活動部会では、言葉の力を育て子どもたちの言語を豊にする様々な取り組みについて研究をしていきたい。	
峡東教育事務所	小学校	牧丘第二小学校	主体的に学ぶ児童の育成	伝え合う力の深まりを目指して	伝え合う力、とくに「読む力」をつけることに主眼を置き、 ・「読む力」についての理論研究を指導主事等を招請しながら行い、身につけたい力や国語力との関連などを明らかにしていく。 ・「読む力」についての児童の実態把握を行い、課題を明らかにする。 ・「読む力」について系統的な指導を行うため、各学年の目標や指導内容を検討し一覧の表として作成していく。 ・伝え合う力を高めるための指導方法を授業実践を通して工夫し、検証していく。 ・読書活動の活性化を図り、読書力を高めていく。	
峡東教育事務所	小学校	塩山北小学校	「心豊かで、確かな学力と伝え合う力を持つ児童の育成」	～聞く力・話す力を高めるための書く活動を通して～	国語科の授業ではワークシートや振り返りカードなどに、言語環境ではそれぞれの研究部会の取り組み活動において、感想メモや取り組みを活発にさせるワークシートなどに効果的な書く活動を取り入れていく。このような書く活動に取り組むことにより「考える」「感じる」「表現する」「創造する」ことがより活発になり、国語力や伝え合う力が育成されるであろうと考える。 国語科の研究では、「話す力・聞く力」を高めるための書く力の育成。「話す・聞く」領域を中心に据え、それを支える手段としての書く活動の有効的な指導法を探る。 また、各研究部会の取り組みの内容を精選し、それらのどのような取り組み内容・方法がより子どもたちにとって有効なのか明らかにする。そして	
峡東教育事務所	小学校	岩手小学校	生き生きと学習する児童の育成	伝え合う力の向上をめざして	1 討議する力を伸ばす指導について工夫を行い、日常的な実践を通して検証していく。 2 「生きる教育」の一人一実践を行い、実践を交流し合う。 3 事例研究から特別支援教育について理解を深める。併せて、豊かな心を育む道徳教育の実践的研究を行う。	
峡東教育事務所	小学校	石和東小学校	自ら学び、自ら考え、生きる力を持つ児童の育成	仲間とかかわり合う活動を生かした算数科の学習を通して	(1)仲間とかかわり合う活動の共通理解と理論研究およびそれを取り入れた授業案作り、授業実践 (2)仲間とかかわり合う活動の児童実態にあわせた、系統性ある具体的な手だての見直し、付加修正 (3)学習習慣・朝学習・カルタ大会・漢字テストなど企画推進 (4)家庭での学習の習慣化、および専門分野からの働きかけ	

峡東教育事務所	小学校	塩山南小学校	意欲的に生活を創り出し実践していく子どもの育成	国語科「話すこと・聞くこと」の授業づくりの工夫を通して	(1)児童の実態把握 ・国語科に対する児童の実態を調査し、課題を明らかにする。 (2)国語科についての理論研究 ・講師を招聘しての理論研究や先進校の実践・文献から研究していく。 (3)「話すこと・聞くこと」の力を育てるための授業づくりの研究。 ・安心して何でも話すことができる学級を基盤とし、「どのような力を育てるのか」を明確にするとともに、指導と評価の一体化を図り、授業研究によって検証する。 (4)読書活動への取り組み方の研究 ・読書に親しむ態度を育成するための取り組みや学校図書館を活用した読書活動の推進 (5)年間指導計画の具現化	
峡東教育事務所	小学校	菱山小学校	意欲的に活動する子どもの育成	話す力・聞く力を育てる国語の授業づくりを通して	話す力、聞く力を育てる基礎は国語の授業の中にある。子ども達の力を引き出せるような授業を工夫することで、聞き合う力を育み、意欲的に活動する子どもの姿に迫っていく。 具体的内容 ①児童の実態把握。②「話すこと・聞くこと」の単元を洗い出し、どこでどのような力をつけていくかを検討し把握する。③「話すこと・聞くこと」の授業について、どの単元でどんな工夫をしてどんな成果があったかを記録し、検討する。④研究内容を明らかにするために、低・高ブロックごとに研究授業を年間2回行う。⑤研究授業の他に一人一実践を原則とし、授業	
峡東教育事務所	小学校	一宮西小学校	自ら考え、学び合う子どもの育成	対話のある授業実践と個へ対応の工夫を通して	授業づくり部会では「対話」のある授業を通してテーマに迫る。日本人は、対話が下手であると言われている。しかし、価値観が多様化するこれからの社会においては、異なった価値観をもった人間同士の「対話」の果たす役割がますます大きくなっていく。そこで、対話を取り入れた授業実践を中心としている。具体的な研究内容として、◎仮説に基づいた一人一実践の検証授業、◎児童対象の実態調査、◎先進校視察や学習会の実施、である。 集団づくり部会の具体的な内容は、◎教師と子どもが心を通わせ子ども	
峡東教育事務所	小学校	大藤小学校	主体的に学習できる児童の育成	読む力を伸ばす指導を通して	1. 読む力が高まる国語科の指導方法を探る。 ①具体的な指導方法を学ぶ。 ②読む力を育てるための授業実践をする。 2. 読む力を支える日常の指導に取り組む。 ①音読指導を工夫する。 ②視写を授業の中に取り入れる。 ③語彙力を高めるための工夫をする。 ④読書活動の充実を図る。	
峡東教育事務所	小学校	勝沼小学校	豊かな学力を育む指導のあり方	国語力の向上をめざした授業実践を通して	今年度は、全ての学習の基盤である国語力の向上を中心に据えた研究を行っていく。本校児童の実態として、自分の伝えたいことをうまく表現することが苦手であったり、話を集中して聞くことが苦手であったりという点がある。また、学力検査の結果より、「読む」ことについても一部の児童において基礎学力が十分ではないという課題が明らかになった。そこで今年度の研究では、「聞く・話す」の領域の指導を通して主に「表現力」を、「読む」領域の指導を通して主に「語彙・思考力」の向上を目指し、特に学校教育の中核である授業実践を中心に据えて研	
峡東教育事務所	小学校	東雲小学校	『豊かな人間性を育む国語科の研究』	～「読むこと」の指導と「読書活動」の活性化を通して～	国語科の「読むこと」の領域において、「感じる力」「想像する力」を育成するために、基礎基本を定着させる手立てを工夫し、日常の「読書活動」を活性化させる。 ・「読む力」の基礎基本についての理論研究をする。 ・「読むこと」についての意識調査を実施し、実態を把握する。 ・教科書から「読むこと」の単元を洗い出し、学年別時数配当を把握する。 ・「読むこと」の評価基準表を作成する。 ・ひとり1実践(研究授業)を公開し、研究の検証を行う。 ・読書部会を設置し、「読書活動」を積極的に取り組む。(読み聞かせ、全校読書 掲示など)	

峡東教育事務所	小学校	春日居小学校	主体的に取り組む児童の育成	話し合いを大事にしながら、基礎基本の定着へ	算数科の授業改善(話し合いを大事にしながら、基礎・基本の定着へ) ①話し合いを大事にした学習過程の研究 ②自分の考えを発表したり、友だちと考えを練り合わせる時の伝え方の研究 ③算数科に対する意識調査や授業後の振り返り(学習感想)についての研究 ④各学年の算数科において、一つの単元に絞り、児童の意欲を喚起する教材の開発や算数的活動を工夫した指導計画・評価計画の作成 ⑤上記の①～④を取り入れた授業実践と検証	
峡東教育事務所	小学校	大和小学校	「学び合い高め合い意欲的に学ぶ児童の育成」	一國語力向上のための学習指導の工夫	学習の基礎・基本となる「國語力の向上」という今日的課題をテーマに取り上げ、「読むことに対する意欲を高める」学習指導の工夫についての研究を進め、学年の発達段階に応じた指導のあり方を探っていく。まず、児童の実態をNRTやアンケートにより把握を行い、國語力における課題点について検討する。そして、その実態に対応した学習指導の工夫について研究を行い、検証授業を行っていく。また、平行して読書活動推進のため保護者による読み聞かせ・上級生から下級生への読み聞かせ・親子読書などに取り組んでいく予定である。そしてこれらの活	
峡東教育事務所	小学校	玉宮小学校	生き生きと学び合う子どもの育成	伝え合う力を育てる指導の工夫	「話す、聞く、話し合う」ことを中心とした『伝え合う力』を育てる指導方法の研究であり、継続研究の3年目にあたる。今年度は、国語科はもとより他教科でも「伝え合う力」を伸ばすことができる場面に重点を置き、授業研究に取り組む。さらに、教育活動全体にわたって表現活動・読書活動の充実を図り、活動の工夫を試みることで、子どもたちの『伝え合う力』の効果的な指導方法を探っていく。本校は、小規模校であるので、授業研究では、3・4年、5・6年の合同授業にも取り組んでいく予定	
峡東教育事務所	小学校	松里小学校	子どもたち一人一人の学力を高める研究	学びの意欲を高める指導の工夫	子どもたちの学びの意欲を向上させるために、算数科と図画工作科において主体的な学びを育む授業展開を工夫する。 ①主体的な学びが進められる学習過程の工夫として、算数科では問題解決的な学習を取り入れる。また、図画工作科では主体的な学びが展開される指導計画の工夫をする。 ②学びの意欲を高める学習指導の工夫としてめあてを意識できるような支援・指導をする。学習カードを工夫したり、即時的な相互評価を取り入れることで、自分の力でめあてを達成できるような展開にする。また、ふりかえりカードを活用したり、教師が励まし	(県)学びの意欲向上推進事業
峡東教育事務所	小学校	奥野田小学校	基礎・基本の定着を図るための個に応じた指導法の研究(算数科)	指導方法や指導体制の工夫改善を通して	学習指導過程に基礎・基本を徹底する補充学習と理解を深め進める深化学習等の個に応じた指導を有効に取り入れ、その指導方法や指導体制の工夫改善を研究・実践し、児童一人一人の基礎・基本の確実な定着を目指していく。特に、算数科においての個に応じた学習指導の工夫改善を図り、個人差に対応する指導の充実を目標とし、研究していく。	
峡東教育事務所	小学校	日川小学校	「学び合い、生き生きと活動する児童の育成」	「伝え合う力」を育てるための指導の工夫	(1)「書くこと」についての理論研究・学習会 (2)「書くこと」の教材研究についての学習会 (3)「書くこと」についての指導事項の系統性の確認 (4)共同指導案作り (5)授業実践(一人一実践)・研究授業 (6)「歯と口の健康づくり」のまとめ	
峡東教育事務所	小学校	牧丘第三小学校	学ぶ力を高める指導の工夫	基礎学力のさらなる定着をめざして	個に応じたきめ細かな指導を行い、分かる授業を工夫し、読む・書く・計算するなどの基礎学力をしっかりと定着させることにより、児童に分かる喜びや自信を持たせ、学ぶ意欲や学ぶ力を高めていきたい。 そのために、まず、教師の見取り、児童の自己評価、児童や保護者へのアンケートなどで個々の児童の実態を把握する。学力向上に関する文献をみんなで読み合い指導に生かす。また、全員が授業を公開し、きめ細かな指導や分かる授業を工夫する。同時に望ましい学習習慣や学習態度の育成についても工夫し、それぞれの実践を出し合っていく。	
峡東教育事務所	小学校	山梨小学校	子どもたちの意欲を高める評価方法の工夫	自己の学習の変容が自覚できる評価方法の実践を通して	本年度は「心に元気を育む道徳教育推進事業」の指定を受けているので、内容は道徳に絞る。児童の道徳的心情の変容は、児童の自己評価によって見えやすいと考える。「一枚ポートフォリオ評価」により、児童は自己の変容を見つめることにより、自己効力感や道徳的心情は高まり、それがやがて道徳実践力につながっていくと考える。 「一枚ポートフォリオ評価」や「道徳教育」について講師を招いて学習会をいた後、全員が保護者・地域にも呼びかけた形で授業公開をする。年間を通して道徳事業の充実を図り、年度末には年間指導計画の付加修	(県)心に元気を育む道徳授業推進事業 11月17日

峡東教育事務所	小学校	三富小学校	進んで学び、生き生きと活動する児童の育成	個に応じた『聞く力・話す力』の向上を目指して	1, 視点に沿った検証授業の実施(年間の検証授業2本, その他全クラス)の授業, 日常活動を公開もしくは実践報告) 2, 学び方を身につけさせるための手だてを実践する。 ・聞き方, 話し方(あいさつ・返事)における基本を明確にする。 ・学び方の1年間の達成目標を設定する。 ・学び方を振り返り, 次への改善(7月・12月)に生かす。 3, 2学期制に伴う通信表の見直し 4, 各学年に応じた情報処理能力の習得と, 学習活動の中での教育ソフトやコンピュータ・ターなどの活用を行う。	
峡東教育事務所	小学校	石和南小学校	自ら学習する子どもの育成	考える力をはぐくむ算数の指導を通して	考える力をはぐくむ学習活動の工夫、改善(算数科) ○子ども一人一人の実態把握 ○個に応じた指導のための教材開発 基礎的、基本的内容の定着をはかるための教材開発 考える力をはぐくむ教材研究 (1)PA(パフォーマンスアセスメント) (2)具体物、半具体物の利用の方法 ○チームティーチングの効果的なあり方 ○評価を生かした指導法の工夫、改善 ○学び合い、励まし合う学習の重視	
峡東教育事務所	小学校	加納岩小学校	豊かな学力の育成	授業を核に、共に楽しく深く考える子どもをめざして	過去2年間の研究の中で、授業を客観化する中で、子どもの確かな変化や見取りが大切であることが明らかになり、「子どもの学びの実感」をテーマに研究を深めてきた。そして、一時間の活動の中に子ども同士が学び合うような活動を仕組むと学びの実感が深まることが指摘されてきた。そこで、本年度はその活動を授業の中に仕組むことで具体的な成果をあげたいと考え、次のような仮説のもと検証授業を行い、学びの実感が深まる何らかの方向性を見いだしたいと考えている。 研究仮説 授業の中で、「学びの共同化」の場面を効果的に仕組むことによって、個々の子どもたちの思考は深まり、新たな「問い」や「疑問」を持たせ、学びの実感を感じることが出来るだろう。	
峡東教育事務所	小学校	後屋敷小学校	自ら授業を創る子どもの育成	確かな子ども理解をもとに「国語力」を育てる国語の授業づくりを通して	(1)「国語力」についての研修会 (2)子どもたちの国語力についての学習状況の把握と分析 (3)つきたい力を明確にした国語科の授業実践 (4)「特別支援教育」についての研修会	
峡東教育事務所	小学校	境川小学校	生き生きと活動し、基礎基本を身につける子どもの育成	自分で考え表現できる力を育てる指導と評価の工夫を通して	①課題を持って日頃の授業に挑んだ結果を示せる提案 a「ノート指導」b「子ども同士の関わり合い」c「学習感想」 ②今までの授業観、教材観を変えるような提案 ・学びの過程で自分の言葉で考えをまとめるノート ・学びの終末に学習を振り返る学習感想 ・「数式的表現」「操作的表現」「図的表現」「言語的表現」を考えながら身につけさせていく授業 ③教師が何をやろうとしているのかがはっきりしている提案 a本時のめざす具体的な子どもの姿が示されている授業案の提示 b4日の子どもの実態に比べ、どう変わったのかを示し、今後	
峡東教育事務所	小学校	堀之内小学校	自ら学び、生き生きと活動する児童の育成	英語活動を通して	(1)担任主導による英語活動の進め方の研究 (2)低・中・高の発達段階を考慮した英語活動年間指導計画(カリキュラム)の作成と授業実践 (3)子どもたちが楽しむ「学びの時間」の活動 (4)授業実践・・・検証授業を2本行う (5)職員が語学研修を計画的に実施する	
峡東教育事務所	小学校	一宮北小学校	よく考えて行動し、物を大切にする子どもの育成	～金銭教育への取り組みを通して～	金銭教育において、学習内容・活動・指導法・教材等はどうあるべきかを明らかにし、実践を積み重ねることによって、よく考えて行動し、物を大切にする子どもの育成を図る。 ①金銭教育に関わる年間指導計画を基に実践を行い、研究を進める。 ②家庭・地域との連携や保護者への啓発に努める。 ③金銭教育に関わる実態・意識を把握し、検証を行う。	(山梨県金融広報委員会)金銭教育研究指定校 10月18日

峡東教育事務所	小学校	御坂西小学校	「確かな学力」の定着をめざす学習指導	～”一人一人がわかる”授業づくりを通して	1)「確かな学力」の定着をめざした”一人一人がわかる”授業づくり ①学習指導要領の目標と内容の確認 ②学び合いを取り入れた授業の構成 ③学習意欲につながる自己評価・相互評価 ④評価情報を生かした個への対応 (2)認め合い励まし合い高め合う集団づくり ①集団規律、学習規律の定着 ②学級づくり案の活用 ③児童会活動、縦割り班活動への主体的参加 (3)学習習慣の定着をめざした家庭との連携による学習環境づくり ①生活チェックカードの作成、実施、評価 ②家庭への啓発活動 ③家庭学習習慣化の手立ての工夫	
峡東教育事務所	小学校	八幡小学校	生きる力を支える確かな学力を育むための指導の工夫	豊かな言語活動の基盤となる、国語力の向上をめざして	「確かな学力」としての基礎・基本の中から、「表現力」を取り上げて研究していく。特に本年は、言語による表現に絞って研究し、国語を中心とした教科での実践に取り組んでいく。そして、その実践を通して「国語力」の向上をめざしていきたい。	
峡東教育事務所	小学校	日下部小学校	「確かな学力」を保障する指導の研究	討論的授業を通して「思考力・判断力・表現力」を高める工夫	研究内容は、①当該学年における「確かな学力」の系統表の作成 ②「確かな学力」を見える形にした授業実践と指導法の工夫 ③「語彙力」「漢字力」「作文力」の授業公開 ④特別支援教育についての学習、である。 研究の方法は、①部会は、「低学年部会」「中学年部会」「高学年部会」の3部会とし、それぞれに部会長1名を決め、部会長を中心に運営を進める。②低、中、高別にそれぞれ1本ずつ全体研究授業を設定する。(指導主事招請)また低、中、高別にそれぞれ1本ずつ部会内研究授業を設定する。(部会内教員参加) ③研究授業をする教員以外全員一人一実践として授業公開を行う。④特別支援教育について講師を	
峡東教育事務所	小学校	石和西小学校	「生きる力」を育む学習活動の創造	お互いの思いや考えを交流し、共に学び合う活動を通して	生きる力を育むために、授業づくり部会で確かな学力を高めるための研究を推進し、豊かな心を育てるために集団づくり部会で、保護者・家庭とのリレーションづくりを環境づくり部会で推進する。この3つの部会が朝活や家庭学習といった具体的な活動を通してそれぞれ有機的につながっていくようにする。 授業づくりでは、国語・算数を対象領域として研究を進める。ループ	
峡東教育事務所	小学校	牧丘第一小学校	学び合い高め合う学習集団作りの手だてに関する研究	個が活かされる学級づくりと学習スキルの習得をとおして	(1)研究の具体的内容 ・学級集団・学習集団づくりについての理論研究。 ・各クラスの実態把握と集団作りについてのカルテの作成。 ・道徳・特別活動についての指導実践の作成。 ・学習スキルを作成し、学習の進め方を考え、授業実践する。 (2)研究の方法 ・研究に関する事柄についての理論研究をする。 ・授業公開の機会を設け、実践を通しての研究推進と情報交換に心がける。	心に元気をはぐくむ道徳教育推進授業 10月12日
峡東教育事務所	小学校	一宮南小学校	生き生きと学習する子どもの育成	子どもたちの肯定感を高める取り組みを通して	○授業・集団づくりにおける関わり合いを通して、学級の実態に応じた子どもたちの肯定感を高める手立てを明らかにしていく。 ○授業観察の視点に基づいた授業分析とその考察を行い、「肯定感(自己・他者)」キーワードに、仮説を検証する。 ○「肯定感(自己・他者)」をキーワードに、授業づくり部会の仮説と運動させながら、学級集団・異年齢集団づくりに取り組む。	平成18年度遠くのまち体験活動推進授業 (公開は特にありません)

峡東教育事務所	中学校	山梨南中学校	真理を求め、自ら考え、正しく判断し、進んで学習する生徒の育成	探求心をはぐくむ学習活動の推進	<p>【内容】</p> <p>(1)思考力・判断力・表現力・問題解決的な資質や能力の育成</p> <p>① 生徒同士が豊かにコミュニケーションを展開し、課題を探究していく授業の創造</p> <p>② 知識や技能などとかかわらせながら思考・判断する学習により思考力・判断力を高める授業の工夫</p> <p>③ 関心・意欲の高まる課題解決的な学習を設定することにより、問題解決的な資質や能力を高める授業の工夫</p> <p>(2)指導と評価の一体化を図り、フィードバックを充実させることによる基礎・基本の定着</p> <p>① 指導目標に基づく適切な評価の検討</p> <p>② 適切な評価に基づく充実したフィードバックの在り方の検討</p> <p>③ 生徒の実態に基づく指導方法の検討</p> <p>【方法】</p> <p>(1)思考力・判断力・表現力・問題解決的な資質や能力の現状と変化の分析</p> <p>① 学習活動における統計等から学力向上につながる因子を考察する。</p> <p>② 生徒の実態を学習習慣調査等から把握し、授業過程へ反映させる。</p> <p>③ 学習活動における生徒の変化を記録する。</p> <p>④ 診断テストなどによるデータから生徒の実態の変化を把握する。</p>	学力向上拠点形成事業(推進校)
峡東教育事務所	中学校	御坂中学校	基礎学力の定着と向上を図るための教科指導法の実践的研究	生徒理解を教科指導に生かす工夫と実践	<p>生徒理解に基づく学習指導の工夫を深めるために教科研究に重点を置き、学習効果を上げるための教材研究や指導法の工夫等、教科指導の技量を高める実践に取り組む。</p> <p>(1)各教科ごとの研究 ①基礎基本(身につけさせたい力)の明確化 ②生徒の実態把握と課題の見出し ③学力の定着と向上を図る取り組み ④検証のための資料収集と分析</p> <p>(2)研究授業(一人一実践)・教師が互いに授業を見合うことで、指導上の課題を克服し技量を高める機会とする。</p> <p>(3)基本的な生活能力アンケートの継続実施</p> <p>(4)保健教育研究との連携を図る</p>	(県)心に元気をはぐくむ道徳教育推進事業
峡東教育事務所	中学校	塩山中学校	心豊かに、生きる力をはぐくむ教育の研究	国語力を基盤とした、心をたがやす道徳と基礎・基本の定着を図りながら	<p>本校では平成16・17年度の2年間、県教委指定の「心をたがやす国語力向上推進事業」拠点校として研究を進め、成果を収めてきた。今年度はその継続研究に加え、昨年来より出されてきた学校課題としての「心を豊かな生徒の育成に向けての道徳教育の充実」と「各教科における基礎・基本の定着を図る」という2点への取り組みを進めることとした。</p>	
峡東教育事務所	中学校	勝沼中学校	生きる力を身に付けるキャリア教育に関する研究	キャリア・スタート・ウィークへの取り組みをとおして	<p>1. キャリア・スタート・ウィークの計画・実施・検証</p> <p>(1)第2学年の総合的な学習の時間の中に、キャリア・スタート・ウィークを効果的に取り入れるための計画を立て、それを実践する。また、来年度以降これを継続して実践するためにこの活動の検証をおこなう。</p> <p>(2)甲州市キャリア・スタート・ウィーク実行委員会と連携を図り、本校のキャリア・スタート・ウィークのシステムを構築する。</p> <p>2. キャリア教育についての理論研究および授業研究</p>	(国)キャリア教育実践プロジェクト
峡東教育事務所	中学校	春日居中学校	「生きる力」を育む教育課程の創造	確かな学力の定着と豊かなこころの育成をめざして	<p>「確かな学力」の育成に向けた取り組みのひとつとして「国語力の向上」についての研究を今年度も継続して行う。また、道徳的実践活動を通して道徳教育の研究・推進を図り、豊かなこころの育成をめざす。さらに昨年度の反省をふまえた上で、総合的な学習の時間については、実施時間や内容などを検討しながら実施し、研究を続けていく。評価については、引き続き学期ごとの自己評価カードを使っていくなかで生徒の自己評価能力を育成したり、結果を次の指導にいかしていく。</p>	

峡東教育事務所	中学校	石和中学校	主体的によりよく生きようとする生徒の育成	仲間と共に高まる集団の育成、学びの姿勢をつくる授業づくりの工夫	集団づくりと授業づくりの両面から研究主題にせまる。 【集団づくり】ひとりひとりの居場所があり、民主的な話し合いや活動ができる生徒集団、ひとりひとりの学びが保証される生徒集団の育成をめざす。学級学年の活動、行事、総合などと関連して集団づくりを研究実践し、意見交換、交流、工夫等を行う。 【授業づくり】TTの形態をもつ教科、学年を複数教師が担当する教科は教師間の連携を強化するための「練り合わせ」の時間となるように部会を設定する。その中で学びへの姿勢をつくり、意欲や学力の向上のために意見交換、実践交流、実践の工夫等を行う。	
峡東教育事務所	中学校	松里中学校	生きる力を育成する教育の創造	基礎学力を育む指導と評価の研究	○ 基礎学力向上の取り組み 月2回の三大会テストを通し、2週間の取り組み期間を設け、その間の家庭学習による取り組みの充実による、わかる喜びと合格する喜びを味わわせながら、学習への意欲を育む手だてを工夫 ○ NRT・CRT・AAIの分析と授業の取り組み 分析の工夫をし、その分析データをもとに課題を設定し授業を仕組み、授業や取り組みによる変容を検証する手だての研究 ○ 評価について 教科ごとの評価の実態や、シラバスの充実	(国)キャリア教育実践プロジェクト 公開予定なし
峡東教育事務所	中学校	大和中学校	確かな学力を身につけ、心豊かで主体的に自己の進路を選択・決定できる生徒の育成		(1)学校教育全体を通したキャリア教育の進め方の研究 ①キャリア教育の推進のため、講師(指導主事)を招き教員の研修を図る。 ②望ましい職業観や勤労観を育成するためのような取り組みが有効かをさぐる。(2学年総合で実施する「職場体験」を中心として) ③キャリア教育推進のための地域人材やキャリア・アドバイザーの活用についての研究 (2)基礎的、基本的学習内容の定着を図るための研究 ①大和中生の学力実態の分析をする ・NRTの結果と教師の観察から ②教科学習において基礎的、基本的内容を定着させるための指導方法指導形態の工夫をする。 (3)豊かな心の育成を図るための研究 ①学級集団づくり ②生徒理解と生徒の心理援助の仕方(SCなどを活用して)	(国)キャリア教育実践プロジェクト
峡東教育事務所	中学校	笛川中学校	豊かな言語活動と体験活動をふまえた学習活動の実践	「確かな学力」を培う基盤として	①学級活動において、話す・聞く・読む・書くといった場面を多く設定する。②体験活動を通して、生徒の主体性や創造性を引き出す生徒会活動のあり方の研究を行う。③各学年ごとに「総合的な学習」の実践・検証を行う。④情報活用能力の育成のための研究を行う。⑤基礎・基本の確実な定着をはかる教科指導および評価方法の研究を行う。⑥全教科の授業の中で言語活動を充実させ、論理的な思考やコミュニケーション能力の育成をはかる。⑦家庭学習や朝学習のあり方の研究を行う。⑧読書活動の充実を図る。⑧生徒の実態・意識調査をもとにして、研究主題	
峡東教育事務所	中学校	塩山北中学校	自ら学び、進んで活動できる生徒の育成	確かな学力を育てる学習活動の取り組みと道德教育の実践を通して	* 道德教育の指定校としての研究(授業の実践および道德の実践活動を推進していく) ・道德の授業等への地域の人々や保護者の積極的な活用 ・「あいさつ、声かけ運動、花づくり」等の具体的アクションについての検討、実践 * 生徒の学力向上に関する研究と実践(学力向上、国語力向上を含む) ・基礎学力の充実に対する取り組み(基礎学力テスト、朝学習の質的な向上など) ・確かな学力の向上に関する各種実践(日常指導、掲示物等の見直し) ・少人数、習熟度別授業の実践(英語科) ・「国語力」に関すること、国語力、読解力向上に関する研究(国語科) * 特別支援教育(特殊学級の運営)に関わる内容についての研究と実践	心に元気をはぐくむ道德教育推進事業<県>
峡東教育事務所	中学校	山梨北中学校 学校	確かな学力の向上を目指す学習指導に関する研究	学ぼうとする力を高めるための指導を通して	①評価を活かした指導の工夫 ②少人数指導、コース別学習など学習形態の工夫 ③個に応じた指導のための教材開発や、学習過程の支援の工夫・改善 ④学びの機会の充実 ①～③については、教科ごとに研究を進め、④の学びの機会の充実については、学級経営、家庭学習の充実なども含めながら、全体で研究	

峡東教育事務所	中学校	一宮中学校	課題に気づき、主体的に活動する生徒の育成	学びの意欲向上を図るための指導と評価の一体化を通して	<ul style="list-style-type: none"> * 授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・教科…a)学習の見直しを持たせる工夫 b)発表の工夫 c)より効果的な評価方法の工夫 d)生徒の学習の改善につながる実践 e)評価から評定への結びつきの検討 f)教育課程・評価規準の見直し * 集団づくり <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握 ・学年学級活動の充実 ・役割を明確にした生徒会活動 * 地域との連携 	学びの意欲向上推進事業 10月27日
峡東教育事務所	中学校	芦川中学校	地域に根ざし、たくましく生きる生徒の育成	教科指導と生徒会活動の取り組みを通して	<ul style="list-style-type: none"> (1)「教科指導」において <ul style="list-style-type: none"> ①本校の生徒1人1人についての継続的実態の分析(各教科の基礎・基本および身につけさせたい力の確認) ②基礎・基本の定着のための具体的手だての検討と実践 <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な評価活動の積み上げ(定期小テスト、個人記録カード等) ・授業形態の工夫 ③個を生かす指導、意欲を高める指導を目指した授業実践(1人1) 	笛吹市センター校 公開日10月24日(火)
峡東教育事務所	中学校	浅川中学校	「確かな学力育成」	個に応じた指導の充実をおとして	<ul style="list-style-type: none"> 1. 必修教科、選択教科、道徳、特別活動の時間における指導の充実と工夫 2. 生徒個々の関わり合いをおとして、思考する力を育成する工夫 3. 意欲を喚起する発問や言葉がけなど支援や指導の工夫 4. 生徒の学習過程にあった教材や教具、指導体制の工夫 5. グループや少人数クラス、TT等効果的な指導体制の工夫 6. 活動の場や雰囲気作り、活動時間の工夫と保障 7. ポートフォリオやカード、ノートによる生徒の評価の工夫 8. 表紙概念法、文章分析法、概念地図法、論文法、コメント法などの教 	笛吹市教育協議会 研究推進センター校 10月24日
富士北麓・東部教育事務所	小学校	鳥沢小学校	子どもたちの心が響きあう授業の創造	意見を交換し、重ね合わせ、発表できる子ども	<ul style="list-style-type: none"> ◎昨年度までの道徳教育研究(文科省指定)の成果を生かし、教科学習の授業場面への発展を考察する。とくに課題となっていた「意見を重ね合わせて発表する」力については、本年度の中心課題として研究していく。また、今日的な教育課題である「学力形成の問題」は、本校の教師の指導体制を検討しながら、TTや少人数指導などのあり方とも合わせて考察していきたい。授業研究・授業分析・図書購読・講師招聘・公開研究会参観など、小回りの利く校内研究の様々な視点を生かして、じっくり 	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	河口小学校	生き生きと学び合う子どもの育成	伝え合う力を高める授業作りの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ◎伝え合う力を高めることを主にして、国語力の向上を図る授業の実践を行う。 ◎具体的な研究内容 <ul style="list-style-type: none"> ・理論研究を行う。文献・講師の招聘 ・日常の様々な場面で実践を行う。 ・授業実践を通して、仮説を検証していく。 ・先進校の視察研究を行ったり、各自の研修により参考になるものを環流報告したりする。 ・研究の成果を次年度の体制づくりや実践に生かせるようにする。 	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	浅利小学校	確かな学力を育てる授業の創造	考える算数、わかる算数、できる算数	<ul style="list-style-type: none"> ◎昨年度に引き続き、算数科における基礎・基本の理論研究と子どもが能動的に動く授業についての学習を進める。そして、基礎・基本の確実な定着を図る指導方法の工夫をした授業実践を各学年で行う。指導主事を招請しての研究授業は2回とする。また、授業実践を通して適切な評価方法を探り、有効な評価方法について講師を招いて学習する。教職員は積極的に公開研究会に参加し、校内研究会において還流報告をする。 	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	七保小学校	意欲的・主体的に取り組む児童の育成	生きる力を育む「聞く・話す力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞く・話す力」を育成するための方途を生活全般から探る。 ・「聞く・話す力」を育成するための学級集団作りをする。 ・「聞く・話す力」を高めるための効果的な指導、支援方法について、実践的な研究を行う。 ・コミュニケーションを通しての心の教育の指導、支援方法を探る。 	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	船津小学校	心豊かに生き生きと学ぶ子どもの育成	「確かな学力」の向上を図る指導の研究	<ul style="list-style-type: none"> 1. 児童一人一人の実態に応じた指導の工夫 2. 教員の実践的教科指導力の向上を図る研究や実践 3. 実践研究の成果等の普及 <p>算数科を通して、「学ぶ意欲」「表現力」の向上に向けた実践的な研究を進めます。「学び」の場である授業をどのようにつくっていくかについて考え、授業力の向上を図ることによって「確かな学力」の向上を目指していきたいと思ひます。</p>	(国)学力向上拠点形成事業

富士北麓・東部教育事務所	小学校	宮谷小学校	自ら学ぶ子どもの育成	国語科における基礎・基本の定着から	(1)国語科における『話す・聞く』『読む』の基礎・基本についての理論研究をし、本校なりにまとめる。(指導一評価一支援) (2)『話す・聞く』『読む』の領域を中心に、各学年の「具体的な目標」について再検討する。 (3)各学年の『話す・聞く』『読む』の領域にふさわしい基礎的基本的学習内容を吟味・検討する。(新教育課程からの洗い出しと見直し) (4)基礎・基本が定着する効果的な指導法や教材・教具の工夫について実践的研究を行う。 (5)昨年度の研究を継承し、音読から朗読へ、そして自己表現力の育成へとつながる指導について研究する	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	上野原小学校	目標をもち、生き生きと学ぶ子どもの育成	ねらいと評価を明確にした国語科・体育科の授業づくり	いかにして子どもの学ぶ意欲を高めるか。 国語科・・・「読む」領域、“確かな読み”“豊かな読み”の研究。 体育科・・・「器械運動(基本の運動)」領域の研究。 実態アンケート、学習カード、場の工夫、スモールステップ、 掲示資料 声かけ、運動量	(県)学びの意欲向上推進事業 11月2日
富士北麓・東部教育事務所	小学校	桐原小学校	「自ら学び、生き生きと活動する児童の育成」	伝え合う力を育てる授業の工夫	本年度の研究では、コミュニケーションについての児童の意識を確認した上で、児童が積極的に発言し、学習に対して意欲をもって望めるような授業を作っていきたい。児童の発表の場を多く設け、発表の仕方や表現方法の工夫について学ぶという昨年の研究を継続しながら、児童が自分の考えを伝えるだけでなく、他の考えを聞いて新たな考えを持ち、よりよい方法を得ることができるよう、伝え合い高めあう力を育てていきたい。テーマは「言葉のキャッチボール」低学年では発表したことに対して、質問をしたり答えたりする場の設定を、高学年では、対立する意見を戦わてれ話し合う場の設定を仕組みないか検討中です。 (研究仮説) 伝え合う力の定着をはかり、主体的に学ぶことができる授業をつくること によって、児童が自己を表現しようという意識	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	大石小学校	自ら学び、自ら考え、生き生きと表現する子どもの育成	国語科を通して書く力を育てる指導方法の工夫	①国語科の「書くこと」の領域についての基礎的基本的な学力とは何かを明確にする。②「書くこと」領域に関わっての児童の実態の把握。③「書くこと」領域の各学年の単元の洗い出し、及び、その単元で身につけさせたい力を明確にする。④「書くこと」領域に関わって、基礎的基本的な力を育てていくための指導方法の工夫についての研究し、授業実践を行う。	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	山中東小学校	自ら学び、自ら考え、生き生きと表現する子どもの育成	国語科の授業を通して、伝え合う力をどう育てるか。	「国語科の授業において、子どもたちの主体的な話し合い活動を工夫していけば、子どもたちの伝え合う力は高められ、自ら学び自ら考え生き生きと表現する子どもの育成が図られるであろう。」という研究仮説を設定し、研究を進めていくことにした。 ①児童の実態調査を行い、育てたい力を把握し、研究に生かす。 ②全体・個人での理論研究を行い、共通理解を図りながら、研究を深める。 ③低・高ブロックに分かれ、ブロックごとにつけさせた力を明らかにし、その達成をめざして研究をすすめる。 ④全員の授業提案により研究に主体的に関わっていくとともに、日々の授業も参観し合う。 ⑤先進校の公開授業や研究会に積極的に参加し、学習したことは全体	

富士北麓・ 東部教育 事務所	小学校	大月西小学校	確かな学力の育成 をめざして	～国語科にお ける「伝え合 う力」を高 める授業の 実践を通して～	研究仮説を 「国語科において、①児童の実態を踏まえ、②指導の系統性を明らかにし、③相互作用的コミュニケーション場面の設定をめざした授業の工夫を行い、「伝え合う力」を高めることによって、確かな学力が身につくであろう。」 として、具体的には、 ①児童の実態を踏まえ ・「話す・聞く能力表」の項目によるアンケート調査の実施と分析。(6月と12月) ・児童の個別の実態を座席表へ書き入れ、把握する。 ②指導の系統性を明らかにし ・「話す・聞く能力表」による年間を通じた指導と学年間の系統性の検討。 ③相互作用的コミュニケーションの場面の設定をめざした授業の工夫を行い ・「相互作用的コミュニケーション」とは、コミュニケーションの参加者を「聞き手」と「話し手」といった、能動的役割VS受動的役割にとどめるものではなく、参加者すべてが、意味を生成する能動的主体と見なすコミュニケーションのあり方である。 ・相互作用的コミュニケーションが成立していくような授業の場の工夫。 (教師のかかわり方、形態、講師の招聘、展開方法など)	
富士北麓・ 東部教育 事務所	小学校	西浜小学校	心豊かで生き生きと 主体的に活動する 子どもの育成	伝え合う力を育て る指導の工夫	・「伝え合う力」について資料文献をもとに学習し、共通理解を図る。 ・研究主題をもとに、めざす子ども像を確認する。 ・テーマを意識した授業実践や日常の取り組みを行い、情報交換もしていく。 ・低学年、高学年の二つのブロックを作り、ブロックごとに具体的仮説を設定し研究授業をする。 ・その他の研究として地域の素材や人材の充実を図り、地域を教材とした授業記録を残していく。	
富士北麓・ 東部教育 事務所	小学校	下吉田第二小 学校	生きる力を育む学習 活動の創造	国語科「読むこと」 の指導法を通して	・文献、資料等を参考にした理論研究 ・国語科の「読むこと」の基礎・基本を明らかにし、「読むこと」にかかわる教材研究を通じた指導法の研究 ・発達段階に応じた指導法の研究 ・評価について、評価規準を含めた研究 ・年間学習計画にそった授業実践 ・校内での一人一実践 ・読書指導に取り組むことによる、豊かな感性の育成	
富士北麓・ 東部教育 事務所	小学校	強瀬小学校	「子どもと教師で創 る授業」のあり方に 関する研究	「聴き合う」関係つ くりを意識して、か かわり合いを通し て学ぶ授業	・開かれた学校、開かれた教室をめざすために、様々な人々とのふれあいを図り、教師と子ども、子ども同士のかかわりから、「聴き合う」という関係づくりをしていく。 ・学級における教師と子ども、及び子ども同士の中に「聴き合う」関係をつくり出すための教師の働きかけ(指導方法)について研究する。 ・研究主題に基づいて個人テーマを設け、全職員最低1回の授業研究を実施する。 ・道徳教育の充実と道徳の授業公開 (心のノートを掛け橋とした学校・家庭・地域との連携や地域の人材や地域の活用)	心に元気をはぐく む道徳教育推進校 12月8日
富士北麓・ 東部教育 事務所	小学校	山中小学校	共に学び合い、心豊 かに生きる子どもの 育成	協同的な学びを 通して、互いに認 め合い高め合う 授業づくり	昨年度までの研究の成果・課題をふまえ、個と個が豊かに関わり合い 学び合う学習活動の指導法の研究に取り組む。 ①児童の実態を調査し、それに即した研究を進める。 ②主題の捉え方、協同的な学びについて共通理解を図る。 ③協同的な学びを成立させるための指導構想と授業像を設定する。 ④研究授業、日常実践を通して仮説を検証する。	
富士北麓・ 東部教育 事務所	小学校	下吉田東小学 校	「確かな学力」を育 む国語教育の研究	「書く」活動を通し て、自分の思いを 豊かに表現できる 子を目指して	「書く」活動を通して、自分の思いを豊かに表現できる児童を育成してい く。そのために、「書く」機会や場の設定、指導のあり方を工夫し実践す る。また、継続指導も行いながら、共通理解を図り研究授業を行い、検 証していく。	
富士北麓・ 東部教育 事務所	小学校	忍野小学校	豊かな人間性と限り なき可能性を追究す る忍野っ子の育成	基礎・基本の確実 な定着をめざして	全ての学習の基盤となるのは国語力である。本校では、国語力の中 の「コミュニケーション能力」を学習の基礎基本と捉え、他者とのかかわ り合いの中で「コミュニケーション能力」を育てることを学力向上として捉 え、研究に取り組む。 【コミュニケーション能力を高める。→ 学び合いが活発になる。→ 考え を深めること ができる。(思考力がつく)→ 確かな学力が身につく。】 ○「国語力」の中のコミュニケーション能力の育成を図る。 ○国語科「話すこと・聞くこと」のねらいをおさえ、系統的・継続的に指導 する。 ○ねらいをおさえる中で「教材の工夫」「指導方法の工夫」をし、国語	

富士北麓・東部教育事務所	小学校	鳴沢小学校	国際社会に生きる心豊かな子どもの育成	英語活動・異文化交流を通して	上記のテーマに沿って研究をするために、「子どもたちの興味・関心を生かした楽しい英語活動や異文化交流を工夫すれば、国際社会に生きる心豊かな子どもが育つであろう」という概括的仮説をたてた。この仮説を検証するために、小学校英語活動の基本的な考え方や目標についての理論研究や、担任主導による英語活動の授業づくりについての研究を行っていく。研究が理論にとどまらないよう全職員の一人1実践(担任は全員が授業を行う。)を通して研究を日々の授業につなげていく努力をする。また、英語の職員研修を実施し、職員の英語力の向上をめざす。	(県)レッツ・チャレンジ小学生英語活動推進事業 発表大会 7月28日
富士北麓・東部教育事務所	小学校	四方津小学校	自ら学び、自ら考える児童の育成	「対話」による学びの深め合いを通して	研究主題に迫るために「各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動等学校の教育活動全てにおいて、一人一人の個性を尊重し、基礎基本の定着を図る「日常的な実践活動」を基礎に、「『対話』による学びの深め合いの授業」を生成することにより、「自ら学び、自ら考える児童の育成」が図れるであろう」という研究仮説を設定した。 この研究仮説に従い、一人一実践を基本に、授業研究会を充実させ、一人一人の実践検討を行う。「日常的な実践活動」についての情報交換の時間を設け、基盤となる学級作りについて検討する。	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	甲東小学校	健康・体力づくりから自ら取り組む児童の育成	～異学年での合同体育、健康教育の取り組みを	異学年(低・中・高)による合同体育で運動する楽しさを実感するような授業を仕組んでいくこと。また、児童自ら、健康や体力に興味関心を持ち、それを改善していこうとする健康・保健教育を考えていく。	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	明見小学校	主体的に読書活動に取り組む明見っ子の育成	読書の喜びが得られる場づくりの工夫	①主体的に読書に取り組めるような本との出会いの場を設定した授業作りや自分の課題に基づいた情報などを追求する場を設定するなど授業における場づくりの工夫をする。 ②読書の習慣化を図るために様々な場面で読書活動が可能になる環境整備をしたり、本のよさや読書の幅が広げられるように本を知る機会を設けたりして、学校図書館教育における場づくりの工夫をする。	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	小立小学校	「子どもたちの基礎学力を向上させるための研究」 ～国語科における「伝え合う力」の育成をめざして～		①「伝え合う力」についての理論研究を行い、共通理解を図る。(講師を招請する。) ②本校児童の「伝え合う力」について実態を把握し、めざす子どもの姿を明らかにしていく。 ③「伝え合う力」を高める教材研究を行い、指導方法を工夫する。 ④授業で検証を行う。 ⑤日常活動の中でも「話すこと・聞くこと」に関わる活動を意図的に仕組み、指導の充実を図る。	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	勝山小学校	安全な生活についての意識を高め、自ら実践する児童の育成		(1)各教科・領域における安全教育の授業実践 (2)学校安全計画の見直し (3)保護者・地域と連携した活動 (4)教職員の危機管理能力の向上を図る研修	(独立行政法人)学校安全研究推進事業の学校安全に関する研究校
富士北麓・東部教育事務所	小学校	秋山小学校	心身の健康づくりに、自ら取り組む子どもの育成	～業間体育と健康教育の取り組みを通して～	昨年度に引き続き、業間体育と健康教育の両面から研究を深める。業間体育の研究においては、どうすれば子どもたちが今まで以上に意欲的に体を動かし、自らの健康づくりへの意識を高めていけるのかを研究する。昨年度の研究で明らかになった業間体育の課題点を改善し、より精選された種目のなかで子どもたちが楽しく、且つ体力をつけていけるような内容へと変えていくことを主な研究内容とする。また昨年度よりも一層「自主的」な活動になるように場の設定をしていくことや児童の意欲付けになるような手立てを研究していく。健康教育では「食教育とは	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	富士豊茂小学校	生き生きと学び合う子ども ～自分の言葉で伝え合う活動を通して～		国語科の「聞く・話す」に焦点を当て、相手の話す内容を理解し、自分の言葉でどのように話していったら、通じ合えることができるのかということ、研究授業を多く持つことで指導法ならびに子どもたちの表現力の向上を目指していく。	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	瀬戸小学校	自らの思いを自分の言葉で伝えられる児童の育成	～国語科の学習「話すこと・聞くこと」を中心にして～	(1)国語科における「話す・聞く」の基礎基本についての理論研究を行う。 (2)「話す・聞く」の領域を中心に各学年の具体的な目標について再検討する。 (3)各学年の「話す・聞く」の領域にふさわしい教材を検討する。 (4)言語活動の実践例を研究し、授業にいかす。 (5)基礎基本が定着する効果的な指導法や教材・教具の工夫についての実践的研究をする。	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	大鶴小学校	心豊かに生き生きと学ぶ児童の育成をめざして	基礎・基本を身につけさせるための算数科における指導の工夫	算数科において、児童一人ひとりが意欲を持って学び、基礎・基本を身につけさせるための指導技術、方法、体制について児童の実態に合わせて研究していく。 上記の目標を受けて、次のように研究を進めていく。 ①児童の実態把握と分析 ②学びの意欲向上をめざす学習指導、教材教具、指導体制の工夫について研究する。 ③学びの意欲向上をめざす評価の工夫をする。	

富士北麓・東部教育事務所	小学校	宝小学校	授業を開き、互いの授業実践と教育的価値観を持ち寄り磨き合う実践的事例研究	教材観・単元観・題材観を磨き合う校内研究法の工夫	本研究は仮説検証型の研究ではありません。従って検証までの道筋を支える「一般化された理論」を持ちませんし、当然のことながら、投入因子もありません。明らかにしたい研究内容も、これまでの諸研究で既に明らかになっているものです。 本研究では、既に当たり前のようになっている次の2点を、改めて自らの実践を通して全員が実感し合うことをねらいとし、同時に、そこに迫る過程そのものを研究内容としています。 ①「自他の授業を見せ合うことは、確かに学びが多い。」ということに実践的に気づきあうこと。(学校長以下全)
富士北麓・東部教育事務所	小学校	猿橋小学校	豊かに伝え合い、磨き合う授業の創造	国語力の向上を目指して	(1)伝え合う力を育てるための授業研究及び検証 (2)日々の実践を通しての児童理解と、授業研究における検証 (3)国語力を育てていくための授業研究及び検証 (4)国語科の授業力の向上を目指しての理論研究
富士北麓・東部教育事務所	小学校	大目小学校	『生き生きと学習する児童の育成』	「聞く・話す」力を高める指導を通して	子どもたちにつけたい力を「聞く・話す力」と限定し、その定着を目指して研究を行う。その際、昨年度作成された「聞く・話す」についての指導段階表や、昨年度末に行った学力検査の結果を参考にしながら研究を進めていく。また、一昨年から取り組んでいる全職員による児童への読み聞かせを今年度も行い、「読む」「聞く」「情操面」の力の育成も図っていく。
富士北麓・東部教育事務所	小学校	沢松小学校	確かな国語力の育成	表現力を高めるためのアプローチ	(1)理論研究による共通理解 ①これからの時代に求められている国語力を表現力の視点から分析し、どの活動を何のためにするのか、またどのような場を設定したらいいかを明らかにする。 ②『表現力を高める』についてのめざすイメージの明確化。 (2)授業研究による指導の工夫と授業の改善 ・今年度は国語科の授業を通して表現力を高めるための授業のあり方を工夫する。 (3)言語環境の整備・地域、家庭との連携 ①挨拶、言葉遣い、校内掲示など子どもを取り巻く言語環境を整備する。 ②読書活動を推進するための取り組み(朝読書・読書郵便・読み聞かせ)
富士北麓・東部教育事務所	小学校	上和田小学校	「よく考え、思いをよりよく伝える子ども達」	～「読む」「書く」を通して伝える力を高めるために～	※スピーチ活動 給食時や集会、始業式や終業式などでスピーチする。給食時のスピーチにおいては、発表内容はそれぞれ話したい話題を自分で選ぶ。スピーチメモを作り、それぞれ自由な方法でスピーチする。発表後には、互いに質問し「話し手」と「聞き手」の交流を行う。 ※授業実践 各教科、道徳、特別活動などで各学年言語活動を生かした授業実践をして、それぞれの実践を報告し合う。 ※言語活動 朝の読書の時間や教育活動全体を通して、言葉遊び、暗唱、群読、視写などの活動をする。
富士北麓・東部教育事務所	小学校	谷村第一小学校	豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成をめざす「食育」の研究	～児童の食生活の実態調査と系統的な指導計画の作成を通して～	①「食育」について、研究の初期段階において講師招請、または文献の読み合わせ等により理論研究を行い、共通認識を図る。 ②本校独自の系統的な食育指導計画を作成する。 ③児童や保護者向けの各種アンケートを実施、考察する。 ④授業に活用できる地域の自然や人材の発掘をする。 ⑤外部機関との連携を図る。 (県教委・総合教育センター・教育事務所・JA・農政事務所・食糧事務所・食改善) ⑥各種アンケートの結果を情報発信し、児童に必要な食生活環境を周知する。 ⑦「食育」に関し、一人一実践を行い、年度末に発表する
富士北麓・東部教育事務所	小学校	東桂小学校	自ら学ぶ子どもの育成	～国語科における「基礎・基本」を身につけさせるための指導の工夫～	(1)国語科の改訂のねらいについての再確認を行う。 (2)国語科における基礎・基本、国語力についての理論研究 (3)全国標準学力検査(NRT)の実施と結果の分析 (4)年間指導計画の見直し (5)授業実践(基礎基本と学び方を視点に) ・授業公開は低中高学年ブロックごとで一実践。 (6)積極的に視察研修に参加していく。

富士北麓・東部教育事務所	小学校	畑倉小学校	伝え合う力を育てよう	発表・話し合いの場の効果的な設定と、評価活動を通して	教科、道徳、特別活動、総合的な学習などにおいて、効果的な発表・話し合いの場の設定をすることによって、伝え合う力の育成をはかる。そのために、発表・話し合いの場の設定の仕方を授業実践を通して研究する。また、昨年度作成した「伝え合う力」の系統表を日々の実践を通して見直し、系統表を生かした評価方法を検討する。各クラスごとに系統表を基にして児童の実態を把握し、目標を設定する。目標を達成するために、授業の中の発表や話し合いの場で評価を生かしながら、具体	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	小菅小学校	自ら学び、自ら考える児童の育成をめざして	学ぶ意欲を高める評価(ルーブリック)を通して	研究主題「自ら学び、自ら考える児童の育成をめざして」は平成3年度からの継続であり、平成16年度から、「学ぶ意欲を高める評価を通して」をサブテーマに教科や総合的な学習の時間にルーブリック評価を取り入れて研究を進めてきた。昨年度は、ルーブリック評価を各教科に広げ理論研究を深め、それぞれの教科でルーブリックを作成し授業で検証した結果、ルーブリックの有効性が確かめられたと同時に、課題も見えてきた段階である。本年度は、学校経営の重点をふまえて教科を国語に絞り、ルーブリックを作成し、研究主題に迫りたい。	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	丹波小学校	自ら学ぶ児童の育成をめざして	学ぶ楽しさを味わえる授業を通して	研究仮説を「学ぶ楽しさを味わえる授業をすることにより、基礎的な学力を身に付けさせることができるであろう」と設定し、理論研究と授業研究を通して仮説を検証していく。理論研究では、「学ぶ楽しさを味わえる授業の工夫」のために「場面設定」「教材開発」「学び合う関係作り」の3つの柱を設定し、各教科、単元における基礎基本を明確にし、児童の実態を的確に捉え、一人ひとりの児童への支援方法をさぐる。授業研究では、一人一授業を公開し、研究会を開いて検証する。	丹波・小菅地区自主公開
富士北麓・東部教育事務所	小学校	禾生第一小学校	夢と楽しさをはぐくむ教育活動の展開(2年次)	「在りたい学校」「学びあう子ども」「なりたい教師」を求めて	主題に向かって4つの部会と個人研究の両面から進める。4つの部会は①少人数学習・学びあい学習を中心とした学習指導部会 ②スポーツテストの結果をいかした運動を進める健康安全部会 ③特別支援・生徒指導を含めた心を育てる道徳教育推進部会 ④地域への情報発信及び児童の情報モラルやリテラシーの育成に関わる情報教育部会からなる。各部会はそれぞれテーマを設定し、研究を進め、他の職員に広める研修会と授業研究会を開催する。個人研究は可能な限り部会に関わる目標を設定し、日々の実践を重ねていき、年度末に成果報告会を開	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	初狩小学校	学ぶ楽しさを実感できる授業の創造	伝えあう力を高める国語科の指導を通じて	伝えあう力について理論研究し、共通理解を図ると共に本校の伝えあう力を明確にする。児童の授業や日常生活等の観察や意識調査を行い、児童の実態を把握し、その変容を見る。「伝えあう力」を高める教材開発や、その指導のあり方について実践研究を行う。指導と評価が一体化できるように目指し、授業研究を行う。研究推進のためのねらいをもった環	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	上九一色小学校	自ら考え 学ぶ楽しさを実感できる児童の育成	算数科「数と計算」領域における基礎・基本の定着をめざして	1. 児童の実態調査と考察 ・基礎的な計算力テストにより、児童の実態の把握と考察を行う。 2. 算数科における基礎・基本の理論研究 3. 基礎・基本の定着を図る指導と評価の研究・実践 4. チャレンジタイムの有効活用(月・火曜の5校時終了後の15分間) ・「漢字チャレンジ」の継続実施 ・計算力を高め、確実な定着を図る「計算チャレンジ」の内容・方法の検討及び実施 5. 研究授業による仮説の検証 6. コンピュータなどの教育機器の活用を高める研修	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	富士小学校	豊かな人間性を培う道徳教育の推進	生命や生き方についてよりよく考えることができる子どもの育成	研究仮説「道徳教育において、生命や生き方について考える機会を増やし、道徳的価値を子どもの心に響かせることにより、豊かな人間性が培われた子どもを育てることができるであろう。」をもとに、以下の内容で研究を進める。 * 子ども・保護者の実態を調査し、その背景や課題等を明らかにする。さらに、家庭・地域との連携のあり方を探る。 * 小中学校の連携を深め、主題に迫る体験・交流活動のあり方を探る。 * 子どもたちの実態にあった教材の開発や資料の収集、指導法の研	(国)児童生徒の心に響く道徳教育推進事業

富士北麓・東部教育事務所	小学校	下吉田第一小学校	意欲的に学ぶ児童の育成	確かな言語能力の育成をはかる国語科授業	研究仮説を、「一人ひとりが意欲的に学ぶ国語科の指導法を工夫することによって、確かな言語能力を育むことが出来るだろう。」とし、研究の内容を次の通りとした。 1 「意欲的な学び」ができる指導法について研究する。 2 「話す・聞く」「読む」「書く」「言語事項」の3領域1事項の「言語能力」について、指導要領の目標・内容・言語活動例や実践例などをもとに、下一小のとらえを明確にする。それをもとに、子どもの言語能力がより高まるような授業の展開を工夫する。 3 国語科の授業を支え、ひろげていく視点で、	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	道志小学校	諸活動における言語能力の育成		・本校児童の国語力の現状を学力検査結果や日常の教育活動場面での観察により、語彙力や伝え合う力に視点をあてての分析 ・言語能力を高めるための指導法の工夫 話し合いや発表の学習 作文学習 朗読・群読などの音読学習 視写 百人一首、故事、ことわざなど日本文化に関わる学習 しりとり、文字リレー、ことば集めなどのことば遊び ・実践の場の工夫(業前の時間・学級活動・総合学習の時間・各教科)	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	大月東小学校	主体的に学び、生き生きと活動する子どもの育成	友達と関わりながら学びを深める授業を通して	・「学びを深める授業」についての学習 ・友達と関わり合い、学びを深める授業の指導方法についての実践的研究 ・子どもの見取りと教師の支援についての学習	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	笹子小学校	確かな学力の向上をめざして	基礎基本を充実させるための支援と評価	・「確かな学力」向上、基礎・基本の定着のための教材の開発や効果的な指導方法(学習指導の工夫)を考え、実践する。 ・国語科・算数科における評価、支援について研究する。 ・「国語力」について理論研究をする。 ・授業実践を行い、仮説を検証していく。(一人一実践)	(県)心に元気をはぐくむ道徳教育推進事業 12月2日
富士北麓・東部教育事務所	小学校	旭小学校	心豊かで、生き生きと学ぶ児童の育成	「伝え合う力」を育てる国語科の授業づくり	昨年度までの成果と課題をふまえたり、学校教育目標の具現化、今日的な教育課題等を考慮し決定した研究主題の実現のために、次のような内容で研究をすすめていく。 ①本校児童の国語科における実態調査を行い、ブロックごとに「目指す子ども像」を考え、それに近づくように授業実践を仕組んでいく。 ②「話すこと・聞くこと」の領域に関わる理論研究を行う。(書籍を読み合う・講師を招請し、学習会を持つ) ③授業研究を行う。(指導主事招請) ④評価規準表の修正。 ⑤先進校の視察に行き、還元報告を行う	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	西桂小学校	ゆたかな人間性が育つ国語教育の研究	～「話すこと・聞くこと」の指導の工夫を通して～	・国語科の「話すこと・聞くこと」の学習指導の工夫 国語科の「話すこと・聞くこと」の各学年の目標に沿って、学習指導の工夫を行い、「話すこと」「聞くこと」「伝え合う場面」が含まれた授業研究を行っていく。合わせて「話すこと・聞くこと」の指導に関わる理論研究及び児童の実態調査を行い、指導の工夫に活かしていく。	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	吉田西小学校	一児童の「生きる力」の育成をめざして	「国語力」を高めるための授業づくりの工夫	○「確かな学力」をめざして取り組んできた「読解力」を、さらに問題解決する力に向けていく。(判断力・思考力・表現力など) ○「読解」で児童が読み取ったことを、自分なりに表現する力を身につけることで、評価やその後の指導にも生かすことをめざす。 ○学習目標に到達しない児童に対して学習意欲を高める手だてや、到達させるための授業・指導法の工夫について研究する。	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	大嵐小学校	自ら考え実践できる大嵐っ子の育成	考える力・表現する力の育成をめざした授業の創造	①理論研究 ○主題・サブテーマについての学習会を行い、共通理解を図る。 ○指導主事や講師を招請し、指導・助言を仰ぐ。 ②児童の実態把握 ○学力テストやアンケート調査を行い実態を把握し、個に応じた指導の進め方(手だて)について考える。 ○日常の記録を残す。 ③実践研究 ○授業実践をして仮説を検証していく。 ○授業実践を行う教科や領域の目標、そこでの考える力・表現する力について明らかにする。 ○教材の開発・分析、教具の選定・工夫を行	

富士北麓・東部教育事務所	小学校	西原小学校	他との関わりを大切にしながら、進んで自分を表現する子どもの育成	コミュニケーション能力を育てる指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 各教科における「コミュニケーション能力」の育成に焦点をあて、学習方法を研究したり、具体的な学習教材を開発したりし、主体的な学習活動を展開する授業を作っていく。 個に応じた課題意識・評価意識を持たせる工夫をし、主体的に学ぶ力を身につけさせる指導法を研究する。 国際理解の活動を全校で30時間程度行う。昨年度までの成果を生かし、調べたことの発表や自分の気持ちや思いを伝える実践の場とする。 音読・朗読などの発表の場を設け、みんなの前で大きな声で表現する。 	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	禾生第二小学校	自ら学ぶ児童の育成をめざして	指導と評価の一体化の工夫改善について	<ul style="list-style-type: none"> (1)指導と評価を一体化した授業案作りの具体的方法を明らかにする。 (2)指導と評価を一体化した授業案作成と授業実践を行う。 (3)先進校の視察と環流を行う。 	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	吉田小学校	自ら学び、考え「生きる力」を獲得する児童の育成	学び合う力を高める国語科の授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> 「伝え合う力」を高めることを目指して、「話すこと・聞くこと」を指導要領の各学年の目標や昨年度設定した「目指す子ども像」に沿って研究する。 「聞く力」を高めるために聞く側を高める研究を行っていく。 「話す力」を高めるために授業以外の日常生活の中でも、全職員で児童への支援を行う。 講師を招いての理論研究を行い、課題解決を図る。 実践を通しての研究を行うため一人一実践を目指す。 児童の実態調査を授業前と授業後に行い、実態を把握する。 	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	谷村第二小学校	「勉強って楽しい！」「もっと勉強したい！」子どもたちの喜びの声が聞こえる授業の創造	コミュニケーション能力を高めるための言語活動を通して	<ul style="list-style-type: none"> (1)言語活動能力等についての共通理解を図る。(理論研究) (2)発達段階ごとに言語活動における到達目標を設定する。 (3)国語・算数の基礎・基本の定着のための取り組みを行う。(到達度テストなどを基にして各学年の実態に応じた取り組みを考える。) (4)授業実践をする。(各ブロックで一つ公開授業・他は提案授業) (5)国語以外の時間における言語活動の取り組みについて共通理解を図る。 (6)先進校視察を必要に応じて実施する。 (7)成果と課題をまとめる。 	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	精進小学校	ひとりひとりを生かす授業研究	～子ども理解を深める手だてを探る～	<ul style="list-style-type: none"> 子ども理解を深める手だての工夫 具体的な手だてを用いて子どもたちよく見ていく(書きとめる)そして、子どもたちの良さや問題点について理解していく。 授業の中での言葉、学習感想をもとにして、子どもを理解する。 このことをもとにして授業づくりをすることで、→子どもたちを生かす授業をつくる。子どもたちの力を育てる授業をつくる。→①生活カルテ(記録)や学習カルテの作成及び活用方法の工夫。②教材開発(新聞記事などの活用)③児童自らの「学習感想」による自己評価の工夫。 本年度は①～③について、研 	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	梁川小学校	自ら課題を見つけ、それを追究できる子どもの育成		<ul style="list-style-type: none"> 〇問題解決(課題設定・追究)を意識した学習過程のありかたの研究 子どもの実態把握 子どもが興味、関心を持つような教材の選定 学びを深めていくための単元構想、教師の支援 	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	下和田小学校	心躍り、瞳輝き、その子らしさが生きる授業の創造	子ども理解をもとにして	<ul style="list-style-type: none"> (1)カルテを公開したり、講師から理論を学んだりして、子どもを理解する力をつける。 (2)その子らしさを生かす教材開発と学習方法を工夫する。 (3)「座席表授業案」の内容を深く検討する。 (4)下和田学びプランに基づいた授業の具現化を図る。 (5)支援的評価プランの充実を図る。 	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	都留文科大学附属小学校	意欲的にまなぶ子どもの育成	わかる・伝わる喜びを感じる国語力の向上を目指して	<ul style="list-style-type: none"> 1. 国語力の実態調査を行い、児童の実態を把握する(到達度テストを行う) 2. 本校児童に身に付けさせたい国語力について共通理解を図る。(国語力についての理論研究を深める) 3. 実態に応じた具体的な到達目標を設定する。 4. 具体的な指導法、教材などを工夫する。 5. 授業実践をする。(各ブロックで1つ公開授業・他はブロックでの研究授業とする) 6. 読書活動を充実させる。 読書タイムの工夫など 	
富士北麓・東部教育事務所	小学校	島田小学校	自ら学ぶ児童の育成をめざして	基礎・基本を重視した授業の工夫(音読指導を通して)	<ul style="list-style-type: none"> 本校の子どもたちは、目的や相手に応じて話すことが苦手であり、また自分の考えを述べたり意見交換しあったりすることに慣れていない。音読もあまり上手ではない。表現力を高めていくためにはどうしたらよいかの教科・教科外の音読指導の手立ての研究を深める。 	豊かな体験活動推進活動

富士北麓・東部教育事務所	中学校	西浜中学校	自ら学び、自ら表現し、進んで実行できる生徒の育成	各教科の特性を活かした授業の工夫	前年度の継続研究とし、今年度は各教科の特性をふまえて、以下の要素のいずれかに焦点をあてた授業の工夫・創造・実践していく。また、研究会を通して同僚性を高めると共に、学びによる学校教育目標の達成を目指す。 ○授業に取り組む要素 1時間の授業の中に「活動」「協同」「表現の共有」を組み込む ○具体的には、次の4点を工夫しながら授業をデザインしていく 1)導入の工夫……「学びへの期待」を持たせる導入(わくわく・どきどき) 2)教材・教具の工夫……実体物を持ち込む(モノとの出会い) 3)共に学ぶ場面の工夫……仲間同士の対話や発表(自己表現)の場面	心に元気をはぐくむ道徳教育推進事業 11月21日
富士北麓・東部教育事務所	中学校	西桂中学校	道徳的実践力を高める学級・学年・学校づくり	自主的・自治的な活動を通してよりよい関係づくりを目指す	特別活動や道徳の実践と指導の再考 ①授業研究の実践と指導主事や講師の招請……一人一実践以上で、他から学ぶ機会を設ける。 ②「学級・学年活動」の見直し……学級や学年の力を育てる。 ③「道徳の時間」の見直し……学級、個人の価値観を育てる。 ④「生徒会活動」の活発化……リーダーを育てる。学校を育てる。 ⑤日常の活動実践の情報交換……職員間でアイデアを交換しあい学校	
富士北麓・東部教育事務所	中学校	丹波中学校	基礎学力の定着を目指して	学習意欲の向上を図る手だての研究	本校では基礎学力の定着を目指して特に生徒の学習意欲の向上を図ることに主眼をおいて研究を進めていく。学習意欲の向上を図るために、「適切な評価」及び「分かる授業の創造」という観点に重点をおき、主題及び副主題にアプローチしていきたいと考える。「適切な評価」については、ルーブリック評価・一枚ポートフォリオ評価・チェックリストの評価方法の理論研究を進め、次年度以降に実践していく評価方法を決定していく。「分かる授業」については、1ヶ月に1回～2回見せ合い授業を実施したり、研究授業を1人1本実施し、教師の指導力の向上を図っていくとともに、放課後の学習会を活用したり、取り出し授業を行ったりして	
富士北麓・東部教育事務所	中学校	桐原中学校	豊かな表現力を育てる総合的な時間の研究	～人や地域との関わりを大切にしたい体験学習を通して～	本校では、平成13年度より「総合的な学習の時間」を柱に研究実践を積み重ねて、生徒ひとりひとりが個人研究に取り組むといった、小規模校の特色を生かした「総合的な学習の時間」を創り上げてきた。そこで、今年度も、これまでの研究実践を踏襲し、「人との出会いや実際のものに触れ、様々な学びを体験することで、個を鍛えることができる」という考え方を継続しながら、更に、「ゆずりはら青少年自然の里」との提携事業とも絡め、人や地域と関わる体験学習を計画的に取り入れた「総合的な学習の時間」の研究を行う。具体的には、年間指導計画の検討や授業実践を通し、自己表現をする場の設定の工夫、ルーブリック評価の活用、「ゆずりはら青少年自然の里」との提携や情報発信についての研究	
富士北麓・東部教育事務所	中学校	明見中学校	心を傾けて聴き合い、語り合える生徒の育成		授業において、「話し合い活動」ではなく、仲間の考えを聞き合えること、そして語り合えることを重視し、最終的には「授業を受ける」から「授業をつくる」に変わる指導のあり方を研究していく。 そのためには、まず、「授業規律を大切にしていこう」とする高い意識を集団の中に育てていくためにはどうしたらよいかという学び合いを行っていききたい。次に、授業での先生の言葉だけを大切にするのはではなく、友達の意見を良く聴き、そこから考えの進められる授業作りを目指していく。最終段階として、T→C→T→CからT→C→C→T→C→C→C	
富士北麓・東部教育事務所	中学校	平和中学校	健康で心豊かな生徒の育成	～主体的に活動できる望ましい集団活動を通して～	本校の学校教育目標『確かな学力を身につけ、心身共に健康で心豊かな生徒の育成』は、一人ひとりの生徒が変化の激しい現代社会の中で生きていくために必要な資質を育てることを目指している。この目標に向かって教職員は、共通理解を図り学校教育の全ての場面で、指導援助していく必要がある。校内研究では、心豊かな生徒の育成を、望ましい集団活動の側面から迫りたいと考えた。すなわち、主体的に活動する望ましい集団活動が行われることで、生徒は自分の良さを大切にし、お互いの違いを認め合い、共に高めあうことが可能になり、健康で心豊かな	

富士北麓・ 東部教育 事務所	中学校	富浜中学校	自ら学び、自ら考え る生徒の育成	生徒一人一人の 「生きる力」を育て るキャリア教育の 指導の工夫	(1)キャリア教育の研究 ①昨年度作成したキャリア教育の全体計画の実践・検証・改善。 ②全体計画にもとづいて作成された各学年の年間計画の実践・検証・改善。 ③メインとなる体験活動の事前事後を含めたプログラムの実践・検証・改善。 ④キャリア教育の視点を生かした実践の評価(自己評価・指導者の評価)の研究。 ⑤キャリア教育の視点を生かした各教科の授業研究。 ⑥キャリア・カウンセリングの理解と実践の研究。 ⑦小学校との連携の方法・内容についての研究 (2)扇の時間の研究 ① 生徒自ら課題を見つけ、その解決を図るための総合的な学習の時間(扇の時間)の実践研究 ② 学習成果発表会の内容・方法の研究	
富士北麓・ 東部教育 事務所	中学校	富士見台中学 校	豊かな人間性を培う 道徳教育の推進	生き方について 深く考えること のできる感性豊かな 生徒の育成	主な研究内容 (1)道徳の授業実践・研究授業 (授業規律をつくる) ○道徳ができる学級集団の育成(基本的なことの習慣化を教師が創り出していく。) 教師、保護者、生徒同士の話が落ち着いて聞ける。 発問、指示に従って、落ち着いて考え、書くことができる。 考えたことを学級の中で発表できる。周り生徒もそれを聞ける。 ○わかりやすく参加しやすい授業(まずはクラスの現状にあわせた徳目の中で) ○ゲストティーチャーを招いての授業 (2)基本	児童生徒の心に響く道徳教育の推進事業
富士北麓・ 東部教育 事務所	中学校	忍野中学校	集団とのかかわり の中で、自ら学び、考 え、進んで活動する 生徒の育成 ～日々の具体的な 実践を通じた開かれ た学級集団づくりを 目指して～		柱Ⅰ 学級集団づくりの基本(生徒の自治的な活動)について ○学級集団の高まりを目指した集団づくりについての実際・課題・疑問を率直に出し 合い、有効な手だてを明らかにしていく。(朝・帰りの会、係・当番活動 など) ○学級の表現活動の高まりを工夫し、生徒の思考力、表現力を含めた話し合い活動について学ぶ。(議長指導、プログラム委員会、班長会、教師の支援の方法 など) 柱Ⅱ 学級活動と行事とのつながりについて(学園祭、合唱発表会、各学年行事など) ○行事を通して集団や組織の意義や役割を明らかにし、行事を『集団づくり』の機会 ととらえる。 ○リーダーの発掘、リーダーへの指導、周囲を高める支援とその方法を探る。 ○行事や取り組みについての教師からの投げかけ 提案・実施・総括	
富士北麓・ 東部教育 事務所	中学校	道志中学校	自主性を高め、進ん で学習する生徒の 育成	思考力・表現力を 高める指導を通し て	【教科指導の研究】 本校の生徒の実態に即し、課題である思考力・表現力を高めるための研究を行う。 各教科ごとに思考力・表現力を高めるための授業を考案し、それを授業実践していく中で検証し、よりよい指導のあり方を研究していく。研究授業も年3回実施し、全職員で研究を深めていく。 【授業づくりの工夫】 教科の枠を越えて、授業の展開や授業形態・評価の方法等について学び合い、よりよい授業づくりを学び合う。 【パソコン研修】 夏季校内研究会を中心に、生徒の指導に役立ち生かせるパソコン研修を実施する	
富士北麓・ 東部教育 事務所	中学校	東桂中学校	学ぶ意欲を高める 学習指導のあり方	豊かに感じ、深く 考える学びの創 造をめざして	日々の授業実践の中で行われている個々の教師の「学ぶ意欲を高める」工夫を、全体で検証し確かなものにして共有していくことで、生徒の学びの質を「豊かに感じ、深く考える学び」へと高めていきたい。 そこで、次の内容に重点をおいた研究を推進していく。 (1)「基礎・基本」の定着と「わかる楽しさ」を引き出すための教科指導のあり方 (2)生徒の内面に働きかけ、実践力へとつながる道徳指導のあり方	初任者研修授業実習校

富士北麓・東部教育事務所	中学校	島田中学校	自ら学び、主体的に活動する生徒の育成	意欲的に学習に取り組む生徒・学習集団を育てる指導法の工夫	①学級満足度調査Q-U検査の持つ意味と意義の理解 ②Q-U検査の実施・分析・評価(5月と11月に実施) ③人間としての基礎・基本と各教科の基礎・基本をつけるための教師の指導法のレベル アップ a. 研究授業による授業の向上(教科・道徳・学活) b. 学級経営・学級指導のあり方の工夫(朝の会・帰りの会・清掃・給食指導)の研究 c. 生徒個々への指導の蓄積	
富士北麓・東部教育事務所	中学校	都留第二中学校	「居心地が良く、やる気のある学級集団づくり」	一豊かな心の育成と学力の向上を通して一	豊かな心を育む道徳教育と学力の向上を通して、居心地が良くやる気のある学級集団づくりを研究していく。Q-Uをした生徒のアセスメントとそれに適合した道徳教育・各教科の指導・特別活動を連動させて「実践」していく。実践は、学級集団・個人の分析を基にし、生徒の変容を観察・面接・調査の三方向から科学的に分析していく。成果のあった実践例を積み上げ、できる人の力を全職員の方にしながら、生徒や保護者	
富士北麓・東部教育事務所	中学校	都留第一中学校	自ら考え、たくましく生きる生徒の育成	心に響く道徳教育を目指して	(1)外部講師による道徳研究授業の実施…一昨年度「心に元気を育む道徳教育推進事業」の指定を受け、道徳教育の充実を図るための研究を進めた。今年度は3年目、まとめの時期として位置づけ、外部講師を招いての道徳授業に取り組む。 (2)講師を招いての学習会…教職員の力量を高めるため、講師を招いての学習会(学級づくり、教育相談等)を実施する。 (3)学級の取り組み実践発表会…日常の教育活動の取り組みにおける担任の願いや取り組み方法を発表し合い、お互いに学びあえる場とする。	
富士北麓・東部教育事務所	中学校	大月東中学校	豊かな学びから「確かな学力」の向上をめざして	学ぶ心と力の育成に焦点を当てて	①生徒一人一人の実態に応じた指導の一層の充実を図る a. 各種調査による生徒の実態分析 b. 「学びの時間」の運用 c. 学習チューター制度の活用 d. 学習規律の徹底 e. 家庭学習を含めた学習方法や学習の意義についての指導 f. 朝読書による国語力の向上 ②教員の実践的教科指導力等の向上を図る a. 基礎的・基本的事項の明確化 b. 評価方法の工夫と指導への反映 c. 指導過程の工夫や教材、教具の工夫 d. ALTの活用と、TTの効果的運用 e. 授業の積極的公開 f. 外部指導者による研修会	山梨県学力向上拠点形成事業 11月22日
富士北麓・東部教育事務所	中学校	大月第一中学校	心豊かに生き生きと主体的に活動する生徒の育成	道徳的実践力を育てる手だての工夫	(1)道徳の時間の充実に向けての研究 <input type="checkbox"/> 道徳教育全体計画の策定 <input type="checkbox"/> 道徳性検査の実施 <input type="checkbox"/> 年間指導計画に基づく授業実践 <input type="checkbox"/> 心のノートの活用 <input type="checkbox"/> 資料の収集・開発及び保存 (2)道徳の授業研究の実施と地域・保護者への公開 <input type="checkbox"/> 年間指導計画に基づく授業研究の実施 <input type="checkbox"/> 収穫祭における地域・保護者への道徳授業の公開 (3)教科・特別活動・総合的な学習の時間等における道徳的実践活動の推進 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力の育成 <input type="checkbox"/> 地域・保護者等との連携	心に元気をはぐくむ道徳教育推進事業 11月18日(土)
富士北麓・東部教育事務所	中学校	西原中学校	主体的に学ぶことのできる生徒の育成	評価を生かす指導方法の工夫	生徒一人ひとりが各教科の基本を身につけ、主体的に学ぶための基礎を作りあげて欲しいという願いから、授業実践を通して、基礎基本が身につけられる指導方法を探る。また、評価のための授業ではなく、生徒の学ぶ意欲が駆り立てられるような授業を実践していく中で指導と評価の一体化が図れる指導方法を工夫し、実践を重ねていきたい。	
富士北麓・東部教育事務所	中学校	上野原中学校	「確かな学力」を身につけさせる指導のあり方	学習意欲を喚起する指導形態・指導方法の工夫	知識の多少だけで学力問題を考えず、各教科で学んだ知識を実生活の中で生かしていけるよな、総括的な学力の向上を目指す。そのために、教科指導からせまることはもちろん、学年ブロックでの集団作りにも重点を置き、生徒が自由に意見を出し合えるような環境づくりにも力を入れる。本年度は特に、全教科で共通の研究内容として、「コミュニケーション能力の向上」を盛り込んだ。生徒自身の学習意欲を引き出すために「わかって楽しい授業」作りを目指し、全職員が研究に取り組む。研究授	

富士北麓・ 東部教育 事務所	中学校	上九一色中 学 校	自ら学び、考え、主 体的に行動できる生 徒の育成	『ことばの力』を育 み、基礎学力の 向上を図る	基礎学力の根底にあるのは『ことばの力』であると考え、本校生徒が 基礎学力をみにつけていくために、『ことばの力』に着目して研究をすす める。そのために、今どんな実態にある本校生徒に、どんな力をつけれ ばいいのかまず明らかにしたい。そして、毎日の教育活動でどんな取り 組みができるのかをさぐっていききたい。 そういう積み重ねによって、「生きて働くことばの力」がみにつき、各教 科の学習効果もあがり、 7 については思考力、判断力、表現力豊かな生徒	
富士北麓・ 東部教育 事務所	中学校	小菅中学校	生徒の生きる力を育 む教育課程の確立 を目指して	心豊かな生徒の 育成を目指した道 徳教育の実践を 通して	「生きる力」を育むために、道徳教育を充実させ、学校教育全体を通して 推進していく。地域人材や素材とのふれあい活動の中に、道徳的な心 情を培い、道徳的実践力を高めることを研究の中心とします。また、「生 きる力」広義の意味としてとらえ、道徳教育の充実とあわせ、各教科の 基礎基本の定着と向上、特別支援に関する学習を行っていく。 ①「心豊かな生徒」を育成するための道徳の授業のあり方の研究②生 徒の道徳的実態把握③道徳(研究)授業の実践④家庭・地域と連携した 授業づくり⑤各教科の基礎基本の定着と向上についての研究⑥特別支	(県)心に元気を育 む道徳教育推進校
富士北麓・ 東部教育 事務所	中学校	勝山中学校	自ら学ぼうとする姿 勢を育む授業のあり 方	主体的な活動を 取り入れた教科 指導と職業学習 の二面から	①教科指導の研究 それぞれが、自身の教科において、できるだけ生 徒主体となる活動を取り 入れた授業のあり方を研究し、実践する。全 員が研究授業を行い、互いに学び合う。 ②職業学習の研究 「総合的な学習の時間」の中での、1年生の働くこ との意義の学習から、 職業調べと発表会、2年生の校外学習の職場 訪問、夏休みの職業体験までを、系統立てて研究 する。1年生と2年 生で、それぞれ研究授業を行う。さらに、アポイントメントの取り方、イ ンタビューの仕方、礼状の書き方等の学習についても、国語力の向上の 観点から指導方法を考 える。 ③正しい話し言葉・正しい日本語がつかえるよう 授業を含む日常生活	
富士北麓・ 東部教育 事務所	中学校	秋山中学校	意欲的に学習する 生徒の育成を目指 して	指導方法や指導 形態の改善を通 して	意欲的に学習する生徒の育成のための第一歩として、一昨年度から朝 学習の時間を持ち、読書活動や漢字コンテストといった活動を行っ てきた。今年度は国語力の更なる向上のために昨年度までの実践をさ らに深めた研究を行っていく。また、本校では2・3年生において、選択 教科の時間を用いて、数学・英語の少人数習熟度別授業を行っている。 小規模校の特性を生かし、数学・英語担当を中心にそのTTとして、全教 職員があたり、よりきめ細かな指導を行う中で、個別支援や指導のあり	
富士北麓・ 東部教育 事務所	中学校	山中湖中学校	一人ひとりの人間と しての豊かな成長を 目指して	基礎基本の定着 と自ら学び自ら考 える力の育成、自 治的活動を基本 に据え自治能力 を高める生徒指 導へ	①自ら学び自ら考える力の育成 ②自治活動を高めながらよりよい生活 を営める力の育成 この2つを研究の柱とし、大きくは教科部会と生徒指導部会の2つに分 けて研究を進めていく。 教科部会では、担当教科ごとに生徒の学力に対する実態を把握し、そ れに即した教材研究を行う時間を確保する。また、より魅力ある授業展 開のため、TTを実施している教科では効果的なTTの活用法を考える。 担当教科はもちろん、担当教科や担当学年に関係なく、お互いの授業を 見せ合うことで授業研究を行い、より生徒にとってわかりやすい授業づく りを検討する。 生徒指導部会では、個人・学級・学年の生徒について情報交換を行い、 正しい生徒指導につなげる。常に生徒の現状での課題点を把握し、生 徒が個人や集団としてよりよい生活が営めるようになるにはまた、学年・	
富士北麓・ 東部教育 事務所	中学校	猿橋中学校	社会に生きる豊かな 心を持った生徒の育 成	生徒の実態をふ まえ、生徒の変容 を目指した教育活 動	生徒の道徳性について、教員の主観的評価・生徒自身の評価・客観テ ストによる評価の視点から分析し、本校生徒の道徳性に関する実態を 把握した上で、生徒に求めるべき道徳性(足りない部分・のばしたい部 分)を明確にし、理論的背景を備えた実践を試みることで生徒の変容を	(県)心に元気をは ぐくむ道徳教育推 進事業
富士北麓・ 東部教育 事務所	中学校	七保中学校	自ら学び行動する、 心豊かな生徒の育 成	～他者に対する 思いやりの心をも ち、人間関係を培 う道徳教育の充 実を通して～	道徳性適性検査や道徳教育アンケートを実施し、生徒の道徳性を知る 客観的資料や事後検証の資料として指導に生かしていく。また、学級担 任による道徳の研究授業を行ったり、講師を招聘しての学習会、他の教 師による道徳の授業の実践報告を行う予定である。さらに研究主題に 迫るために、学校の全教育活動の、どういう場面で、どういう時に心豊 かな生徒を育成していけるかという点を洗い出し具体的に焦点化してい きたい。以上のように、道徳教育を推進し、自己受容、自己理解、自尊 心を育て、学校教育活動全体の中で生徒一人ひとりが活躍できる場や 機会を増やし、より望ましい人間関係を築いていけるように職員一丸と なって、実践していく。また、勤労生産学習推進校に指定されていること から、愛校作業の充実や、PTAとも連携し花いっぱい運動を行うなど学 校教育目標の中の「勤学を尊び、進んで奉仕する生徒」の育成に重点	(県)勤労生産学習 推進校

富士北麓・東部教育事務所	中学校	河口湖南中学校	「自ら学び続ける生徒の育成」	学びの意欲につながる評価と指導方法の工夫	指定されている「国語科と保健体育科」を中心に、全教科で理論、実践研究をしていく。特に「指導と評価の一体化」を探る。全職員の共通理解をはかりながら、「適切な評価」によって、生徒が学びの成果を実感できるよう、研究や工夫をして、仮説の検証にあたる。 ・ねらい(学習到達目標)の明確な授業づくり(指導)と評価の在り方を、年間指導計画の作成も含めて研究する。 ・意欲向上への教材開発をする。 ・家庭と学校を結ぶ連携の在り方を探る。 ・実態に応じた指導方法や指導形態の工夫について研究する。 ・Q-Uアンケートを実施し、考察し、対応をしていく。 ・相互に授業を公開し、指導と評価の研究を深める。 ・具体化するために、専門的な研究部(指導と評価研究部、資料研究部)を設置する	学びの意欲向上推進事業 11月8日
富士北麓・東部教育事務所	中学校	河口湖北中学校	確かな学力の向上を目指した授業の工夫	分かる授業・楽しい授業の創造を目指して	①「確かな学力」育成のため、授業の導入の工夫、学習形態の工夫、指導内容の工夫と改善を図る。 ② 指導と評価の一体化を目指し、各教科で評価についての研究を進める。 本年度は授業の工夫と改善をテーマに、各教科でそれぞれ研究授業を行う。指導案には教師が単元をどのようにとらえ、どのような力を身につけさせたいのか、またそれらをどのように判断し、評価するかをふまえて指導案を作成してもらい、それぞれの授業者の授業の工夫などをお互いに学びあう。また、評価については生徒に学習内容や学習目標を明確にし、フィードバックを充実させることにより自己学習力の育成が目標	
富士北麓・東部教育事務所	中学校	吉田中学校	周りとの関わりの中で自らを振り返り、たくましく生きようとする生徒の育成	日々の活動にいきる道徳授業の構築と、道徳的実践活動の創造をめざして	本校における生徒の道徳の実態を明らかにする中で日常的に行われている活動を道徳的視点で再構築する。さらに、その実践活動を日常の道徳授業の中に生かす。その際、心のノートの活用や地域の人材を生かした授業をめざす。また、家庭・地域の連携の視点で有効な活動を洗い出し、活動を再構築する。研究の推進にあたっては部門別の研究や学年での研究を効果的に組み合わせていく。部門ごとの研究の推進機関および調整機関として研究企画委員会を設置し、研究を進めていく。	(県)心に元気をはぐくむ道徳教育推進事業 指定校 10月21日
富士北麓・東部教育事務所	中学校	巖中学校	豊かな心を持ち、生き生きと主体的に学ぶ生徒の育成	「確かな学力」の向上に向けた取組	本校では、文部科学省より平成15・16年度に研究指定を受け取り組んできた「一枚ポートフォリオ評価法」(山梨大学教育人間科学部 部長堀 哲夫先生考案)の取り組みを今年度も継続して研究することとした。 また生徒指導に関わる問題への対応について、スクールカウンセラーから講義及び指導・助言していただく機会を設定することにより、学習面	
富士北麓・東部教育事務所	中学校	下吉田中学校	自ら学び、考え、活動する生徒の育成	認め合い、鍛え合い、高め合う民主的な学級づくりをめざして	1. 学級づくりの基礎基本を学ぶ 2. 行事と学級活動とのつながりを明確にすることを通して、集団や組織の意義と役割を明らかにしていく 3. 講師の先生を招請し、学級づくりについて学ぶ 4. 授業研究により、民主的な学級づくりについて検討し学習する	
県立・市立	高等学校	甲府第一高校	進路実現をめざした自主的な学習態度を養成する指導方法の研究		前年度の研究主題の主眼を継承しつつ、本年度はさらに具体的な実践を試みる。シラバスの活用を一層推進し、生徒の家庭学習や事後学習のしるべとして自主的な取り組みを促す。また、観点別評価と学習シラバスの一体化の構想にも取り組んでゆきたい。新課程導入後4年目を迎え、指導内容も確立した感のある総合的な学習の時間だが、生徒の主体性や進路意識をさらにのばす工夫を追求する。	
県立・市立	高等学校	上野原高校	観点、関心・意欲・態度の具体的評価方法	0	平成17年度に各教科にて評価規準を作成し、ホームページに登載した。 今年度では、評価規準を具体的に研究しようとなり、観点の中でも模索している関心・意欲・態度について指導・評価できるように研究推進していくことになった。 研究過程では、各定期試験での評価について研究を推進していき、教科・科目で統一できる指導・評価ができるようにしていきたい。 また、平素の授業評価だけでなくペーパーテストでも評価できるような設問があれば見つけていきたいと思っている。 年度末には、関心・意欲・態度の具体的な評価規準と生徒の様子(行	豊かな体験活動推進校
県立・市立	高等学校	山梨園芸高校	農業専門高校における特色ある教育活動の実践	生徒一人一人を生かす取り組み	学習に対する苦手意識やその他様々な問題を抱える生徒が多い。そこで本校で実施している様々な体験活動や部活動、各教科科学科での学習活動を通じて、生徒が持つ課題を克服し、主体的な態度を育むために、学習活動、体験活動の創意工夫を行う。	

県立・市立	高等学校	白根高校	確かな学力をつける指導のあり方	各教科における授業改善の取り組みと、インターンシップ等の多面的な教育活動を通じた学習意欲の向上	授業改善を目標として、①授業研究 ②シラバスの活用 ③課題の工夫を3つの柱として、各教科で実践的な研究を行う。また、「インターンシップ」や「朝の読書」など学習意欲を高め、望ましい学習態度を育成するための取り組みを継続し、学力向上に向けた指導体制の確立を図る。	「知のパイオニア推進事業(確かな学力推進事業)」
県立・市立	高等学校	峡南高校	より実行性のある評価基準の作成	授業改善に結びつく評価基準の作成	各教科で作成された評価基準について、授業改善に結びつき、より実行性のあるもの変えていく研究を継続して行う。生徒と教師が共に活用できるシラバスの作成と授業形態や生徒の実態に即した評価法・評価材の工夫を通して、評価基準を再考する。	(国)みんなの専門高校プロジェクト推進事業、(県)進路指導研究推進事業
県立・市立	高等学校	身延高校	評価規準に基づいた観点別評価の実践		昨年度作成した評価規準に基づいて、観点別評価を次の手順で実践していく。①定期テストの予想範囲から、学習状況を観点別・評価方法別に配当計画する。②生徒個人の観点別評価割合(到達度)の表を作成する。③これらの結果から、指導法・評価方法などを考察する。	(国)ふれあい福祉・ボランティア活動推進事業
県立・市立	高等学校	桂高校	命の大切さを学ぶ体験活動	0	文部科学省指定の「命を大切さを学ぶ体験活動」研究指定校。命の大切さを学ばせることを目的とする。1命の大切さを学ばせる体験活動の導入の在り方及び教育課程への適切な位置づけについて 2命の大切さを学ばせる体験活動のプログラム及び指導法の開発について	(国)「命の大切さを学ぶ体験活動」
県立・市立	高等学校	中央高等学校	一人ひとりを生かす学習指導に努め、自主自律の精神の育成に努める。	○生徒一人一人に応じた授業のあり方を研究する。 ○生徒一人一人が学校生活に前向きに取り組むことができる環境作	公開授業研究月間を年間二回設け、授業研究を推進する。夏休みに生徒指導に関わる講演会を実施し、生徒の集団場面における指導、個別指導のあり方などを研究する。	
県立・市立	高等学校	谷村工業高校 定時制	生徒が自ら考え、行動するための自主性・積極性を育成する総合的な学習の時間への取り組み		昨年度に行われた国語力向上のための取り組みを一段階進め、本年度は各教科の授業の成果をもとに、新聞等から記事・論説・コラムなどを適宜使用し、作文作業を行うことによって、本校生徒が自ら考え、行動していくための自主性や積極性を発言等を通して養うことを	
県立・市立	高等学校	吉田高校	国語力の育成および向上	研究事例の検証と応用	平成18年度の国語力育成推進事業の研究指定校として、平成16年度・17年度の研究事例の検証をすすめていく。国語力を「確かな学力」の基礎となる「読解力」また「表現力」と位置づけて学校全体で取り組む。 特に、国語・数学の2教科と図書館を利用した学習を、研究の中心とし	平成18年度国語力育成推進事業研究指定校
県立・市立	高等学校	甲府南高校	新しい時代を切り開く道筋としての南高活性化	0	19年度高校入試から総合選抜制度が廃止され、本校も全県一学区の高校になるにあたり、教育活動を充実させるための様々な取り組みが必要であると考えられる。特に、高校の特色化が叫ばれる中、本校として何ができるか、様々な方向から研究を行う予定である。	スーパーサイエンスハイスクール 平成19年2月5日
県立・市立	高等学校	韮崎工業高等学校	「確かな学力」を育成するための取り組み	0	「わかる授業」推進のために、アンケートや授業公開を通して、指導方法、教材、指導形態の工夫と改善に努める。また、生徒の進路希望を実現するために「個に応じた指導」のあり方を研究して、「確かな学力」を育	(県)知のパイオニア推進事業
県立・市立	高等学校	富士北稜高等学校	規範意識の向上と基礎的・基本的な学力の定着を図る	0	各教科・年次・分掌などの教育活動を通して、規範意識の向上を目指すとともに、基礎的・基本的な学力の定着を図る。また、授業公開週間を設定し、指導と評価の研究を深める。	交通安全教育実践地域事業
県立・市立	高等学校	甲府城西高校	進路実現や生きる力のための確かな国語力の育成		高等学校における国語力育成についての平成16・17年度に作成された研究事例をもとに、「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、指導法の実践を行う。国語力を進路実現や地域社会の中で生きる力(コミュニケーション能力)としてとらえ、教育課程全体で実践することにより確かな国語力を身につけさせることを目標とする。	(県)国語力育成推進事業
県立・市立	高等学校	石和高校	魅力ある石和高校を目指して		これまで石和高校では、生徒の学習活動や部活動、そして生活指導に全教職員をあげて熱心に取り組んできた。近年、徐々にその成果が、進学実績や部活動での各種大会入賞、学校内外でのあいさつの活発化等、目に見える形で現れ始めている。そこで、本年度はこれまでの各教科及び各学年、各分掌での石和高校ならではの取り組みをまとめ、振り返るとともに、さらなるステップアップにつながるよう改善を図る。そして、このことにより、全県一学区入試に対応できる、魅力ある石和高校	

県立・市立	高等学校	葦崎高校	自ら考えて行動できる生徒の育成	基礎学力の定着と社会の一員として生きる力の育成	教育の基礎・基本の原点に立ち、基礎学力を定着させ、その学力をもとに発展的に物事を考える力や、学校、家庭、社会の中で人間として豊かに生きるための基礎力を身につける指導方法について、各教科・分掌ごとに小テーマを立てて研究する。	
県立・市立	高等学校	都留高等学校	「確かな学力」の向上を図ることで生徒1人1人の進路希望を実現する。	ほとんどの生徒が進学を目指している本校において、今まで行ってきた様々な学習指導・進路指導を有機的に結びつけることで円滑化、効率化を図る。そのために昨年度の実践をふまえ、それに基づく改善策の研究と	I わかる授業を推進するための取り組み ①家庭学習の充実の研究 ②シラバス及び観点別評価法の工夫改善 ③年次間の各教科における指導の共通理解の確立 II 個に応じた指導のあり方の研究実践 ①昨年度の学習研究委員の報告書を基に、その課題に取り組む。 III 学校の指導体制のあり方について研究実践 ①生徒の学習意欲を喚起させる工夫 ②キャリアガイダンスの実施 ③カリキュラムの検討	(県)知のパイオニア推進事業
県立・市立	高等学校	甲府商業高校	自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる能力の育成		シラバス並びに評価規準を生徒・保護者に提示するとともに、「指導と評価の一体化」の観点から授業改善を行う。「わかる授業」を前提とした、やる気を喚起し、自ら学ぶ意欲を育てる授業を目指し、教師自らが授業を自己点検するとともに、教師同士の共通理解を図りながらの指導の工夫・改善を行う。具体的には授業アンケート及び教員同士の校内授業公開を実施する。校内授業公開はボトムアップ型の授業改善を目指すもので、指導主事訪問における授業研究とは別に、平時のさまざまな形態の授業を各自の自発的な問題意識の下、観察し合うものにする。	
県立・市立	高等学校	甲府西高等学校	①65分授業の効果的な運用について ②シラバスの改善について		昨年導入された「65分授業」は、教師・生徒とも好評であった。今年度も引き続き、その効果的な運用について、各教科を中心に授業研究を行う。また、これと平行して、シラバスの改善についても、評価方法と合わせ、指導と評価の更なる一体化を目指す。	国語力育成推進事業
県立・市立	高等学校	大月市立大月短期大学附属高校	自ら学び、自ら考える力を育成する指導のあり方に関する研究		各教科・科目の学習指導を通じて、以下のような研究を行う。 1) 生徒の興味・関心・能力などの実態を把握する調査・研究 2) 各教科・科目での必須項目の明確化と、これらの項目の完全習得を目指す指導方法研究 3) 観点別評価を織り込んで、生徒の自主的・主体的な学習を評価する方法の研究 4) インターンシップの導入及び展開に関する手法の研究又それにとまなう生徒指導のあり方	
県立・市立	高等学校	谷村工業高校	生徒一人一人に基礎的・基本的学力を定着させ、主体的な学習態度を育成するための研究	反復学習と生徒の実態に即した指導の工夫	・各種検定試験に積極的に取り組み、課外、補修などを有効に使って、一人一人にきめ細かい指導を行う。 ・全校一斉漢字検定試験に向けて、SHR等を使って漢字の練習に取り組ませる。 ・生徒の実態に即して習熟度に合わせた授業と課外を行う。	
県立・市立	高等学校	北杜高校	生徒のモチベーションを高めるアクション	学習の質の深化を目指して	全職員が教科指導、教科外指導の2領域で、生徒の動機付けを高める「具体的な取り組み」を行う。前期終了時にその結果を検証し、改善策を講じて後期に更に実施し目標達成を目指す。実施計画、最終報告を校内職員で検証し、個々の取り組みを共有する。	
県立・市立	高等学校	ひばりが丘高等学校	個性・創造性・自律心に富む心豊かな人づくりのための学校づくりの研究	一人一人の生徒の可能性を引き出すための教育	本校において、個性・創造性・自律心に富む心豊かな人づくりのためには、生徒の実態に即した本校独自の教育環境の整備が必要不可欠である。生徒の自律心を育み、落ち着いた学校生活を送れるような授業環境と学校行事などの整備について研究する。	
県立・市立	高等学校	市川高校	分かる授業、個に応じた指導による確かな学力の育成 学力向上に向けた指導体制の確立		(1)「確かな学力」を身につけさせるための、生徒の基本的な生活習慣の確立 学習習慣や生活習慣が確立されて初めて進路学習の動機づけが成り立つ (2)「分かる授業」の推進 授業の改善と教材のあり方。教師相互の授業公開(参観)と研究協議 (3)家庭学習習慣の確立 そのための「課題」内容の研究と提供の方法 (4)個に応じた指導のあり方 習熟度別生徒への対応のあり方 (5)学習シラバスの作成と生徒への提示	(県)知のパイオニア推進事業

県立・市立	高等学校	山梨高校	「各教科における評価計画と評価方法の研究」～評価の実践例～		昨年度から取り組んでいる各教科における評価研究を更に発展させるため、2年目の継続研究となるようにした。目的としては、各教科における単元ごとの「具体的評価規準」を完成させ、それぞれの評価実践例を数値レベルで検証できることとした。各教科内において、指導目標、指導内容、評価規準と実際の評価との比較をし、課題を探ることができるようにした。本校の生徒の実情に合った評価規準と評価方法のあり方に	
県立・市立	高等学校	甲府昭和高校	知のパイオニア推進事業研究「確かな学力の向上」にむけて取り組むために「分かる授業の実践」に努めるが、その効果をより高めるために「生徒の家庭学習の習慣化を定着させる」ことを主たる目的		知のパイオニア推進事業は今年、完成年度なので教科・分掌・学年ごとの研究主題に基づいて研究をしています。	知のパイオニア推進事業
県立・市立	高等学校	巨摩高校	教育活動の改善を目指した指導方法と評価の工夫に関する		各教科及び各分掌で①実態に即した教育目標を明確に設定する②評価方法を工夫する③評価結果を分析し、教育活動の改善を目指す、以上の3点に留意しながら研究主題に取り組む。	
県立・市立	高等学校	富士河口湖高校	分かる授業・効果的な授業の推進	分かりやすいシラバスや学習評価表を通じて	各教科・分掌・学年と連携をはかり、共通理解をもって、分かる授業・効果的な授業を研究し推進する。そのため生徒が有効活用できる教材の研究を行い、生徒にとって分かりやすいシラバスの作成につとめる。学習評価表を使い、生徒自身に授業内容の理解度を確認させると同時に、授業研究の参考とする。効果的な課題を作成し、家庭学習の習慣	
県立・市立	高等学校	農林高校	農林高校での3年間をとおして育まれる生徒のキャリア意識の形成について	生徒の学年進行に応じた、適切なキャリア教育プログラムの開発	①生徒の望ましい職業観や勤労観を育成すること ②職業に関する知識や技術を身に付けさせること ③自己の個性を理解した上での主体的進路選択能力・態度を育成すること ①から③の目標を達成するために必要な「生徒支援の効果的な方法について研究する活動」を、校内に別に設けた研究組織にて実施する。研究組織は、「生徒の集団または個人を対象にした指導」(学習指導や生徒指導)と「生徒の進路についての意識の発達や進路の決定について」(インターンシップや日本版デュアルシステム、総合的な学習の時間)の二つに大別され、学年進行で効果的に生徒のキャリア形成が行われるよう様々な取り組みを行う。	専門高校等における「日本版デュアルシステム」推進事業(文部科学省)11月22日
県立・市立	高等学校	日川高校	生徒一人ひとりの進路実現のための学力向上の指導法、及び指導体制の在り方の研究		生徒一人ひとりの進路実現を図るために必要な基礎学力を的確に捉え、それを定着するための指導のあり方を確立させることを目的として研究を進める。根幹となる指導の改善、指導形態、指導体制、指導目標と評価の関係、進路ガイダンスのあり方、優れた能力を有する生徒に対する発展的な学習指導等について、研究を深めていく。また、教育方針である文武両道をいかに達成させるかという観点から適切な部活動のあり方を考えていきたい。昨年度まで文科省から指定を受けていた「学力向上フロンティア事業」で推進してきたことを更に深化発展させることを通じて、校内の学習指導体制を確かなものとし、単位制高校として更	
県立・市立	高等学校	増穂商業高校	生徒の基本的な生活習慣を確立しつつ、意欲的な学習態度を育成することを旨とした研究		本校はH17まで「学力向上フロンティアハイスクール事業」の指定校として、特に、学習指導に焦点を当てた研究を進めてきた。この研究を通して意欲的に学習に取り組ませるためには、生徒に基本的な生活習慣を確立させる必要性を痛感した。そこで、今年度は、「生活指導」と「学習指導」の一体化を図ることで生徒が有意義な学校生活を送ることができるような研究に取り組んでいきたいと思う。生徒指導に関する研究という生徒指導部だけの研究という考え方をしがちであるが、各分掌をはじめ、各教科など学校の教育活動全体でそれぞれ課題を取り	
県立・市立	高等学校	塩山高等学校	「知のパイオニア推進事業(確かな学力向上推進事業)生徒一人一人の習熟度に応じた密度の濃い指導の実践を継続する中で、確かな学力を定着させ、自己実現を図るため	「自ら学び、理解し、発表する力と表現する力」をつける授業実践	本校では、知のパイオニア推進事業の指定を受けて、①分かる授業②個に応じた指導③学力向上に向けた学校の指導体制に関する取り組みを実施してきた。①については授業形態や指導方法の工夫・改善、教材の開発・改善等、また授業公開週間を設定して、教師の授業力の向上を目指した。②については生徒一人一人の習熟度に応じた指導方法や体制の工夫・改善を行った。③について校内で組織づくりをした上で全体研修会等を実施して、周知徹底を図った。学年や分掌、教科それぞれ具体的目標を設定し、中間発表や研究紀要としてまとめた。	県 知のパイオニア推進事業 平成19年2月6日 教育センターでの発表
県立・市立	高等学校	甲府東高等学校	すべての生徒が基礎基本を身につけ、自ら考え・自ら学ぶための指導の研究	思考力・判断力などの「学力」の向上を目指した授業の改善と指導の	これまで取り組んできた学力向上を目指した教育研究・実践を検証し、継続的な教育活動とするための工夫・改善を行う。H18・・・年間指導計画および個々の実践内容について検証し、課題を明確にする。	<学力向上拠点形成事業の指定校> (国・予定・申請中)

県立・市立	特殊教育諸学校	かえで養護学校	一人ひとりの生きる力を伸ばす支援のあり方	一人ひとりの力を伸ばす、よりよい授業づくり(小学部) 生徒が主体的に活動できる支援のあり方について(中学部) 自ら選択・決定し、表現する力を養う支援のあり方	小学部では児童の課題を整理し明確にすると共に個や集団に応じた授業のねらいや支援内容・方法を検討し、授業実践と検討を繰り返すことによりよりよい授業や支援方法の確立を目指す。 中学部では生徒一人ひとりの実態把握を的確に行い、これからつけさせていきたい力を共通確認し、主体的に活動するために必要な力とは何かを明らかにすると共に、そのための支援のあり方を授業実践を通して検証する。 高等部では生徒一人ひとりが学校生活において目標となる具体的内容を考え、取り組むための支援のあり方を探る。 このように学部ごとの研究を充実させ、全体研究会等で全校での共通理解を図っていく。	
県立・市立	特殊教育諸学校	ろう学校	確かな言語力を育てるために		本校では、文化審議会答申の提言(これからの時代に求められる国語力)や、やまなしの教育基本計画重点施策2における指針(国語力の向上)、これまでの本校実践課題等をふまえ、昨年度より研究テーマを新たに設定した。子ども一人ひとりの言語力をいかに育てることができるのかを考え、指導内容・方法の工夫を目指して研究を進めてきている。今年度は、基礎学力の向上を目指した各教科における基盤となる言語力の育成、心を耕すことばの獲得、人と人との関わり・関係性におけることばの獲得などを目指して研究を深めていきたい。幼児児童生徒一人ひとりを見つめた言語的な課題を解決するための指導内容・方法を発達段階や適切な環境、新たな視点からも考え、授業実践・生活実践を核としながら具体化し、確立していきたく考えている。また、我々教師が何を目的として、ことばを指導したり支援したりするのかということも考え	
県立・市立	特殊教育諸学校	甲府養護学校	一人一人が輝く授業をめざして	児童生徒の自立をめざし、よりよい授業実践をさぐる	テーマ別研究グループにわかれ、授業の「計画ー実践ー評価」のサイクルの確立をめざした取り組みを行う。1集団授業2概念形成3国語・算数4AT機器の活用5保健6給食7寄宿舎の研究グループにわかれる。研究授業等を充実させ、よりよい授業づくりを目指す。	
県立・市立	特殊教育諸学校	県立わかば養護学校	教育課程の検討～実践を柱とした特色ある学校作りをめざして～	0	教育課程編成上の問題について理論的実践的に検討し、課題を明らかにして教育実践の改善・充実を図るという目的を掲げ、本年度の校内研究は、これまで培われてきたわかばの学校教育の特性、指導内容・指導方法などについての専門性や蓄積されたノウハウを整理したり、見直したりしながら、更に職員一人一人がなお一層、知識や資質を向上させる機会になることを目指したい。そして、一人一人が教育の専門性について自信を深めることで、特色ある学校づくりに、更に地域への貢献、地域に根ざした教育活動につなげたいと考える。 本年度の研究方法は、「ことば・かず」「自閉症」「軽度発達障害」「進路」「肥満指導」「寄宿舎の生活指導」など12のテーマ別グループを設定して、広い分野にわたる研究を進める。グループの特性に応じて事例研究や文献研究など方法は多岐にわたる。中間報告、実践報告会を実施	
県立・市立	特殊教育諸学校	やまびこ養護学校	小中高等部および寄宿舎の特性に応じた指導のあり方		小中高等部においては、学部の現状を考慮に入れ、学部研究主題を設定して研究協議を行っていく。寄宿舎においては、舎生の自立を目指した指導のあり方を研究内容とする。	
県立・市立	特殊教育諸学校	富士見養護学校	子どもの心を育てる支援のあり方	心に響く授業の実践をめざして	心に響くような授業を教師と児童生徒と一緒に創造することを心がける。次の①～③が研究内容である。 ①各教科、道徳、特別活動、自立活動並びに総合的な学習の時間における授業内容の精選と企画の見直しを進める。 ②各教科、道徳、特別活動、自立活動並びに総合的な学習の時間における授業の工夫をおこなう。 ③指導方法の工夫、学習形態・指導体制の工夫、資料・教具の工夫、評価の工夫をおこなう。 これらを中心に、授業実践を積み重ねて、全体研究会においては実践レポートを作成して報告会をおこなう。	
県立・市立	特殊教育諸学校	富士見養護学校旭分校	家族関係と心理的発達の視点による事例の分析から支援方法を考える		心身症や精神疾患を伴う不登校(在籍児童生徒)の事例研究を8～9ケース予定している。その他に発達の学習会、カウンセリング・対人関係演習を行う予定である。 事例研究は以下の流れで行う。研究会に先立ち研究員全員が対象児童・生徒に対し行動観察を行う。事例研究担当が集めたデータを大まかに整理し、生育歴や不登校に至る経過を添えて出す。研究会では出されたデータをもとに個々の事例を分析し、家族関係を含めた生育歴や行動現象を心理的な発達段階の視点から検討し、発達段階のどこのあたりでつまづいているのかを考える。見えてきた課題をふまえ、自己肯定感の芽生えを促しエネルギーを貯め外界に向かう力が育つことをねらい、支援方法と支援体制を検討する。事例によって、外部講師(アドバイザー)の招聘を行う。年度末に、事例担当のまとめをもとに支援の結果	

県立・市立	特殊教育諸学校	山梨県立盲学校	特別支援教育への移行を検討する	専門性の向上をめざして	本校では、平成16年度より「特別支援教育への移行を検討する」という主題のもと、県内1校の盲学校として果たすべき役割を3カ年計画で研究している。これまでの取り組みから、本校が特別支援教育を実施するために最も必要な項目は「専門性の向上」であると確認することができた。また、学部研究においては、在籍の幼児児童生徒への支援を通しながら、外部支援への内容や方法について検討を進めている。その取り組みからは、他機関との連携や各機関との連絡・調整を行っていくコーディネート力についてが課題として挙げられている。このような研究	
県立・市立	特殊教育諸学校	あけぼの養護学校	個々の児童生徒の実態に応じたより良い教育的支援のあり方を探る～発達をふまえた安全な食事指導に焦点を当てて～		今年度は、あけぼの医療福祉センターの併設校から隣接校へと体制が大きく変わる変革の年に当たる。特に、大きな変化の一つとして食事指導が挙げられる。現在食事に配慮が必要な児童生徒は全校児童生徒数の半数近くにのぼり、これらの児童生徒を含めてこれまで同センターで行われていた食事指導が9月より全て学校側に委ねられる。この移行を安全にかつスムーズに行うために、本校では摂食指導のための研修や研修会を7月まで毎月計画し、実施している。 そこで、今年度の研究では、より安全に食事指導を行うために、教員が摂食指導の技能を高め	
県立・市立	特殊教育諸学校	ふじざくら養護学校	教育集団としての専門性の向上をめざして		昨年12月「特別支援教育を推進するための制度の在り方」が中教審より答申されたことにより、今後これに記された目的、内容をどのように達成していくかが特殊教育諸学校の大きな課題となる。特に「地域におけるセンター的機能の発揮」は、全校体制での取り組みが求められる。我々は、特別支援教育のプロである。その幅広い特別支援教育の中でもある分野のスペシャリストになることを時代は求めている。そこで、これまで学部主体で進められてきた研究体制を分野毎に分け、今後の養護学校及び教師に求められる機能・資質を担保できるような取り組み	
その他	小学校	山梨大学教育人間科学部附属小学校	夢…未来を拓く子どもたち	自分づくりマネジメントができる子どもたちの育成ー2年次ー	<研究の目標>教科、道徳、総合的な学習の時間が連携して、「夢」を抱き、未来を拓くために、自分づくりマネジメントができる子どもたちを育成するためのカリキュラムづくりを行い、学年の発達段階における、そのプランの有効性を検証する。 <研究のポイント> ○学年の発達段階に応じて、「自分づくりマネジメントができる子どもの姿」を明らかにする。 ○「小学校におけるキャリア教育」のあり方を明らかにする。	(1)「キャリア教育を考える」公開学習会6月3日 (2)「子どもたちのキャリア発達における就学期教育のあり方」公開学習会ー講師：無藤隆先生8月18日 (3)初等教育公開研究会ー全体会講師：渡辺三枝子先生11
その他	中学校	山梨大学教育人間科学部附属中学校	かかわりを見いだす活動を重視した授業を創造する	学習内容の関連性に焦点をあてた教材研究と授業づくり	各教科で、かかわりという言葉キーワードに生徒達にしっかりと理解させる授業づくりを目指し、教材研究を行う。その上で具体的に実践授業のなかで、そのかかわりを生徒自らがみいださせるような活動を行い、生徒の様相をもとに分析し、評価する研究である。	本校中等教育研究会 11月11日
その他		山梨大学教育人間科学部附属養護学校	よりよく生きる豊かな生活のためのコミュニケーション	児童生徒からの発信に視点をあてた「支援」を考える	昨年度は、教師の発信に視点をあてて、研究を進めてきた。今年度は、児童生徒の発信に視点をあてて研究を進める。児童生徒の発信は、身振り手振り、表情、発声、発語などが考えられるが、児童生徒の伝える気持ちを大切にしながら、受け手に伝わる児童生徒の発信を考える。それは「今ある力を使って児童生徒がいかに伝わりやすく発信できるのか」、「教師がいかに児童生徒の力を引き出すのか」を考える研究であり、「教師の受信力を高められるような」、「教師の資質向上」をねらった研究でありたい。また実践を通して「児童生徒の発信」のためのよ	平成19年2月3日 公開研究会